

長久手市市民意識調査 調査結果報告書

令和5年3月

長久手市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	市民調査.....	2
(1)	男女共同参画に関する用語について.....	2
(2)	男女平等意識について.....	4
(3)	仕事について.....	22
(4)	ワーク・ライフ・バランスについて.....	33
(5)	結婚、子育てについて.....	46
(6)	DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	50
(7)	性の多様性（LGBTQ等）について.....	63
(8)	行政の取組について.....	72
(9)	ご自身について.....	77
2	中学生調査.....	80

I 調査の概要

1 調査の目的

第4次男女共同参画基本計画（長久手市女性活躍推進計画及び長久手市DV防止基本計画を含む）の改定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

市民調査：長久手市在住の満18歳以上の方の中から、2,000人を無作為抽出

中学生調査：市内の中学2年生

3 調査期間

令和4年10月31日から令和4年11月18日

4 調査方法

市民調査：郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

中学生調査：学校配付・学校回収方式

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市民調査	2,000 通	655 通	32.8%
中学生調査	655 通	470 通	71.7%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

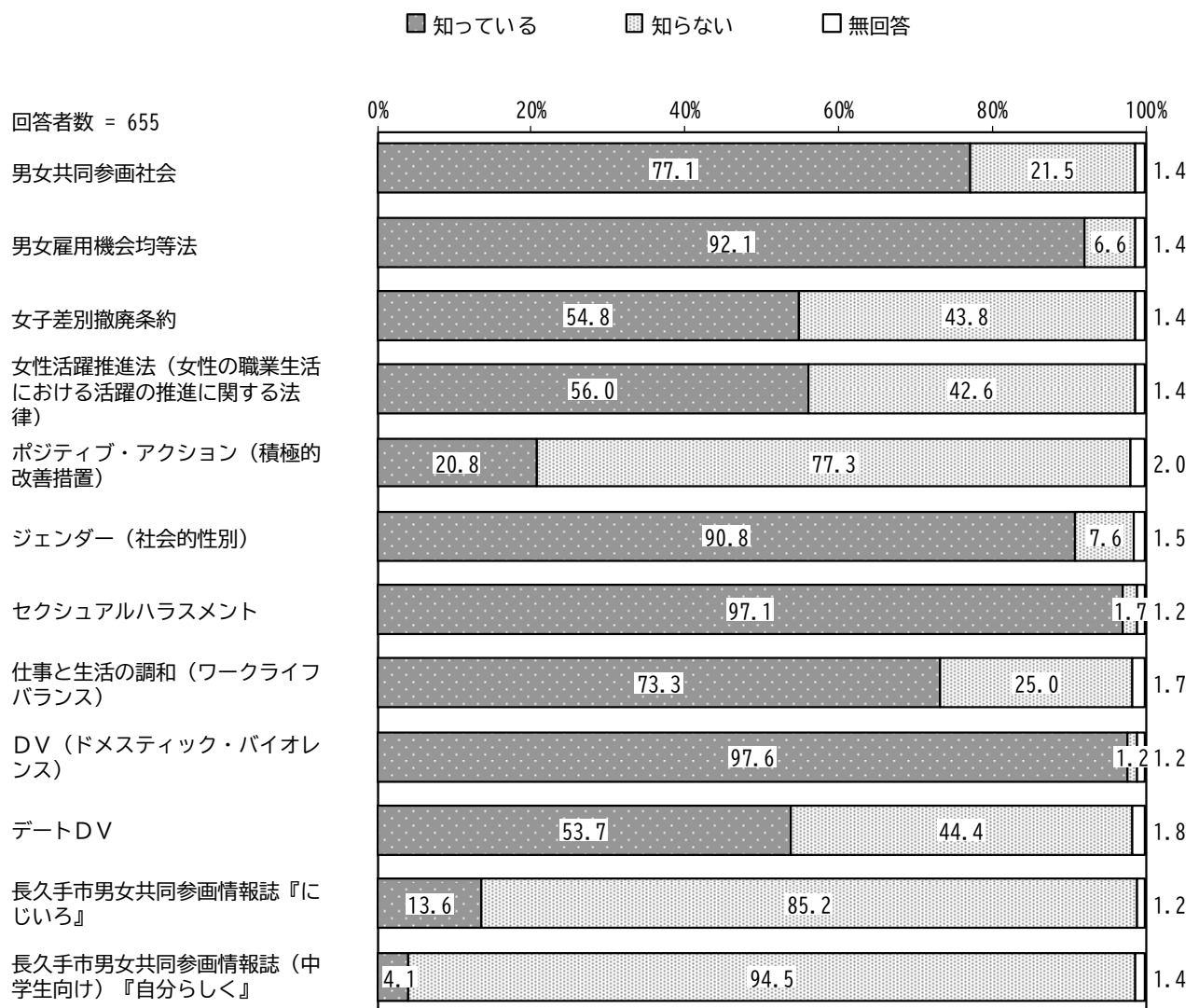
Ⅱ 調査結果

1 市民調査

(1) 男女共同参画に関する用語について

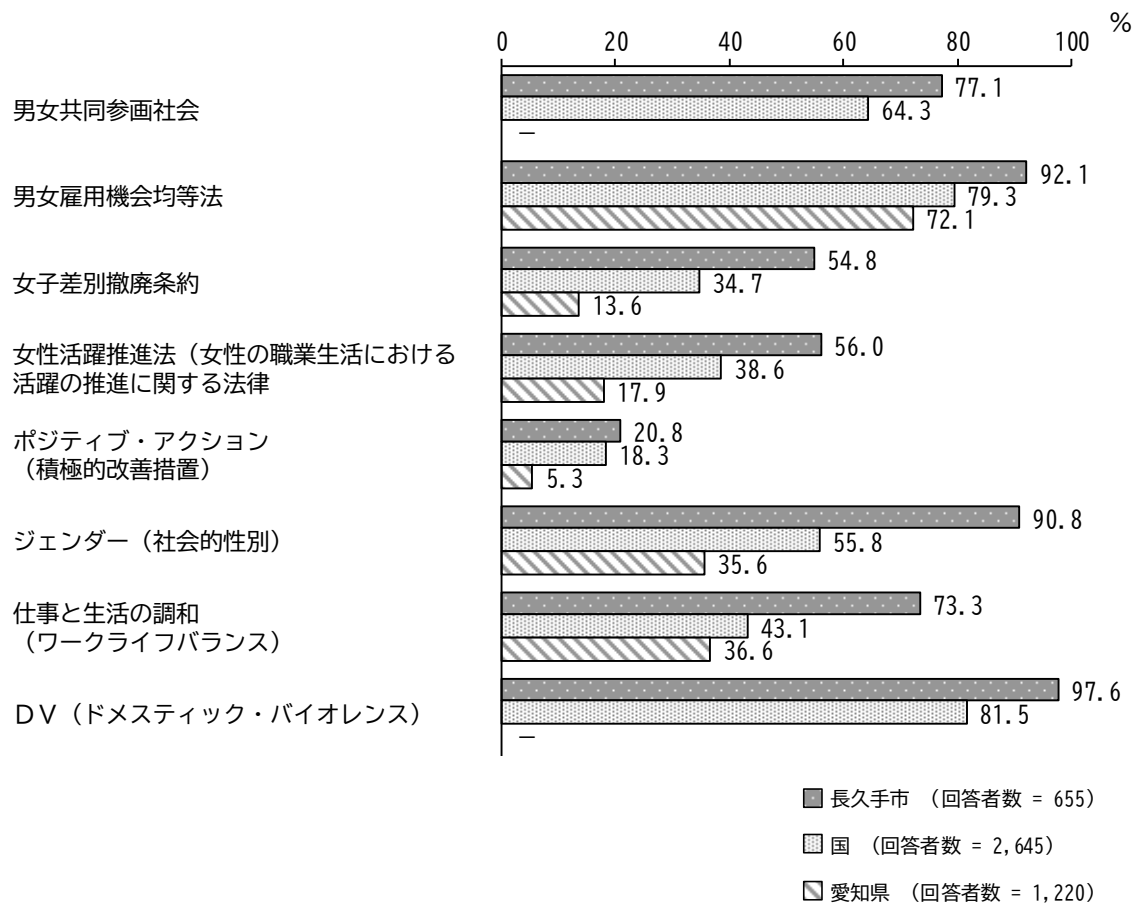
問1 男女共同参画に関する用語で知っている言葉について、回答してください。
(それぞれの言葉を知っている場合は1に○ 知らない場合は2に○をつけてください)

『男女雇用機会均等法』『ジェンダー（社会的性別）』『セクシュアルハラスメント』『DV（ドメスティック・バイオレンス）』で「知っている」の割合が高くなっています。また、『長久手市男女共同参画情報誌『にじいろ』』『長久手市男女共同参画情報誌（中学生向け）』『自分らしく』』で「知らない」の割合が高くなっています。



【国・県調査との比較（知っている割合）】

国、愛知県調査と比較すると、すべての項目で「知っている」の割合が高くなっています。



※国：令和元年度男女共同参画社会に関する世論調査
 愛知県：令和元年度男女共同参画意識に関する調査
 （以下同様）

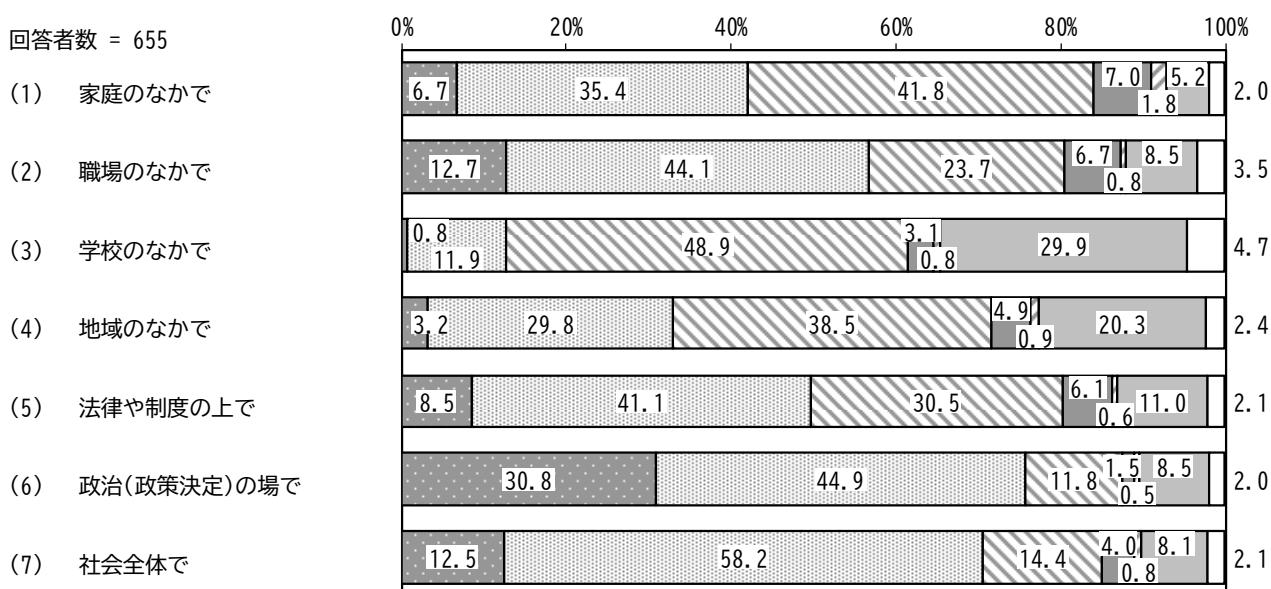
(2) 男女平等意識について

問2 あなたは、次の(1)～(7)の分野において、男女の地位が平等になっていると思いますか。1～6から1つずつ選んでください。(各分野で○は1つ)

『(6) 政治(政策決定)の場で』『(7) 社会全体で』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『(3) 学校のなかで』で「平等である」の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▤ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▤ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

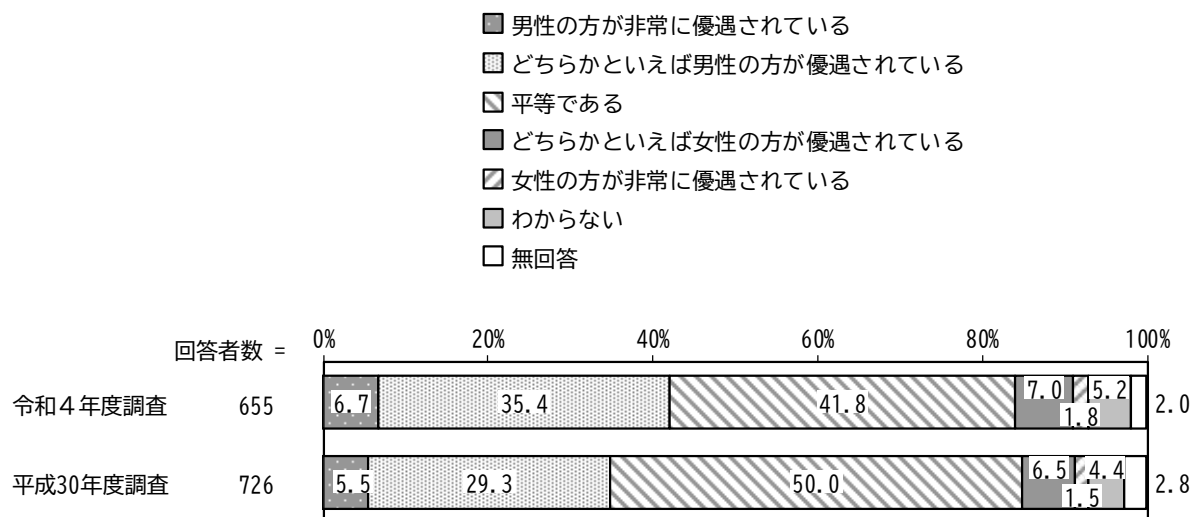
回答者数 = 655



(1) 家庭のなかで

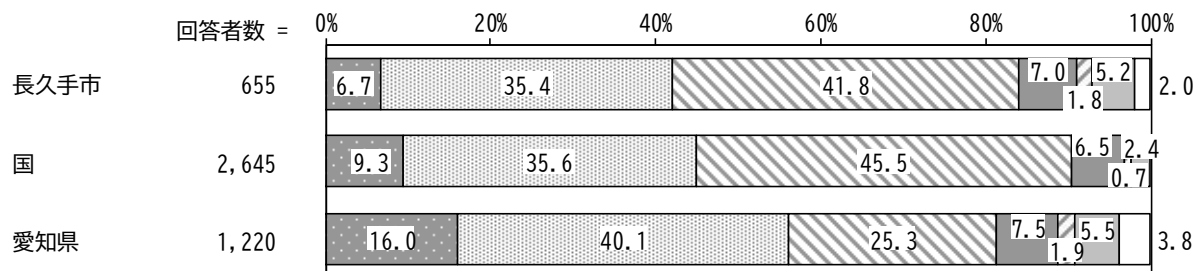
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。一方、「平等である」の割合が減少しています。

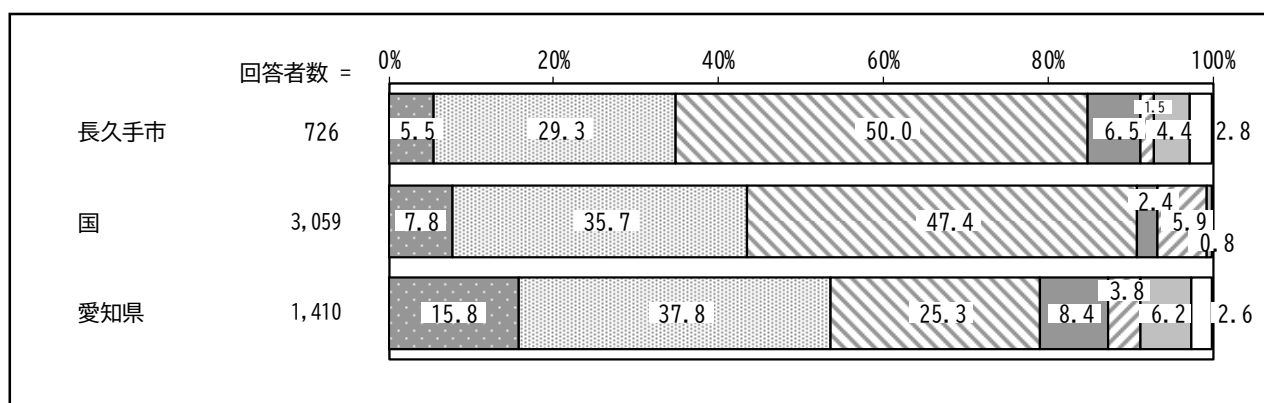


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、“男性優遇”の割合が低くなっています。

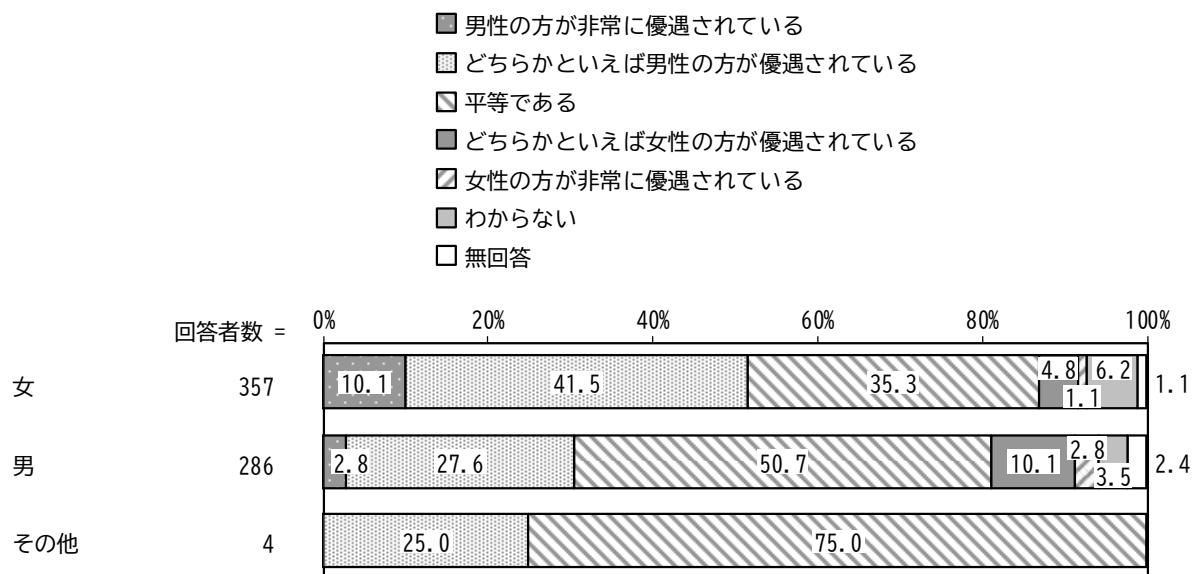


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



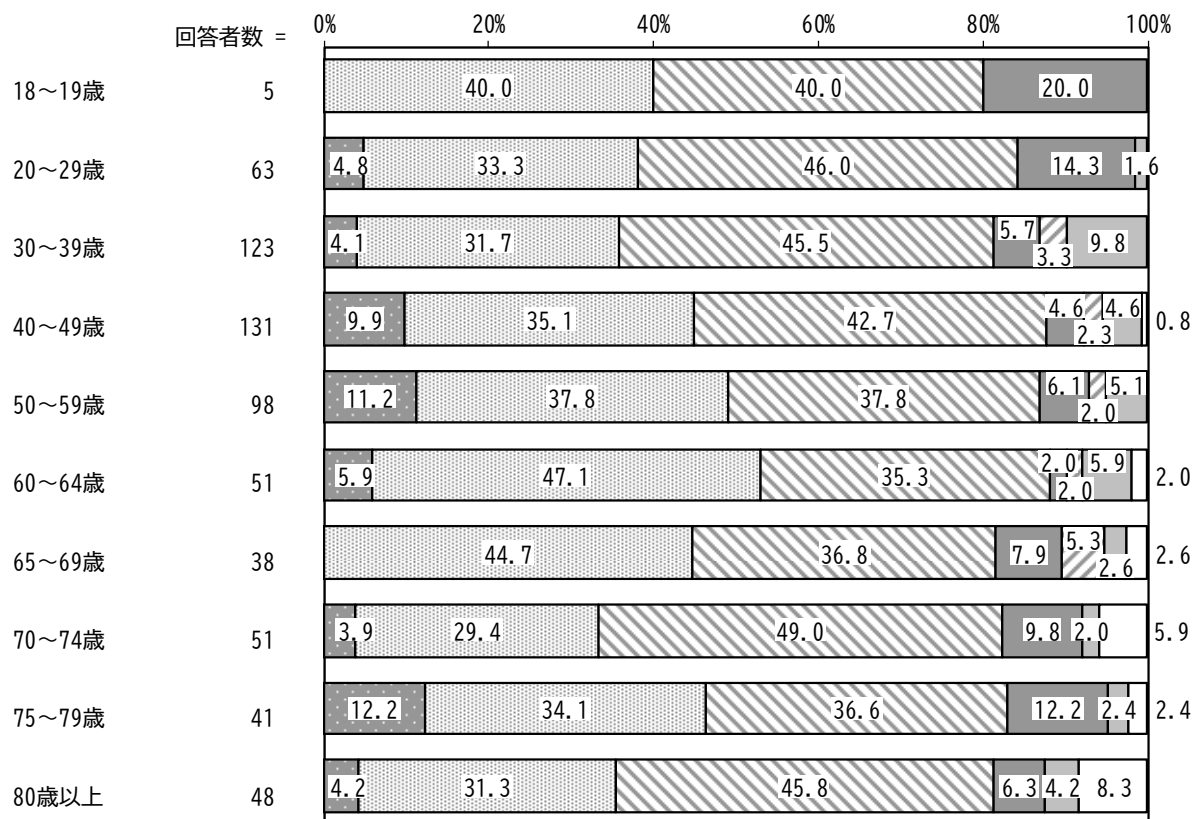
【性別】

性別にみると、他に比べ、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

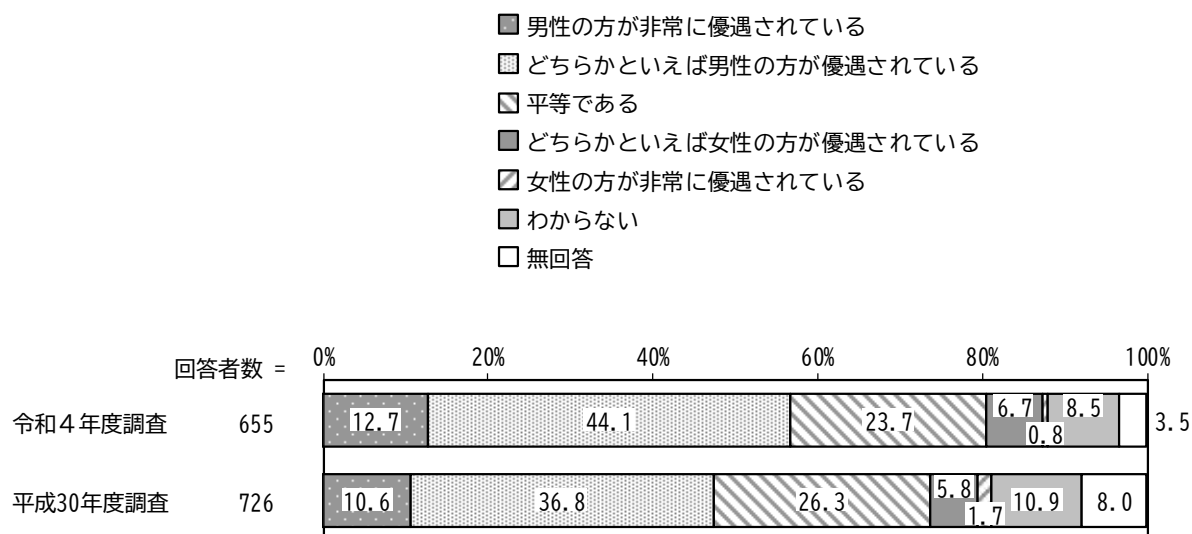
年齢別にみると、他に比べ、50～64歳で“男性優遇”の割合が、70～74歳で「平等である」の割合が高くなっています。



(2) 職場のなかで

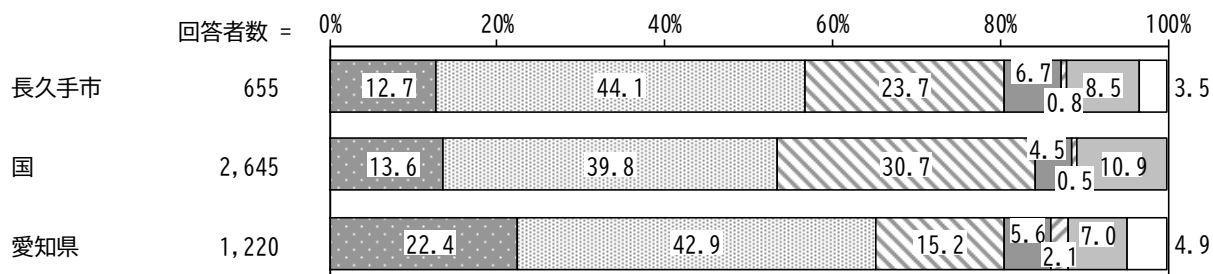
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。

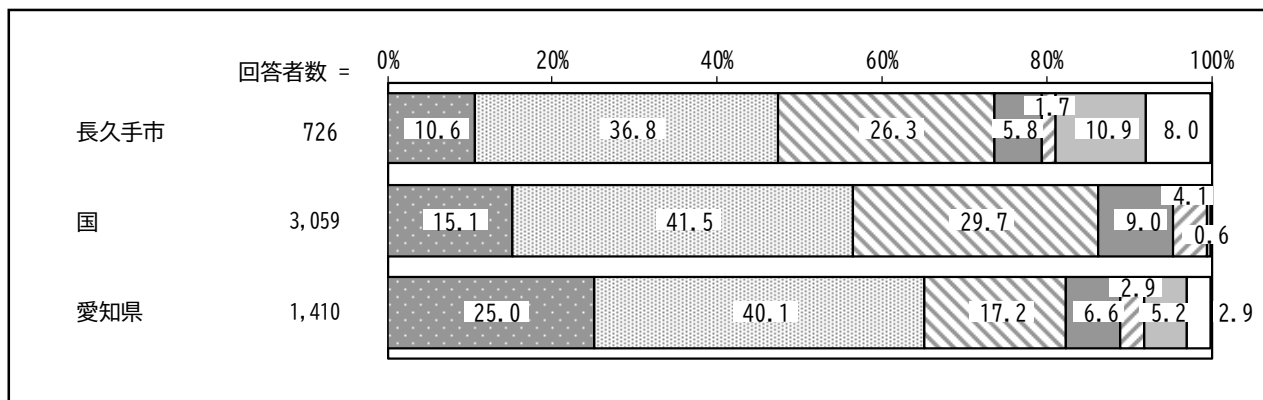


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、“男性優遇”の割合が国より低く、愛知県より高くなっています。

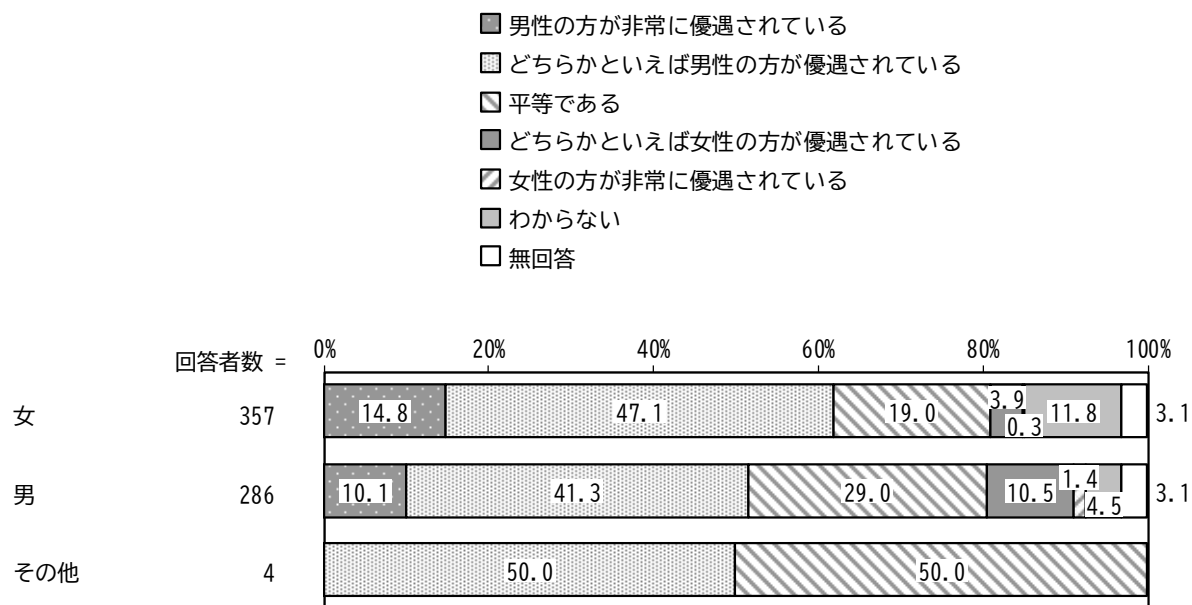


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



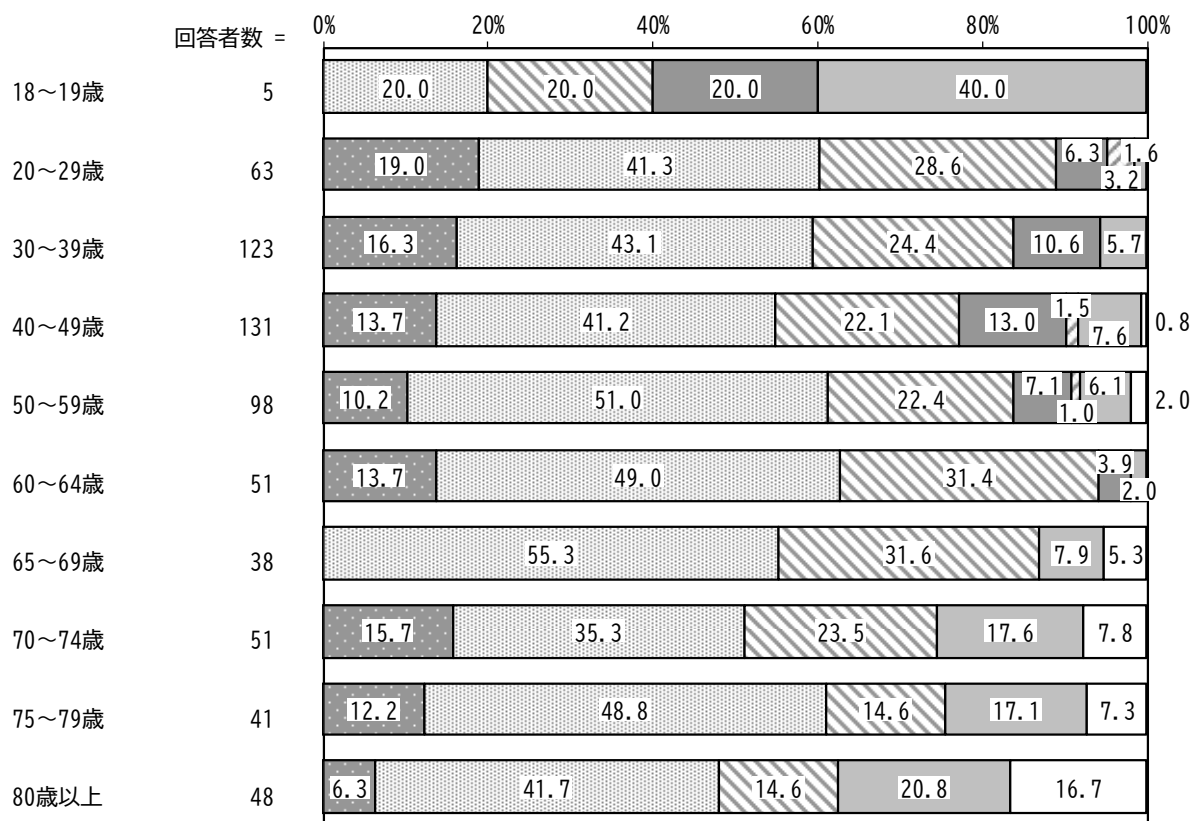
【性別】

性別にみると、他に比べ、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

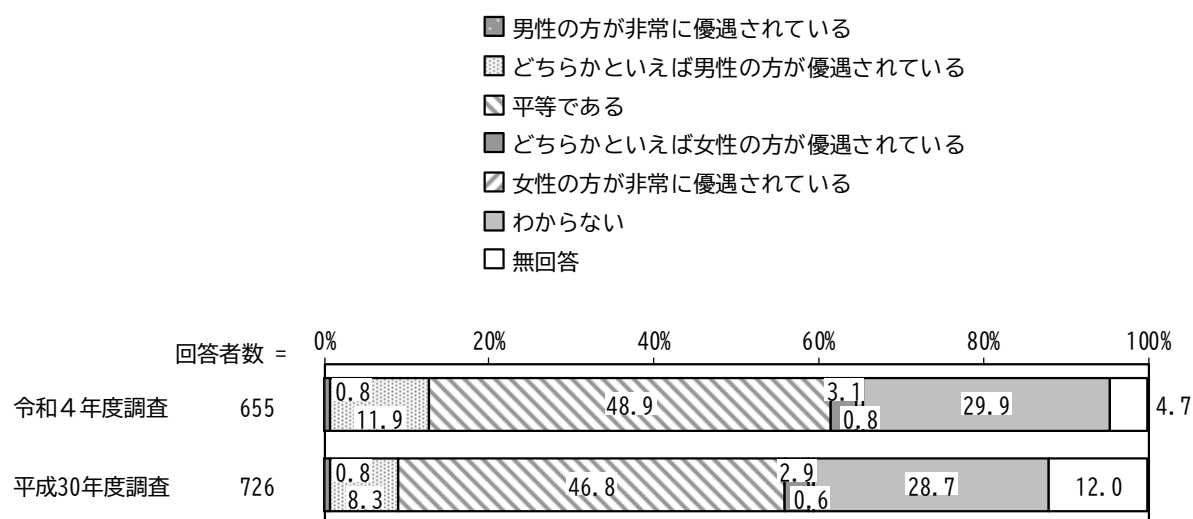
年齢別にみると、他に比べ、20～64歳、75～79歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。



(3) 学校のなかで

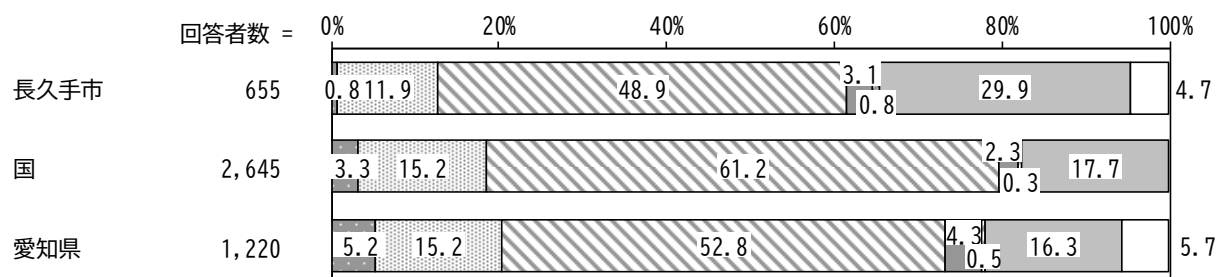
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

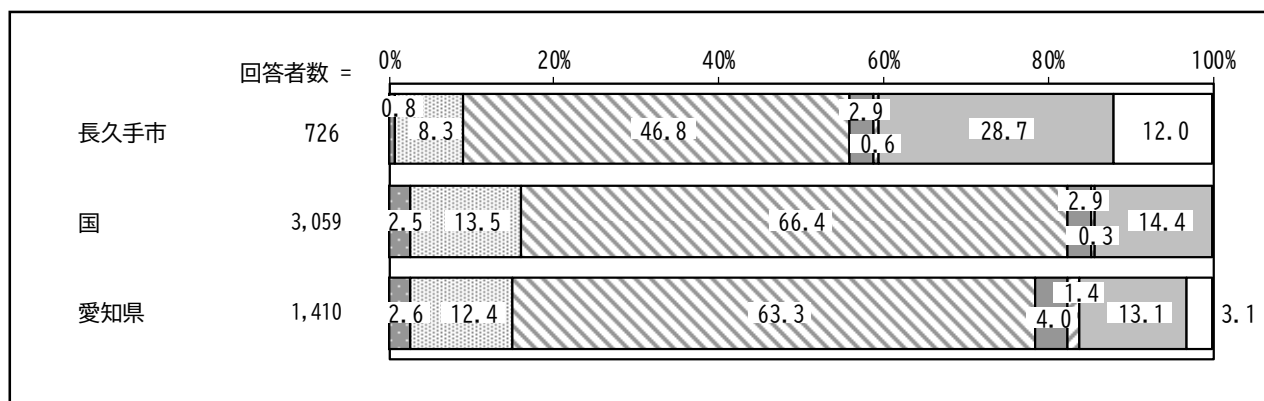


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。

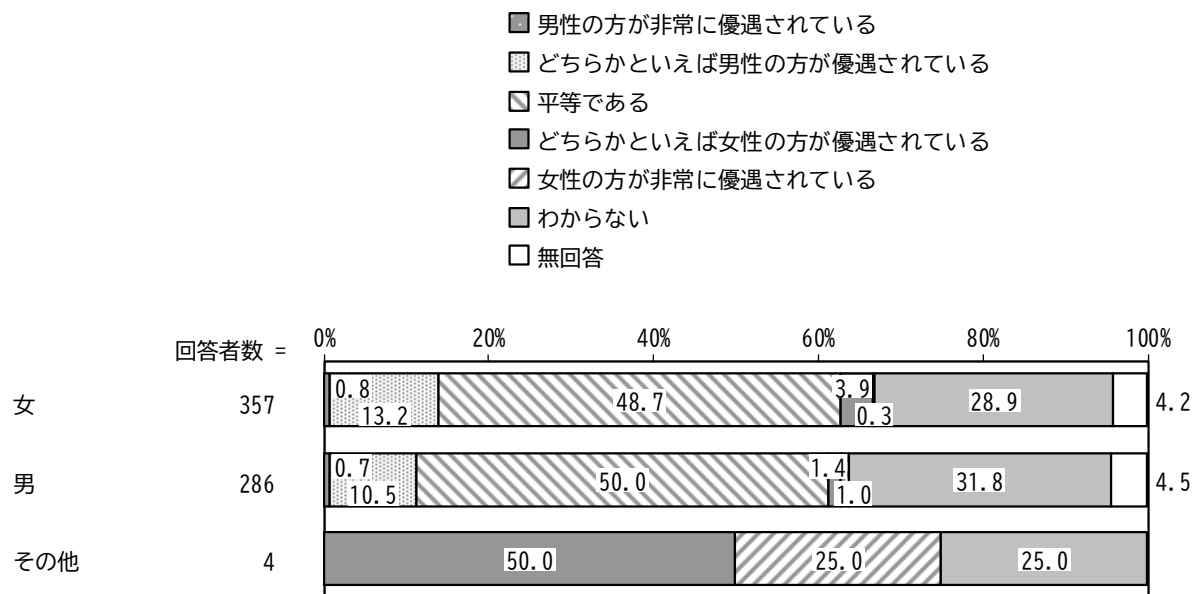


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



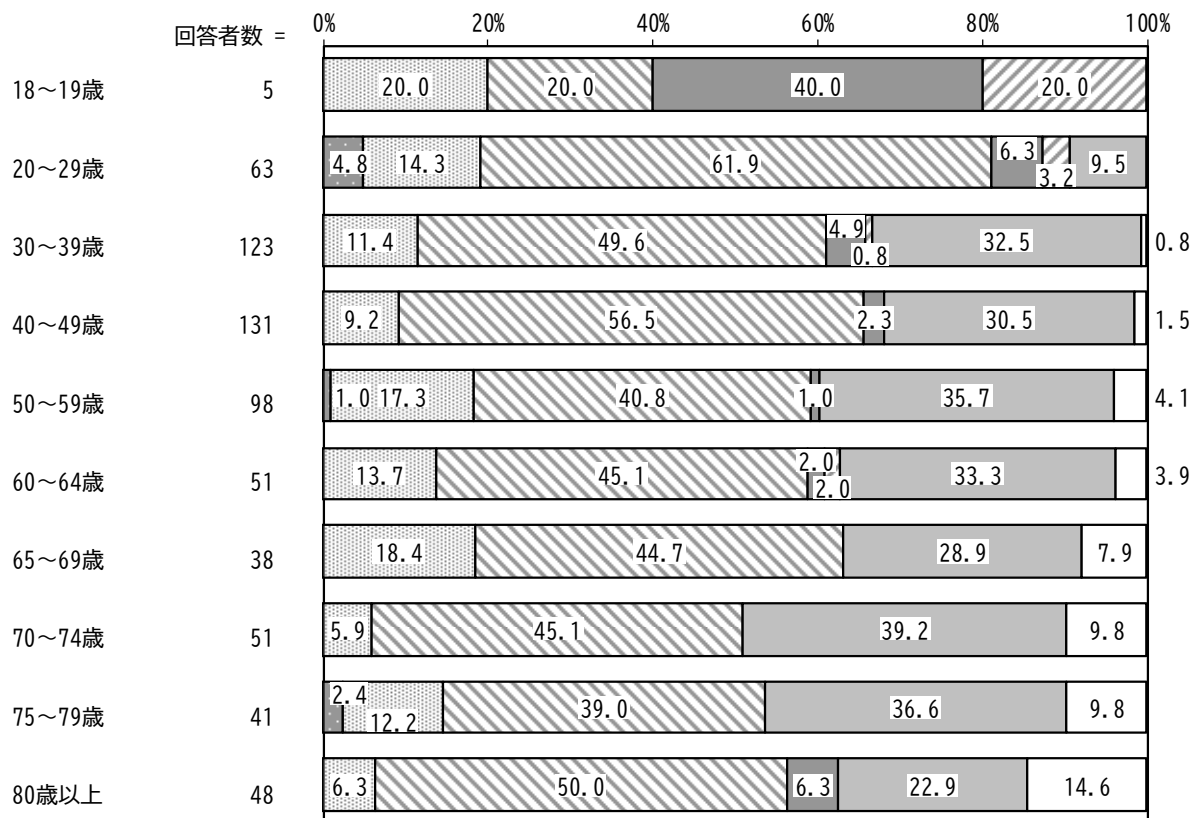
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

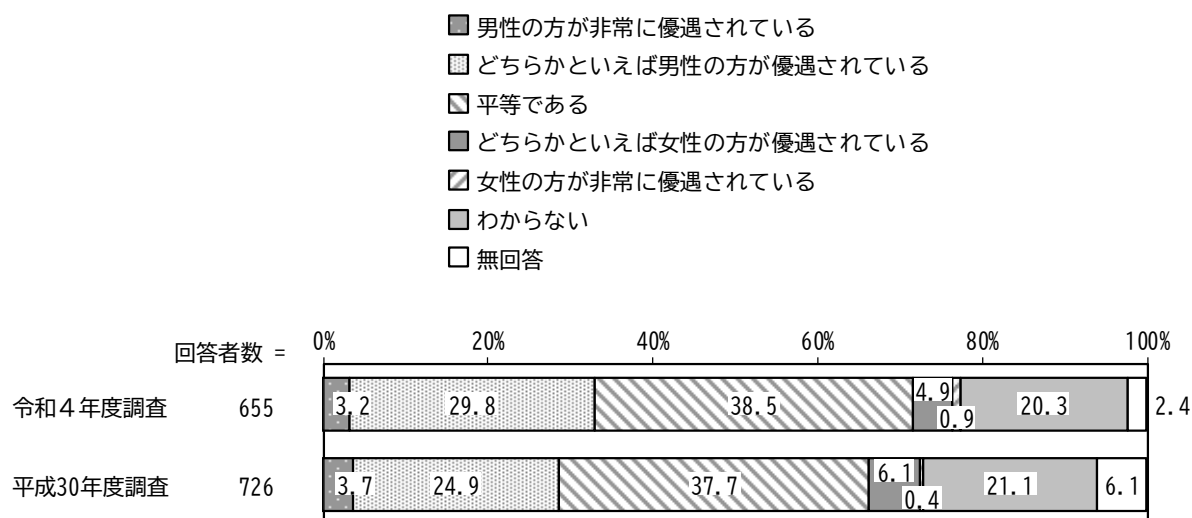
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳、40～49歳で「平等である」の割合が高くなっています。



(4) 地域のなかで

【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

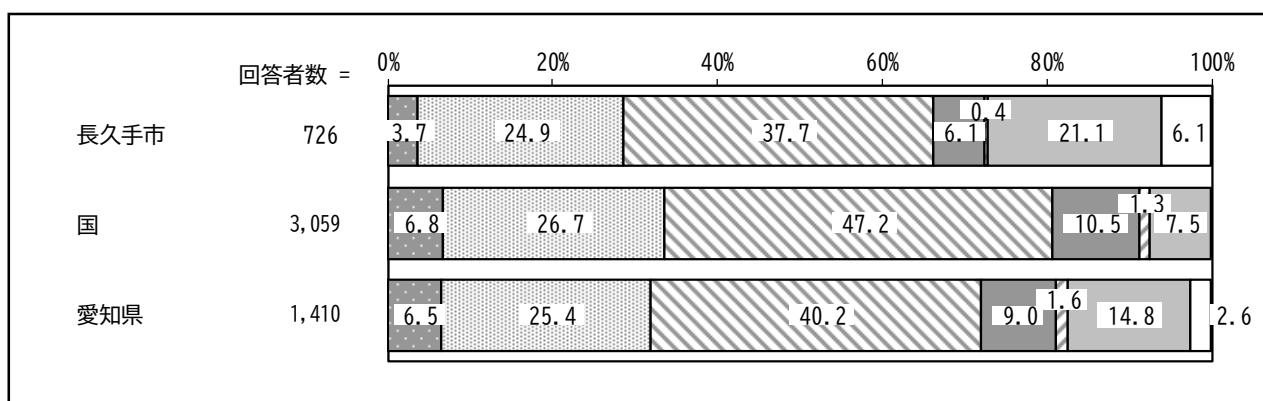


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「平等である」の割合が国より低く、愛知県より高くなっています。

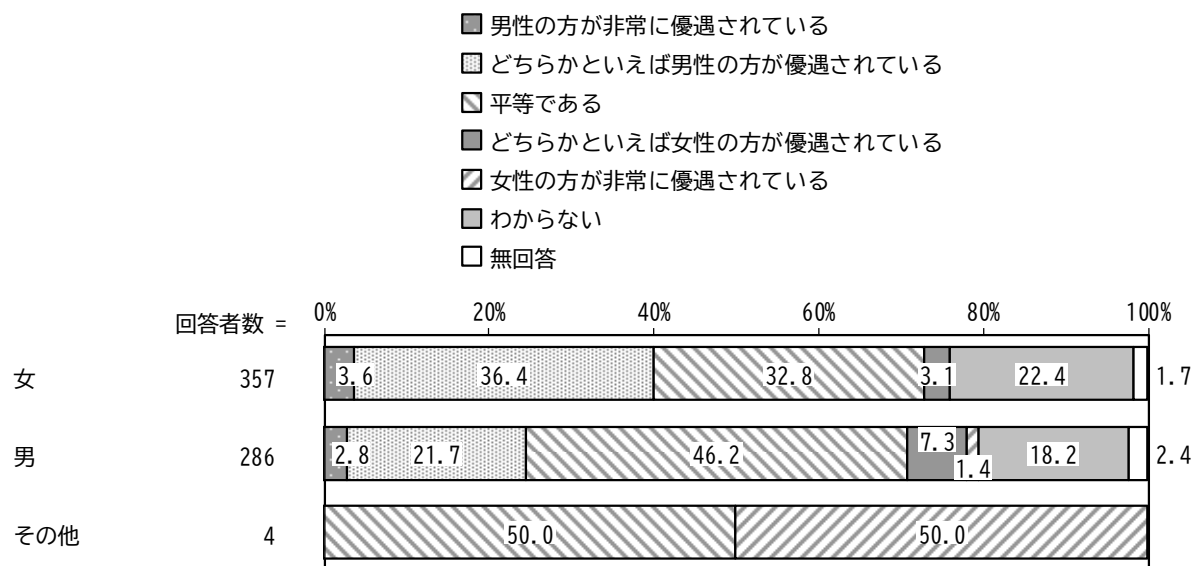


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



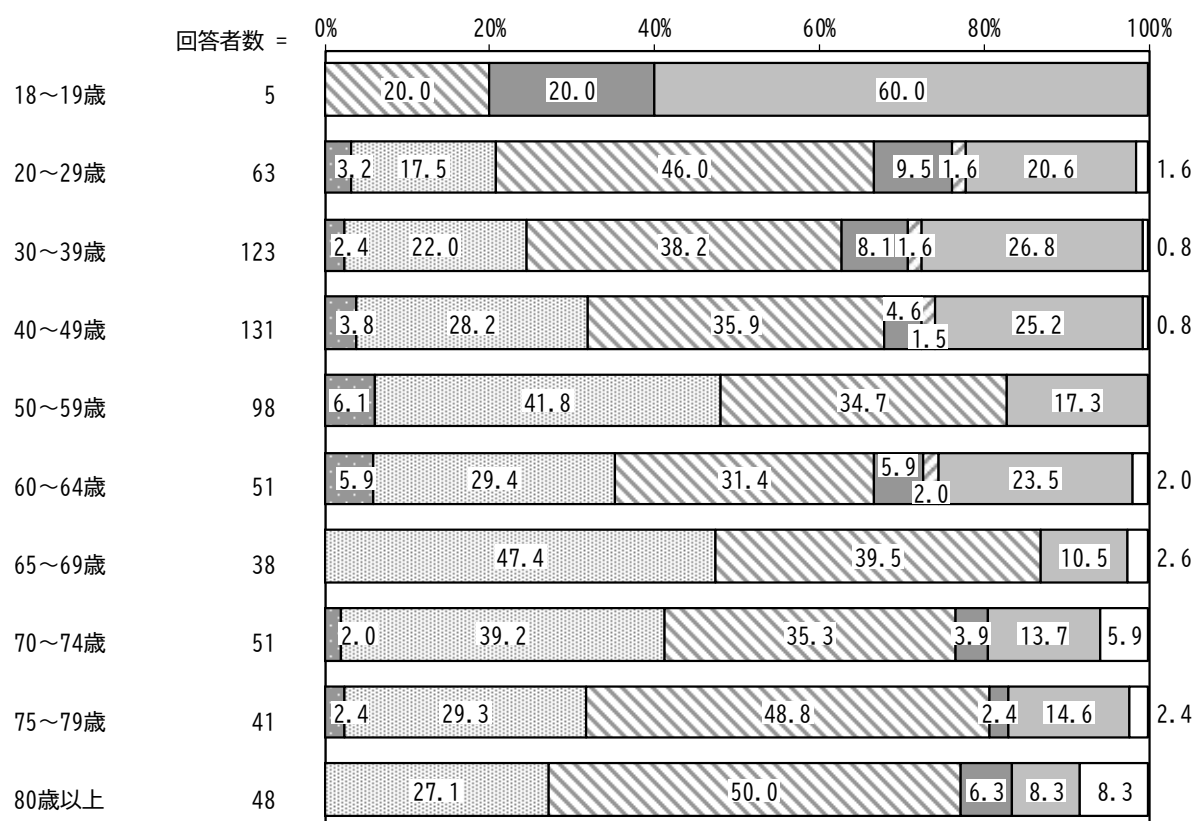
【性別】

性別にみると、他に比べ、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

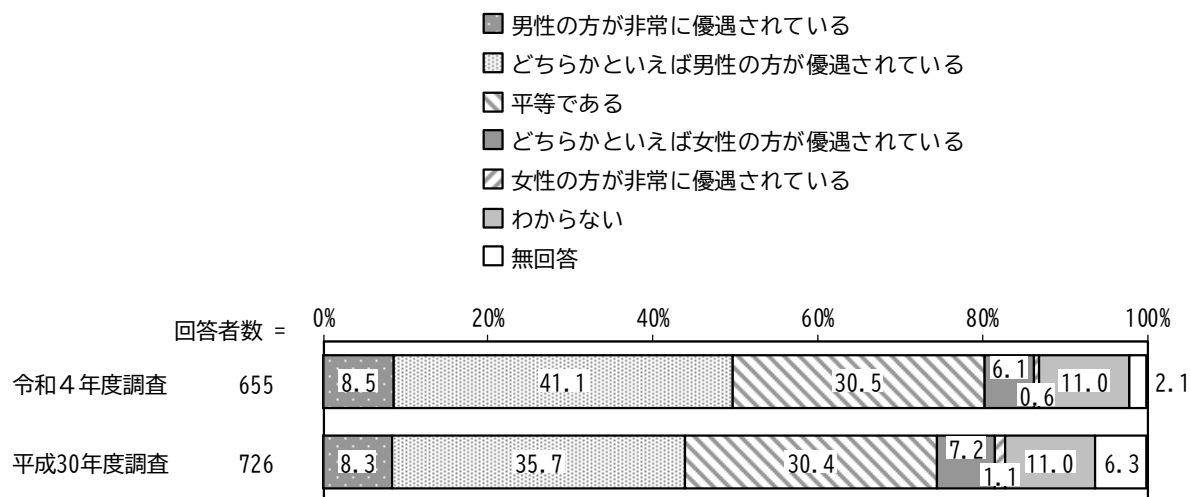
年齢別にみると、他に比べ、50～59歳、65～69歳で“男性優遇”の割合が、80歳以上で「平等である」の割合が高くなっています。



(5) 法律や制度の上で

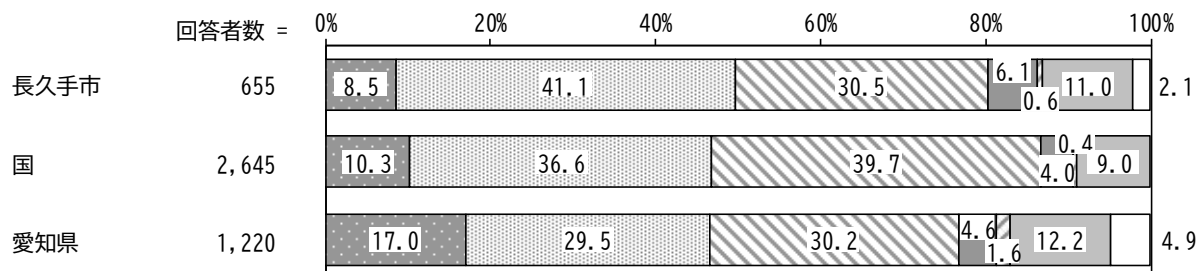
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が増加しています。

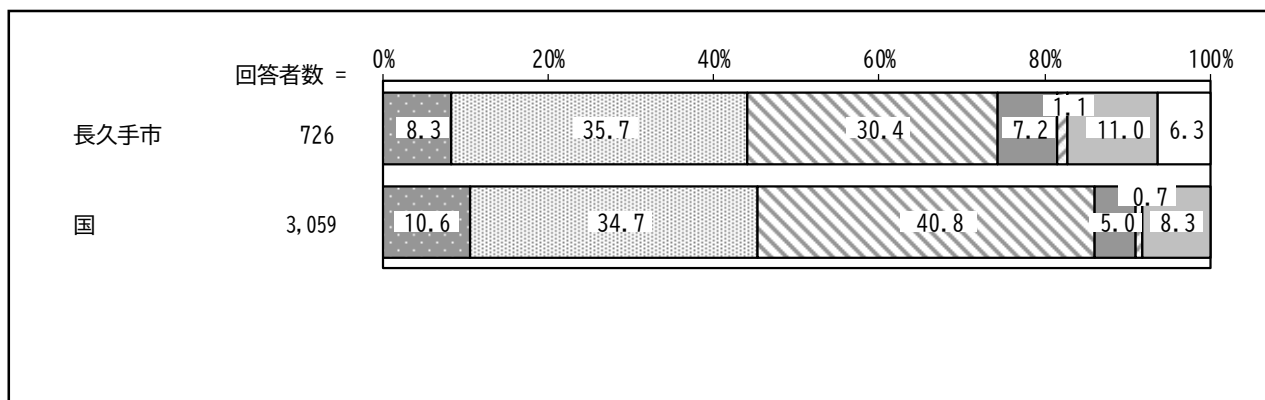


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、“男性優遇”の割合が高くなっています。

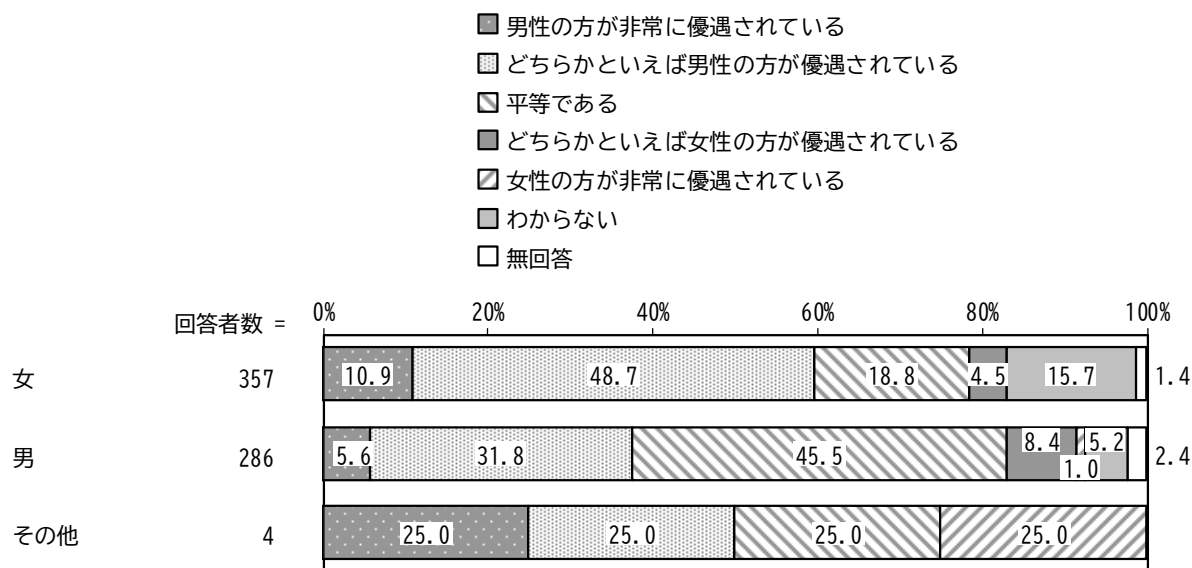


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



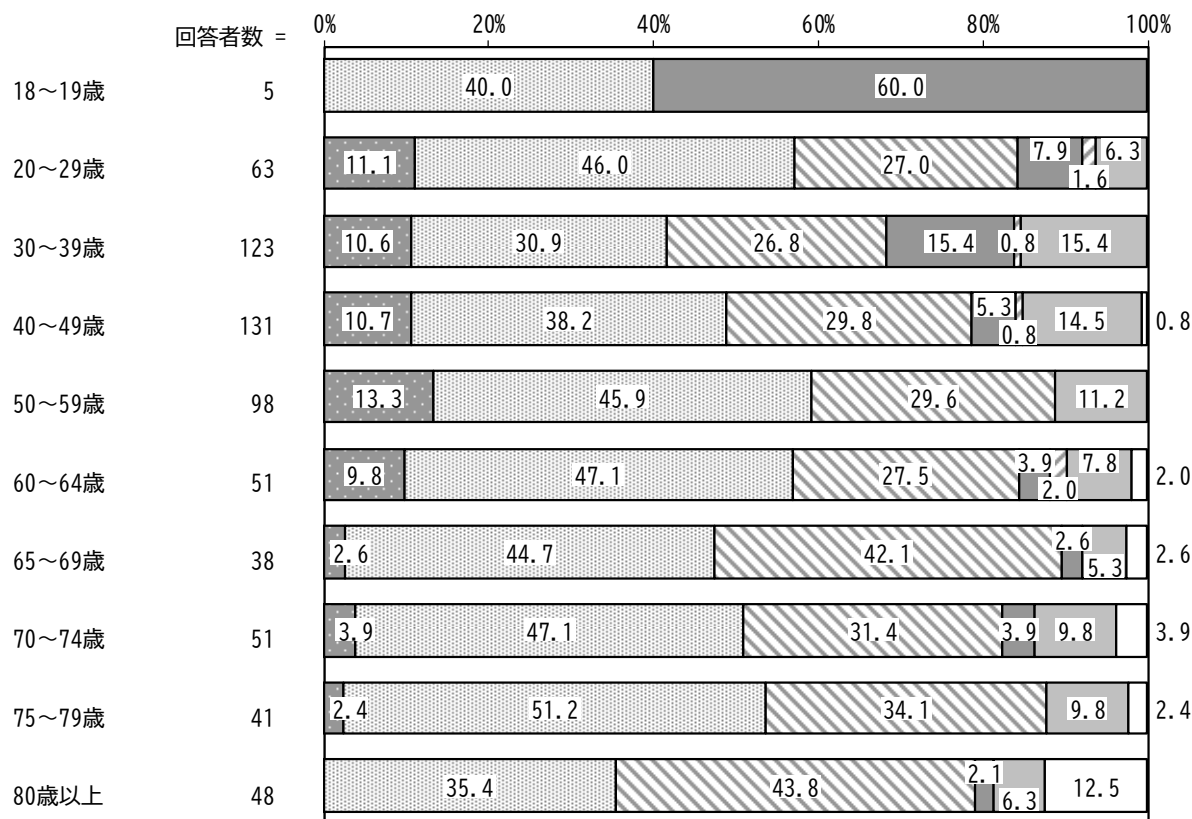
【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「平等である」の割合が、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

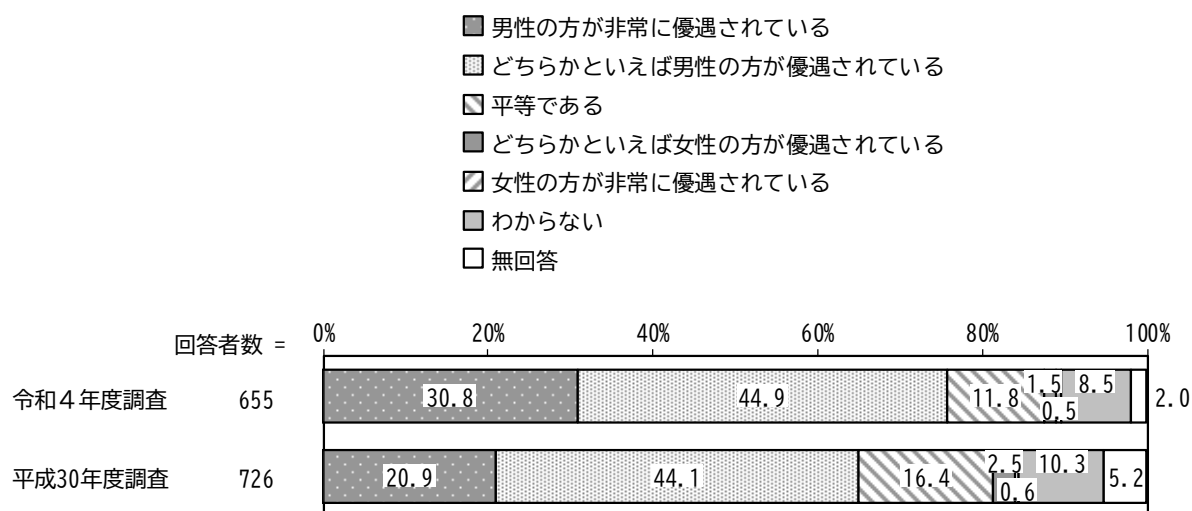
年齢別にみると、20～29歳、50～64歳で“男性優遇”の割合が、80歳以上で「平等である」の割合が高くなっています。



(6) 政治(政策決定)の場で

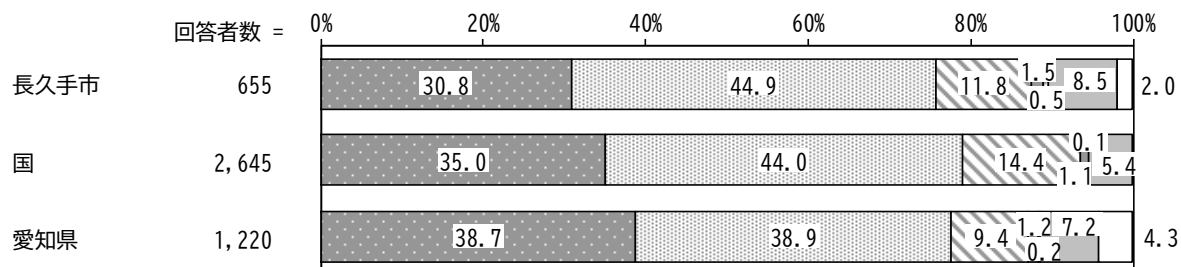
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加しています。

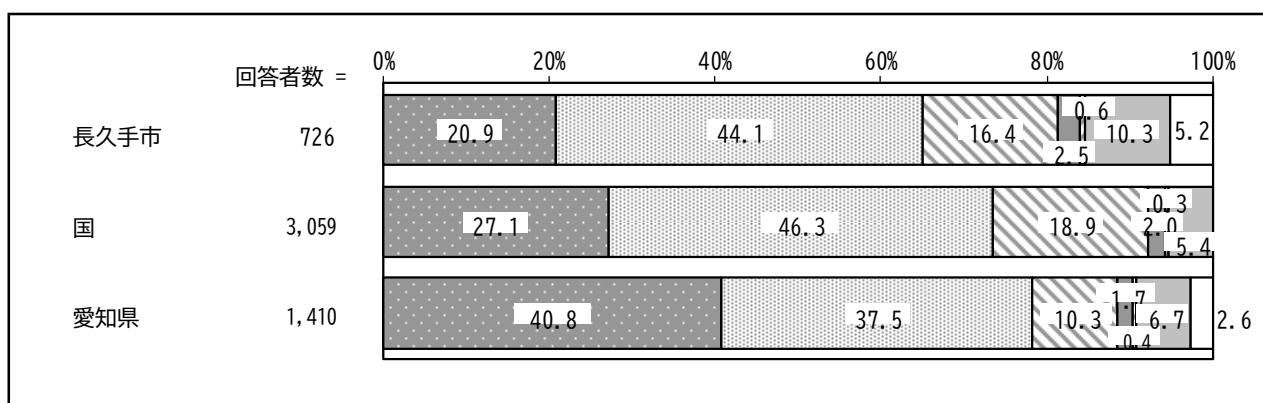


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が低くなっています。

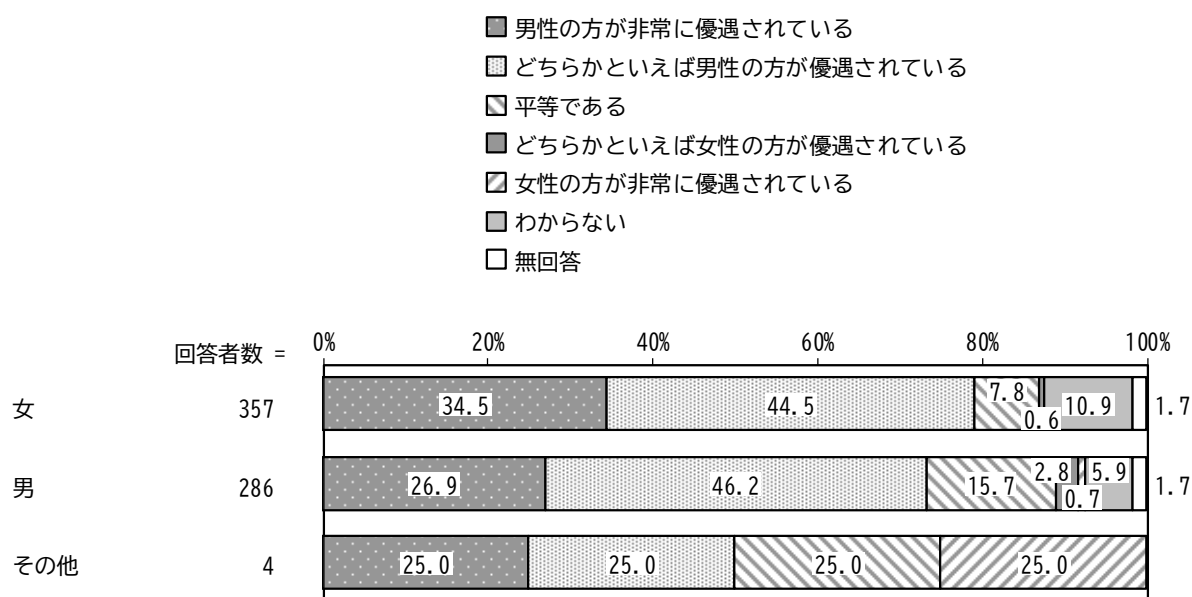


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



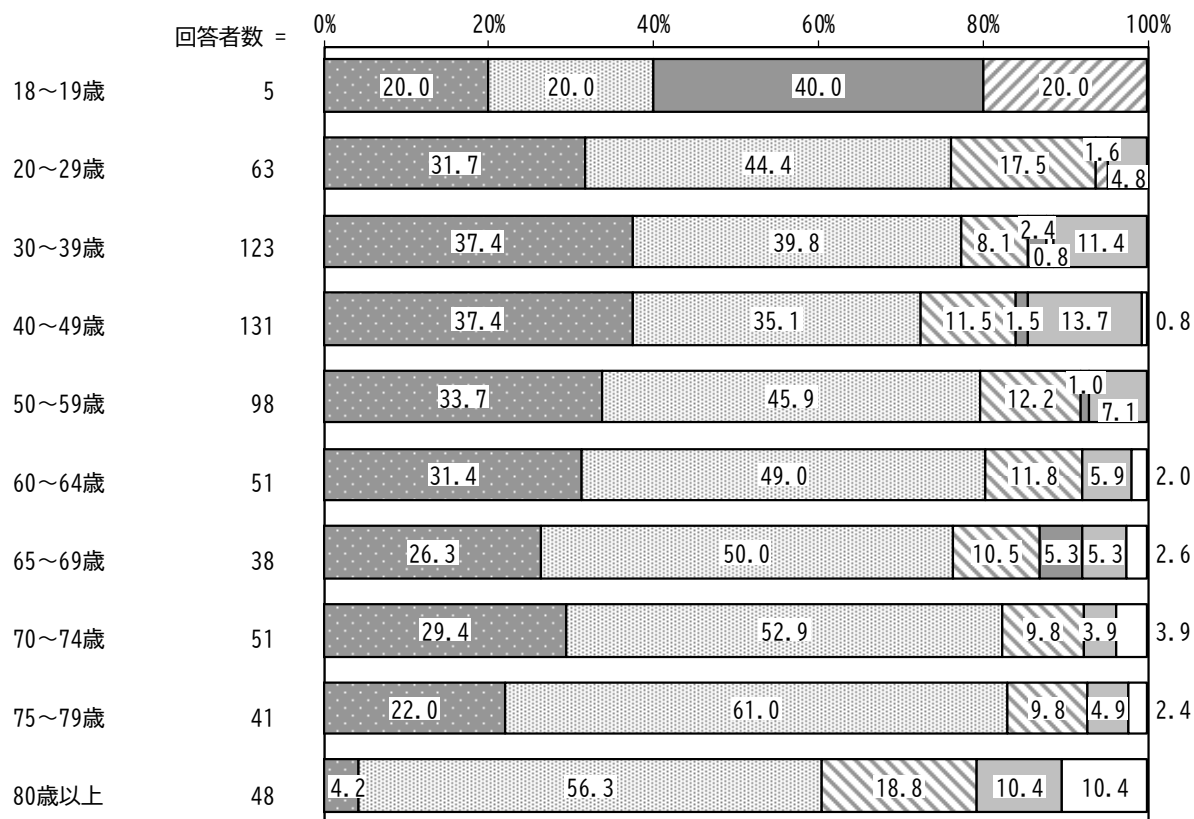
【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「平等である」の割合が、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

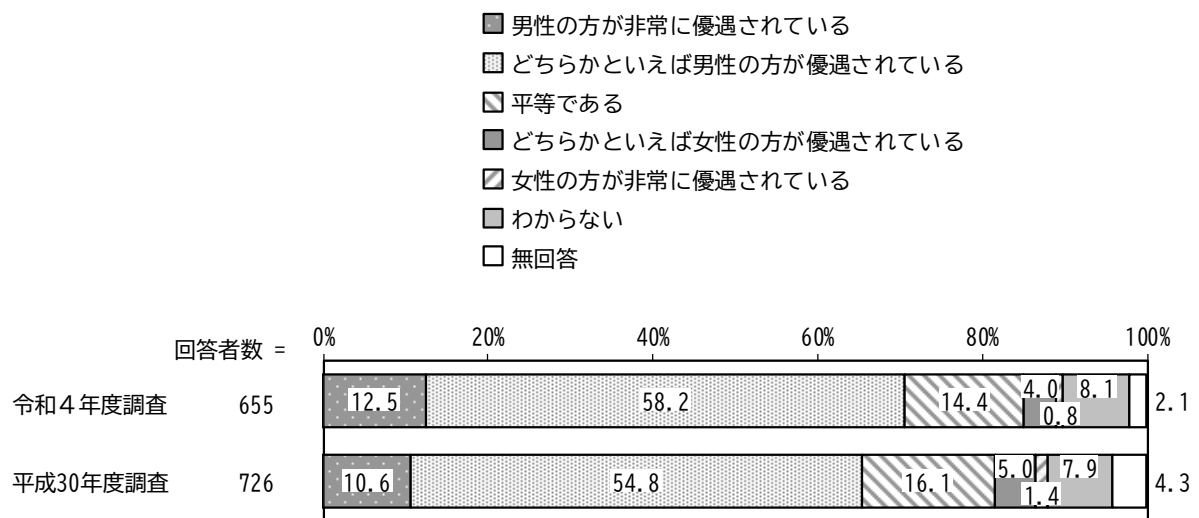
年齢別にみると、他に比べ、30～49歳で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



(7) 社会全体で

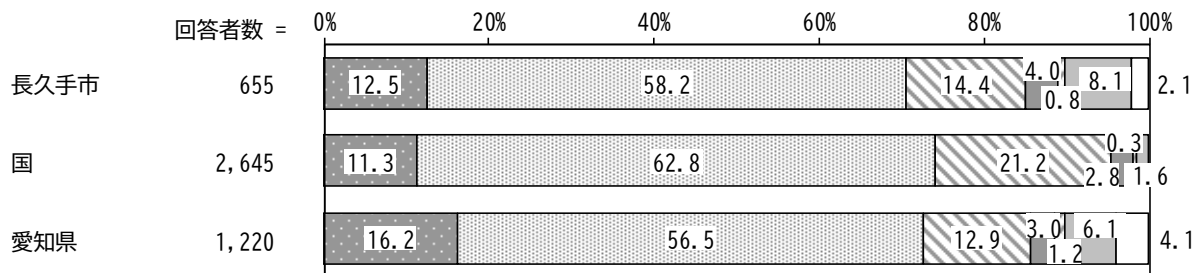
【経年比較】

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

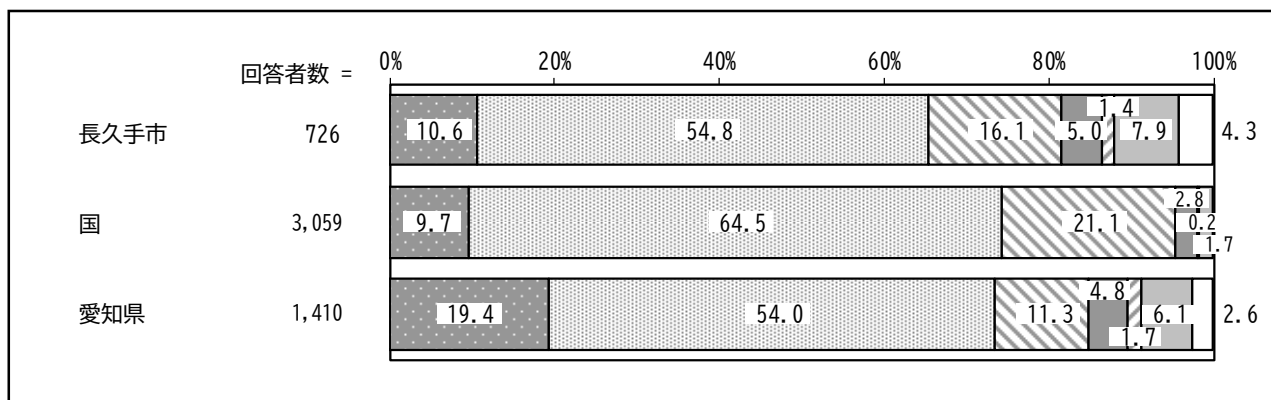


【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、“男性優遇”の割合が低くなっています。

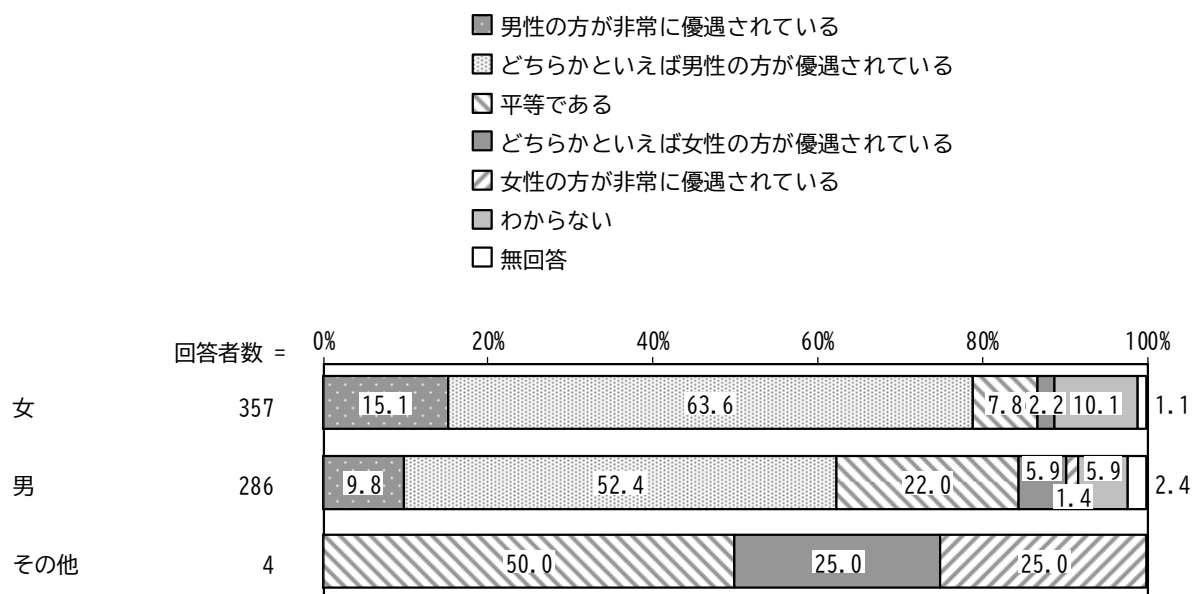


<参考> 【平成 30 年度調査時における国・県調査との比較】



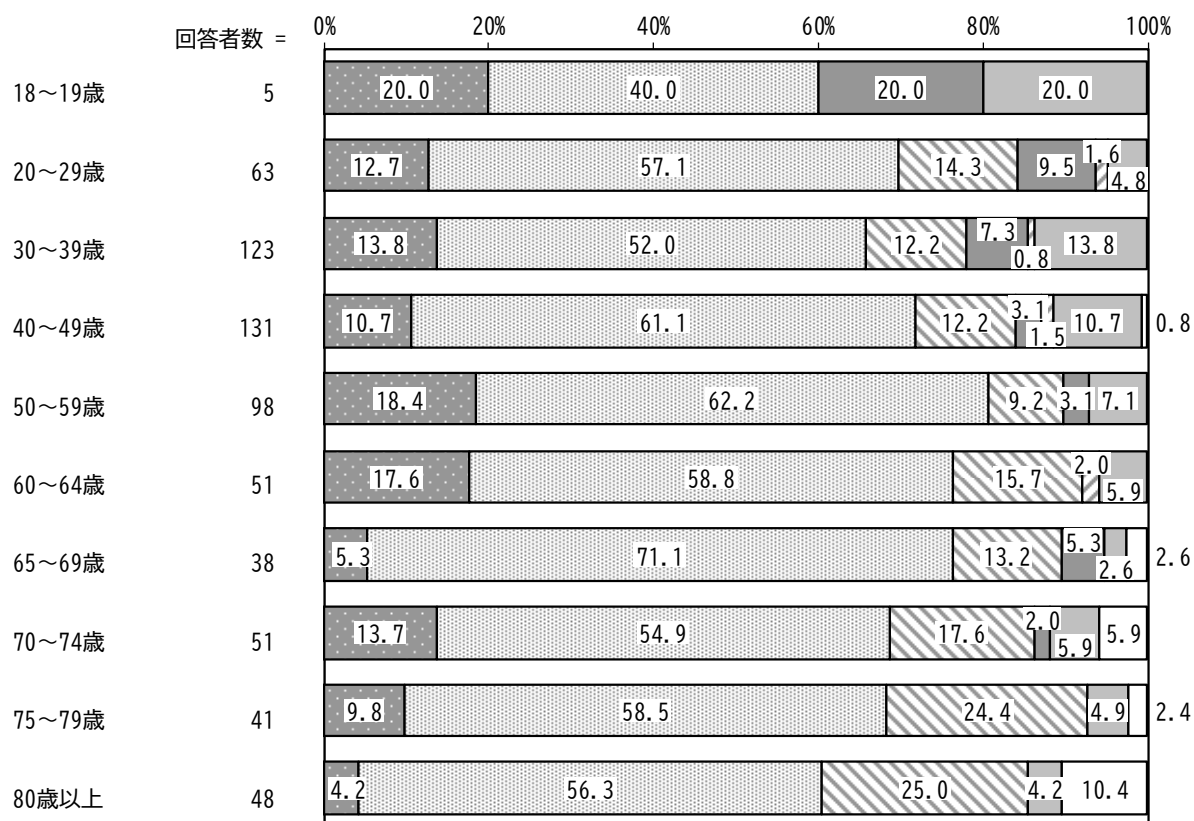
【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「平等である」の割合が、女で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【年齢別】

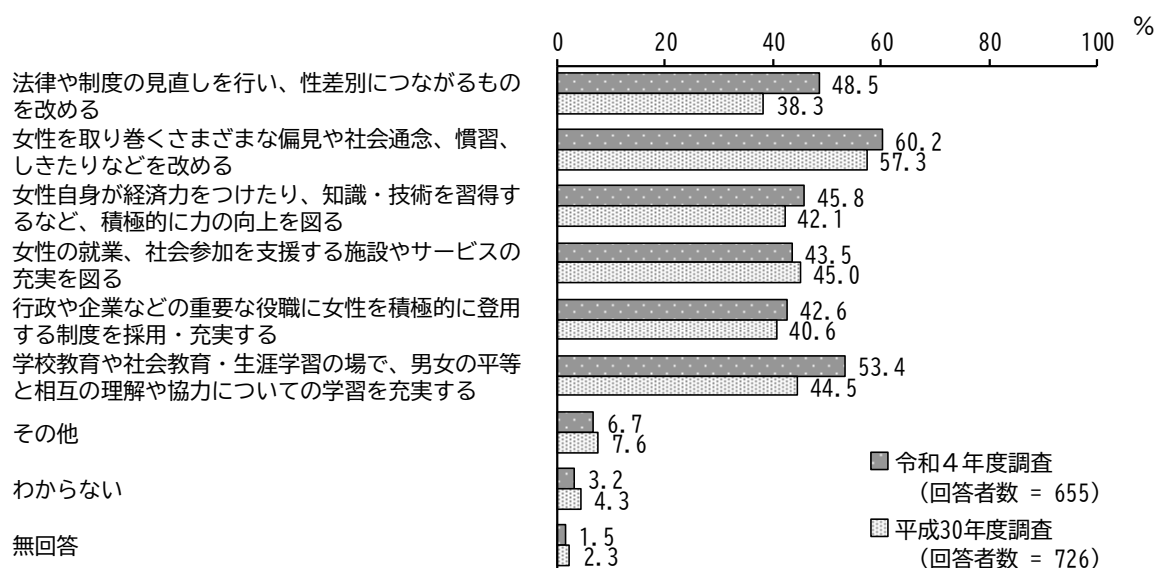
年齢別にみると、他に比べ、50～69歳で“男性優遇”の割合が、75歳以上で「平等である」の割合が高くなっています。



問3 男女があらゆる分野で平等になるためには何が重要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

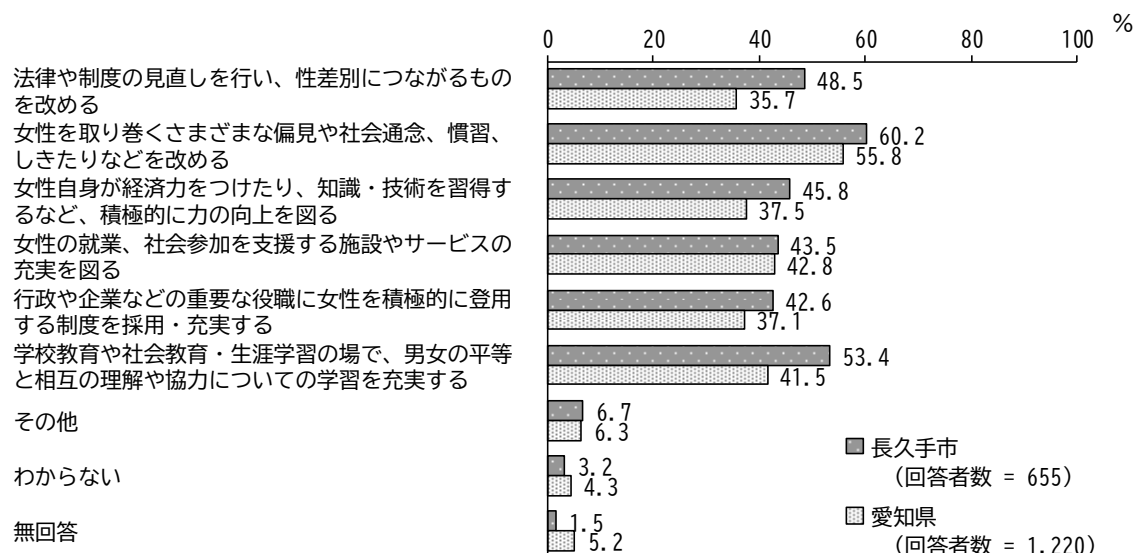
「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」の割合が60.2%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が53.4%、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」の割合が48.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が増加しています。



【国・県との比較】

愛知県調査と比較すると、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	法律や制度の見直しを行い、性別につながるものを改める	女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る	行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用・充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	その他	わからない	無回答
全 体	655	48.5	60.2	45.8	43.5	42.6	53.4	6.7	3.2	1.5	
女	357	47.9	61.3	51.3	48.2	45.4	56.0	4.8	3.6	1.1	
男	286	49.0	58.7	38.8	36.7	38.8	50.0	9.1	2.4	1.7	
その他	4	75.0	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	25.0	－	－	

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～59 歳、70～74 歳で「女性を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」の割合が、80 歳以上で「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」の割合が、75 歳以上で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」の割合が高くなっています。

単位：％

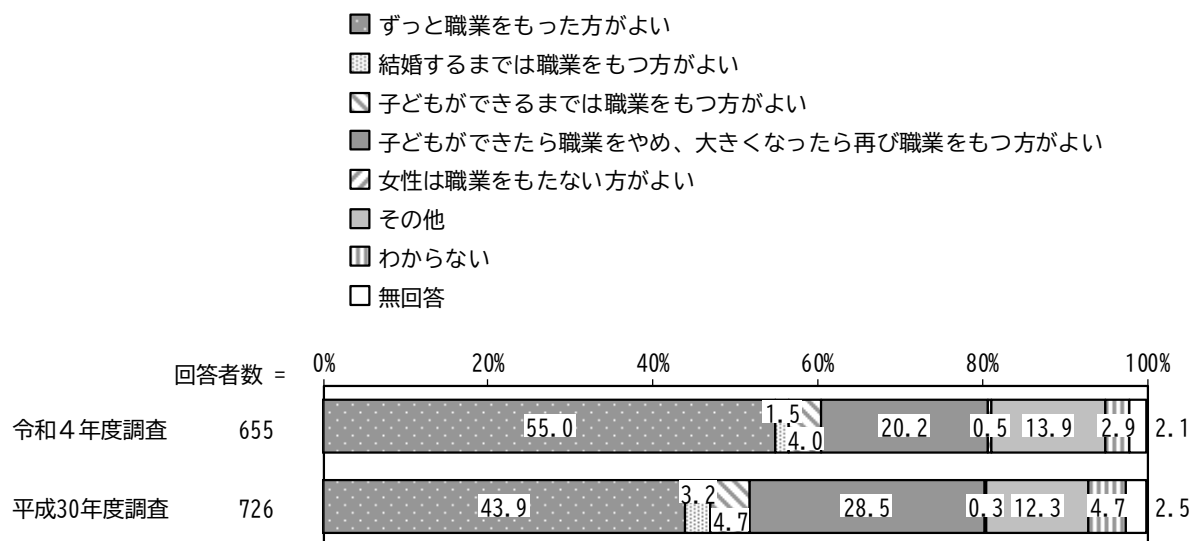
区分	回答者数 (件)	法律や制度の見直しを行い、 性差別につながるものを改める	女性を取り巻くさまざまな偏見や 社会通念、慣習、しきたりなどを 改める	女性自身が経済力をつけたり、知 識・技術を習得するなど、積極的 に力の向上を図る	女性の就業、社会参加を支援する 施設やサービスの充実を図る	行政や企業などの重要な役職に女 性を積極的に登用する制度を採 用・充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の 場で、男女の平等と相互の理解や 協力についての学習を充実する	その他	わからない	無回答
全 体	655	48.5	60.2	45.8	43.5	42.6	53.4	6.7	3.2	1.5
18～19 歳	5	20.0	20.0	60.0	—	20.0	40.0	—	20.0	—
20～29 歳	63	54.0	50.8	36.5	41.3	30.2	49.2	7.9	3.2	1.6
30～39 歳	123	49.6	65.0	34.1	39.8	42.3	56.1	7.3	1.6	—
40～49 歳	131	38.9	64.1	45.8	42.7	34.4	52.7	7.6	2.3	1.5
50～59 歳	98	51.0	67.3	54.1	44.9	43.9	56.1	8.2	5.1	—
60～64 歳	51	45.1	52.9	49.0	47.1	47.1	56.9	3.9	2.0	2.0
65～69 歳	38	50.0	52.6	36.8	23.7	52.6	42.1	13.2	7.9	5.3
70～74 歳	51	58.8	62.7	47.1	47.1	52.9	52.9	3.9	2.0	—
75～79 歳	41	51.2	53.7	58.5	51.2	48.8	58.5	4.9	—	2.4
80 歳以上	48	52.1	54.2	58.3	58.3	50.0	52.1	2.1	4.2	4.2

(3) 仕事について

問4 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように考えますか。次の中から1つ選んでください。(〇は1つ)

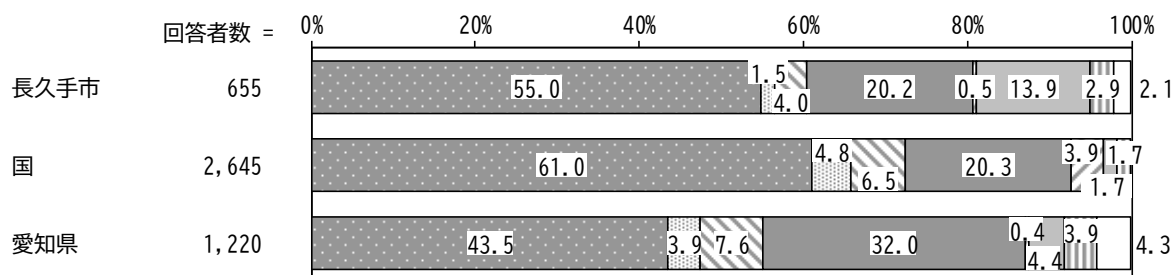
「ずっと職業をもった方がよい」の割合が55.0%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が20.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「ずっと職業をもった方がよい」の割合が増加しています。一方、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が減少しています。



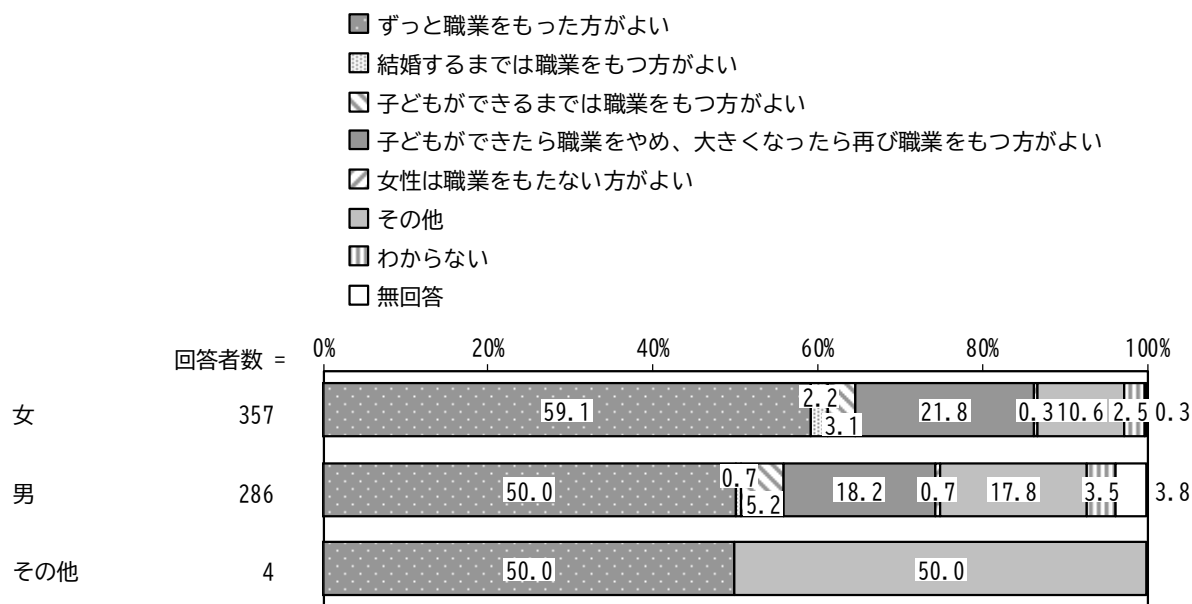
【国・県との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「ずっと職業をもった方がよい」の割合が国より低く、愛知県より高くなっています。



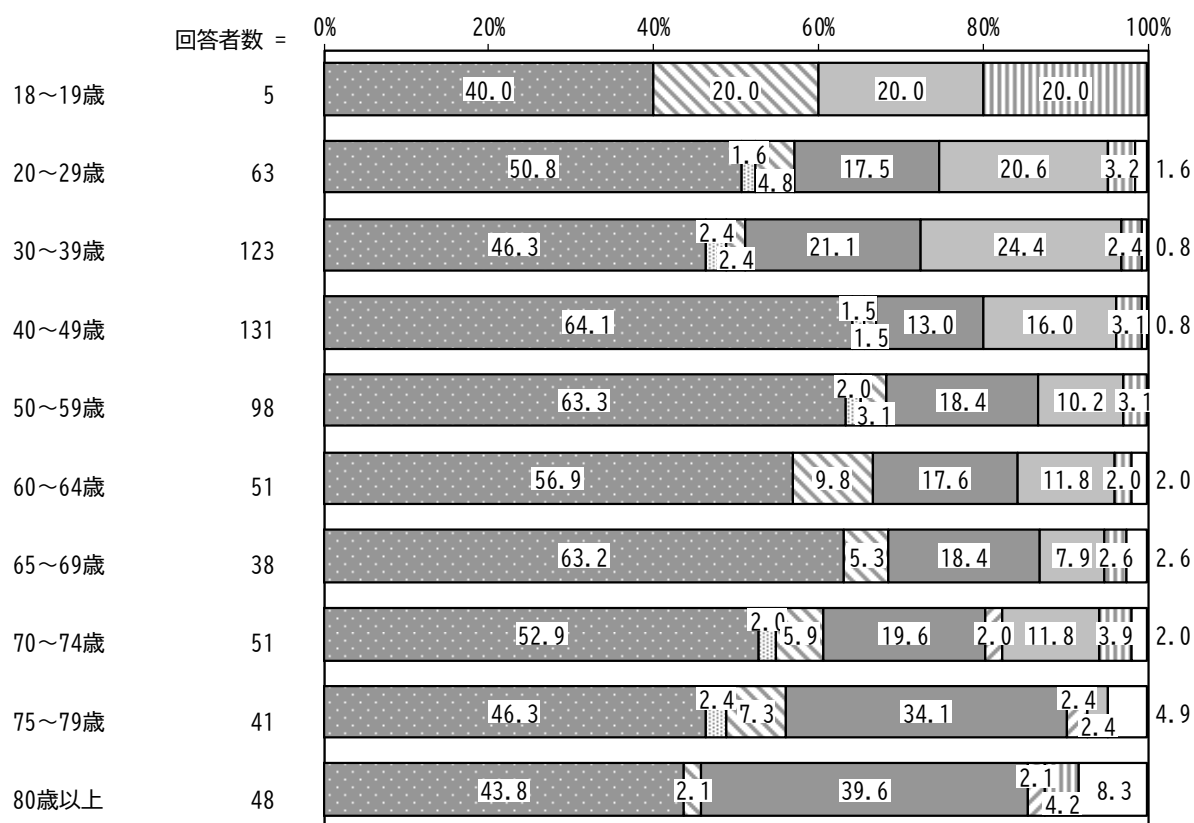
【性別】

性別にみると、他と比べ、女で「ずっと職業をもった方がよい」の割合が高くなっています。



【年齢別】

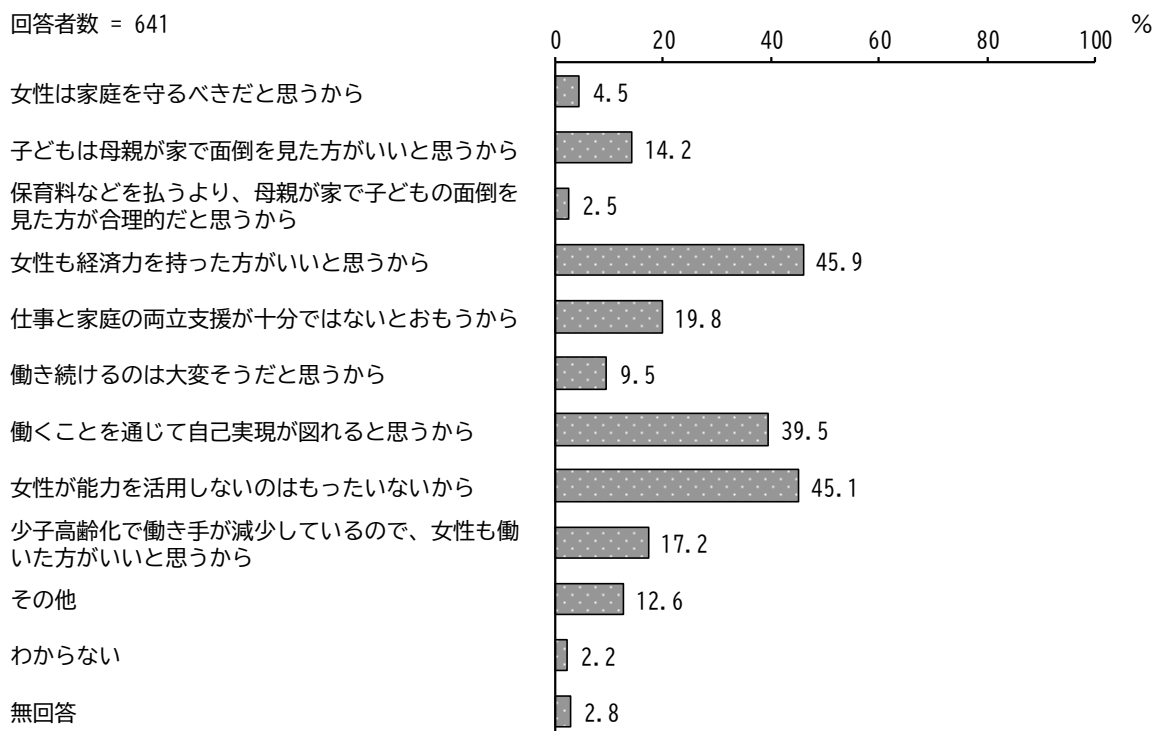
年齢別にみると、他に比べ、40～59 歳、65～69 歳で「ずっと職業をもった方がよい」の割合が、75 歳以上で「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が高くなっています。



問5 問4で回答した理由について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「女性も経済力を持った方がいいと思うから」の割合が45.9%と最も高く、次いで「女性が能力を活用しないのはもったいないから」の割合が45.1%、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」の割合が39.5%となっています。

回答者数 = 641



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「女性も経済力を持った方がいいと思うから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	女性も経済力を持った方がいいと思うから	女性が能力を活用しないのはもったいないから	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	仕事と家庭の両立支援が十分ではないとおもうから	子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから	その他	知らない	無回答
全 体	641	45.9	45.1	39.5	19.8	14.2	2.5	12.6	2.2	2.8
女	356	52.2	43.8	42.7	22.8	13.5	2.0	11.0	1.7	3.4
男	275	38.2	46.5	36.0	15.6	15.3	3.3	14.9	2.9	2.2
その他	4	—	50.0	25.0	—	—	—	25.0	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」の割合が高くなっています。また、他と比べ、20～29歳で「女性が能力を活用しないのはもったいないから」の割合が、50～69、75～79歳で「女性も経済力を持った方がいいと思うから」の割合が、65～69歳で「女性が能力を活用しないのはもったいないから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	女性は家庭を守るべきだと思うから	子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	保育料などを払うより、母親が家でもの面倒を見た方が合理的だと思うから	女性も経済力を持った方がいいと思うから	仕事と家庭の両立支援が十分ではないとおもっから	働き続けるのは大変そうだと思うから	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	女性が能力を活用しないのはもったいないから	少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから	その他	わからない	無回答
全 体	641	4.5	14.2	2.5	45.9	19.8	9.5	39.5	45.1	17.2	12.6	2.2	2.8
18～19 歳	5	—	—	—	40.0	20.0	—	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	—
20～29 歳	62	4.8	4.8	1.6	43.5	19.4	8.1	50.0	45.2	8.1	11.3	3.2	—
30～39 歳	122	4.9	9.8	2.5	35.2	23.8	14.8	36.9	34.4	11.5	21.3	4.1	0.8
40～49 歳	130	3.1	8.5	2.3	46.9	18.5	9.2	44.6	46.9	12.3	17.7	1.5	4.6
50～59 歳	98	3.1	14.3	5.1	54.1	13.3	5.1	36.7	51.0	21.4	13.3	—	3.1
60～64 歳	50	8.0	18.0	6.0	50.0	14.0	10.0	42.0	48.0	24.0	8.0	4.0	2.0
65～69 歳	37	—	18.9	2.7	56.8	18.9	—	37.8	59.5	24.3	2.7	—	8.1
70～74 歳	50	6.0	18.0	—	38.0	18.0	10.0	40.0	46.0	20.0	12.0	4.0	2.0
75～79 歳	39	7.7	33.3	—	56.4	25.6	12.8	35.9	41.0	28.2	—	—	2.6
80 歳以上	44	6.8	29.5	—	43.2	31.8	11.4	27.3	47.7	22.7	—	—	4.5

【女性が職業を持つことへの考え方別】

女性が職業を持つことへの考え方別にみると、「ずっと職業をもった方がよい」という継続就業型の考え方の人で、他と比べ「女性も経済力を持った方がよいと思うから」の割合が高くなっています。「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という再就職型の考え方の人で、他と比べ「仕事と家庭の両立支援が十分ではないとおもうから」の割合が高くなっています。「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「女性は職業をもたない方がよい」という専業主婦型の考え方の人で、他と比べ「女性は家庭を守るべきだと思うから」「子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから」の割合が高くなっています。

単位：％

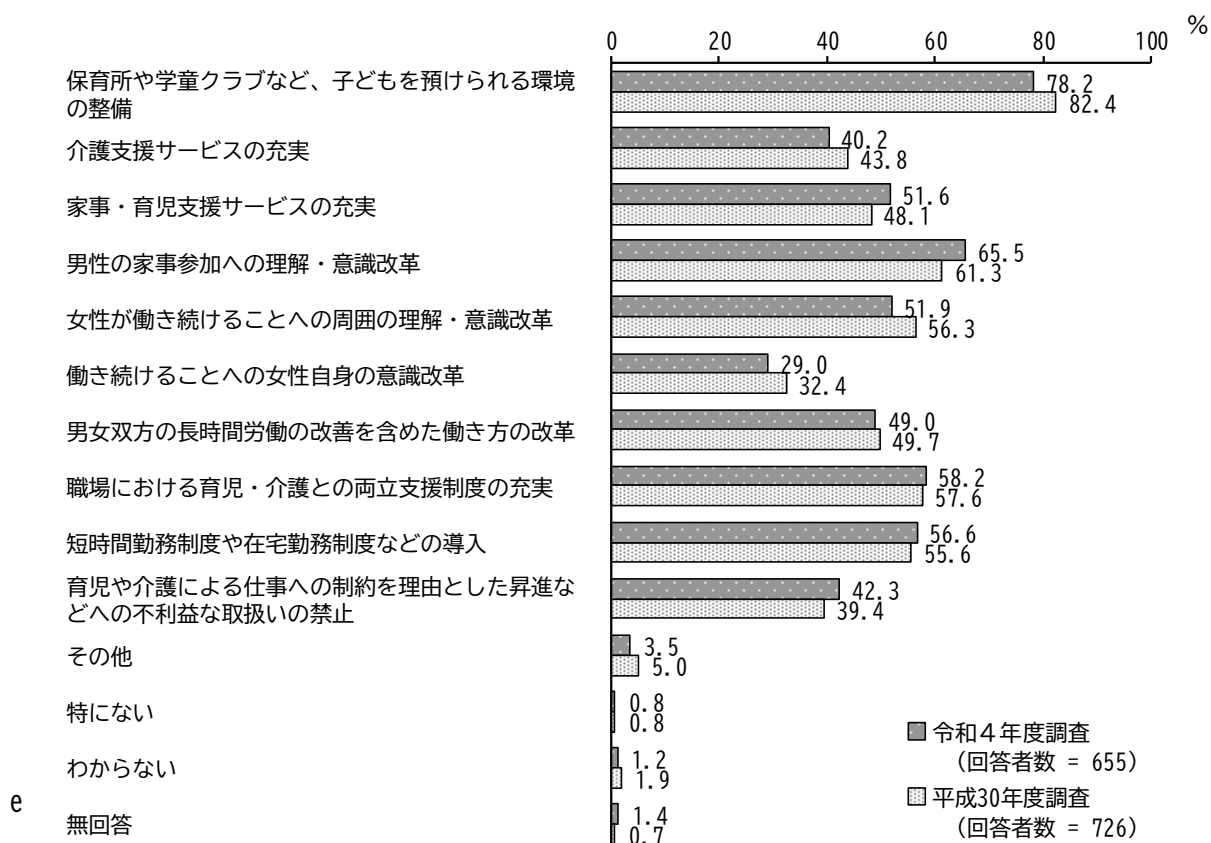
区分	回答者数 (件)	女性は家庭を守るべきだと思うから	子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから	保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから	女性も経済力を持った方がよいと思うから	仕事と家庭の両立支援が十分ではないとおもうから	働き続けるのは大変そうだと思うから
全 体	641	4.5	14.2	2.5	45.9	19.8	9.5
ずっと職業をもった方がよい	360	0.6	0.6	—	67.5	7.2	0.6
結婚するまでは職業をもつ方がよい	10	60.0	50.0	—	10.0	50.0	20.0
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	26	15.4	50.0	15.4	19.2	42.3	42.3
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	132	10.6	49.2	6.8	25.0	51.5	33.3
女性は職業をもたない方がよい	3	66.7	66.7	—	33.3	33.3	—
その他	91	1.1	1.1	2.2	11.0	15.4	2.2
わからない	19	—	15.8	5.3	5.3	10.5	—

区分	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	女性が能力を活用しないのはもったいないから	少子高齢化で働き手が減少している中で、女性も働いた方がよいと思うから	その他	わからない	無回答
全 体	39.5	45.1	17.2	12.6	2.2	2.8
ずっと職業をもった方がよい	58.3	61.4	24.2	4.2	—	3.1
結婚するまでは職業をもつ方がよい	—	10.0	—	—	—	—
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	15.4	23.1	11.5	—	—	—
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	16.7	28.8	11.4	6.8	—	—
女性は職業をもたない方がよい	—	33.3	—	—	—	—
その他	14.3	17.6	3.3	61.5	6.6	5.5
わからない	21.1	31.6	10.5	5.3	42.1	10.5

問6 あなたは、女性が出産後なども離職せずに働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

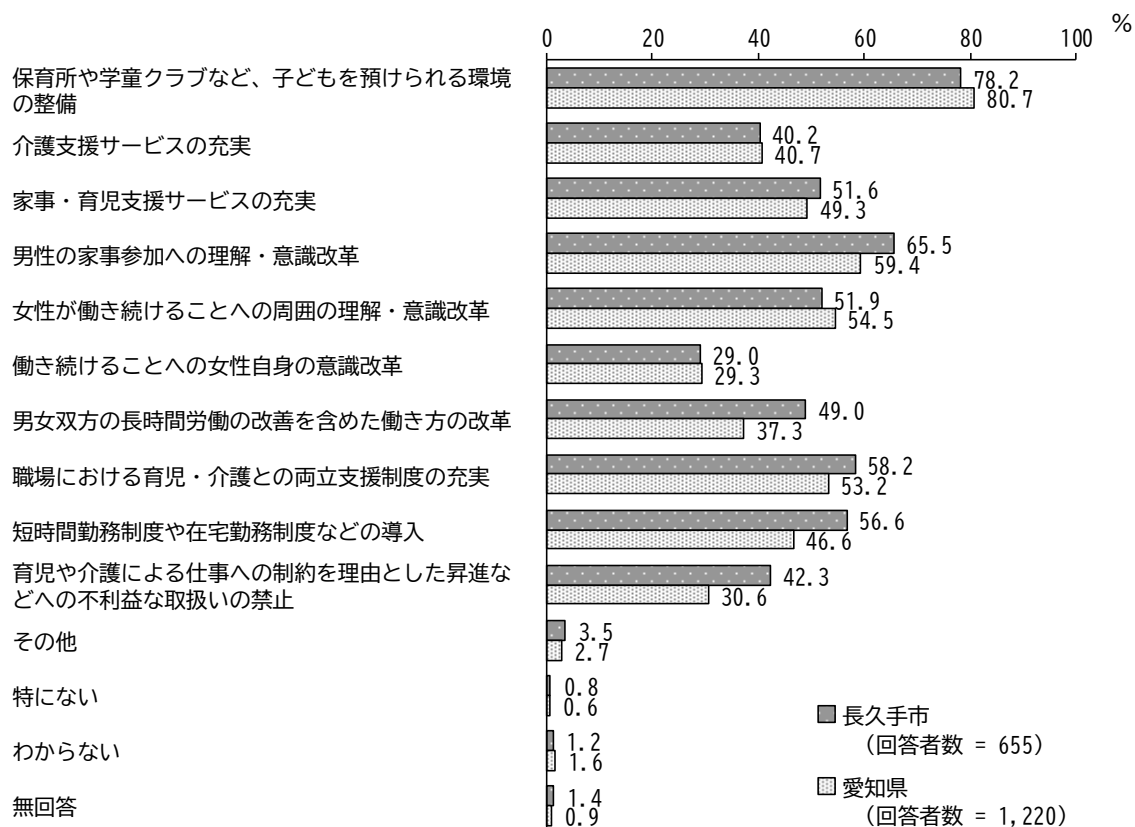
「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が78.2%と最も高く、次いで「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が65.5%、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が58.2%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【国・県との比較】

愛知県調査と比較すると、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「男性の家事参加への理解・意識改革」「介護支援サービスの充実」「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の割合が高くなっています。特に「男性の家事参加への理解・意識改革」では、男に比べ女で 18.3 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
全 体	655	78.2	40.2	51.6	65.5	51.9	29.0	49.0
女	357	80.1	45.7	50.1	73.9	57.4	29.7	51.3
男	286	77.3	34.3	54.5	55.6	44.8	28.7	45.8
その他	4	50.0	—	50.0	50.0	75.0	25.0	50.0

区分	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	58.2	56.6	42.3	3.5	0.8	1.2	1.4
女	59.4	59.1	45.1	1.7	0.3	1.7	0.3
男	57.3	53.8	39.5	5.9	1.0	0.3	2.1
その他	50.0	25.0	50.0	—	25.0	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、40～49歳で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が、20～49歳で「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
全 体	655	78.2	40.2	51.6	65.5	51.9	29.0	49.0
18～19歳	5	60.0	40.0	40.0	60.0	80.0	—	20.0
20～29歳	63	79.4	36.5	55.6	76.2	47.6	20.6	60.3
30～39歳	123	85.4	33.3	60.2	67.5	57.7	26.0	61.0
40～49歳	131	76.3	45.0	49.6	67.9	48.1	33.6	55.7
50～59歳	98	81.6	46.9	58.2	68.4	56.1	35.7	43.9
60～64歳	51	70.6	39.2	45.1	58.8	52.9	25.5	33.3
65～69歳	38	86.8	42.1	44.7	55.3	47.4	23.7	50.0
70～74歳	51	76.5	39.2	47.1	60.8	56.9	29.4	33.3
75～79歳	41	73.2	43.9	48.8	61.0	46.3	31.7	34.1
80歳以上	48	72.9	35.4	41.7	60.4	43.8	31.3	43.8

区分	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答	
全 体	58.2	56.6	42.3	3.5	0.8	1.2	1.4	
18～19歳	20.0	40.0	20.0	—	—	20.0	—	
20～29歳	66.7	58.7	49.2	3.2	1.6	—	1.6	
30～39歳	62.6	64.2	50.4	3.3	—	0.8	0.8	
40～49歳	65.6	68.7	43.5	5.3	0.8	—	0.8	
50～59歳	59.2	51.0	42.9	5.1	—	—	—	
60～64歳	54.9	52.9	39.2	—	3.9	—	—	
65～69歳	47.4	50.0	34.2	5.3	—	2.6	—	
70～74歳	49.0	45.1	33.3	2.0	—	3.9	—	
75～79歳	46.3	51.2	29.3	4.9	—	2.4	2.4	
80歳以上	54.2	41.7	43.8	—	2.1	2.1	6.3	

【女性が職業を持つことへの考え方別】

女性が職業を持つことへの考え方別にみると、他に比べ、ずっと職業をもった方がよい、結婚するまでは職業をもつ方がよい、子どもができるまでは職業をもつ方がよいで「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が、結婚するまでは職業をもつ方がよいで「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方の改革
全 体	655	78.2	40.2	51.6	65.5	51.9	29.0	49.0
ずっと職業をもった方がよい	360	86.4	50.6	58.3	72.2	61.9	36.9	52.8
結婚するまでは職業をもつ方がよい	10	90.0	50.0	50.0	80.0	70.0	10.0	40.0
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	26	80.8	26.9	38.5	53.8	26.9	11.5	38.5
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	132	70.5	25.0	48.5	55.3	38.6	24.2	43.2
女性は職業をもたない方がよい	3	33.3	33.3	—	—	33.3	—	—
その他	91	70.3	34.1	46.2	65.9	45.1	20.9	54.9
わからない	19	52.6	21.1	36.8	52.6	36.8	10.5	36.8

区分	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	58.2	56.6	42.3	3.5	0.8	1.2	1.4
ずっと職業をもった方がよい	64.7	61.4	48.9	2.2	—	0.6	—
結婚するまでは職業をもつ方がよい	60.0	50.0	50.0	—	—	—	—
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	53.8	46.2	30.8	—	—	3.8	—
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	51.5	56.1	31.1	3.0	0.8	1.5	—
女性は職業をもたない方がよい	—	33.3	—	33.3	—	—	—
その他	54.9	53.8	44.0	9.9	3.3	—	—
わからない	42.1	36.8	21.1	—	5.3	15.8	—

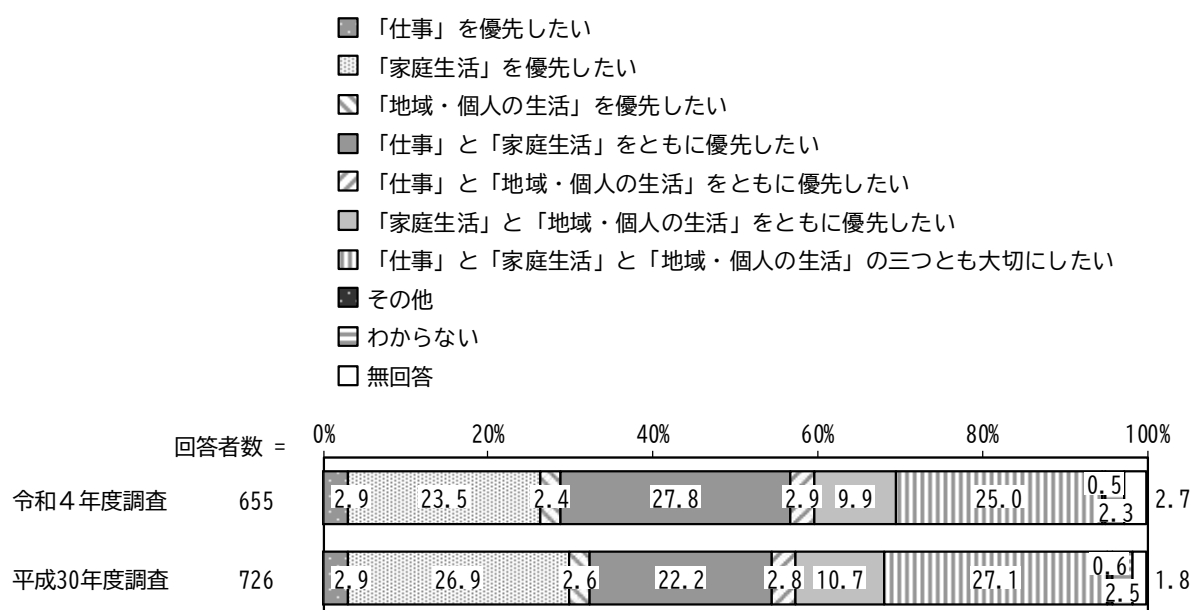
(4) ワーク・ライフ・バランスについて

問7 あなたは、生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。
 A（希望として）、B（現実として）についてそれぞれ1つ選んでください。
 （Aのなかで○を1つ、Bのなかで○を1つ）

A（希望として）

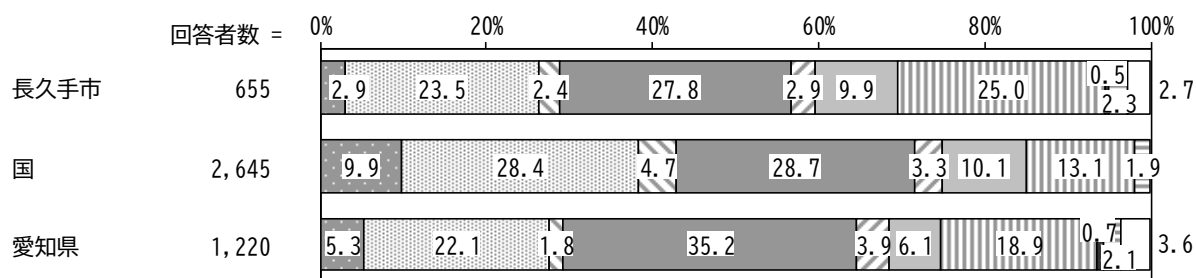
「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」の割合が27.8%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が25.0%、「家庭生活」を優先したい」の割合が23.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい」の割合が増加しています。



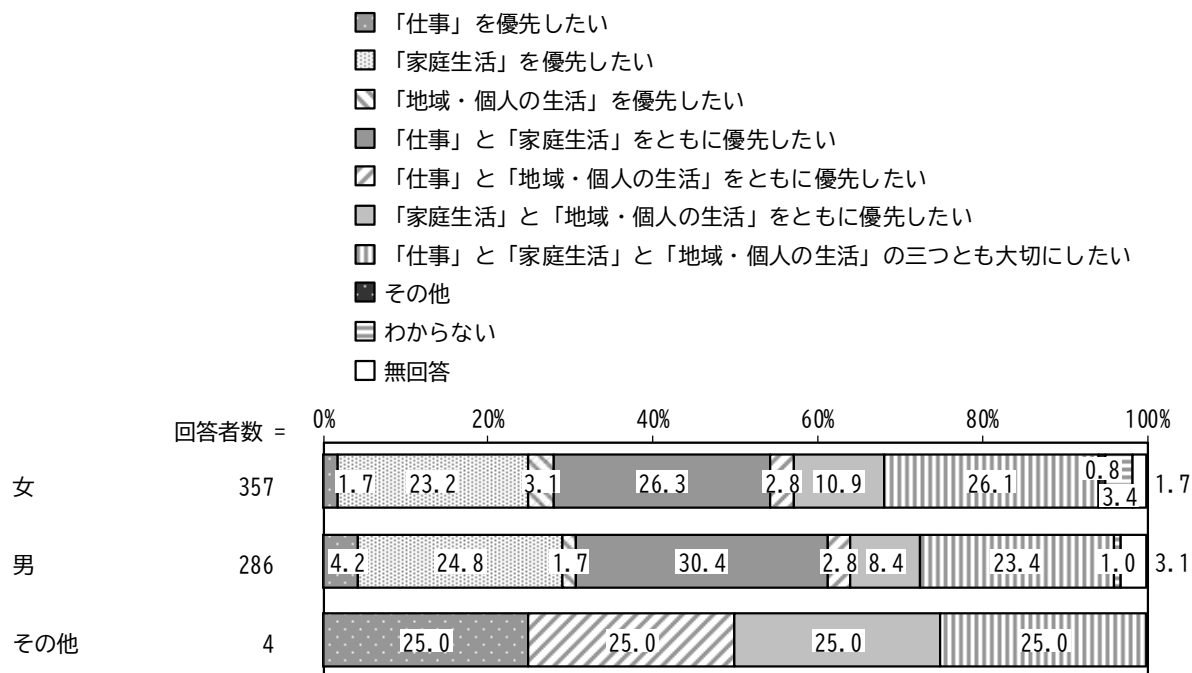
【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が高くなっています。



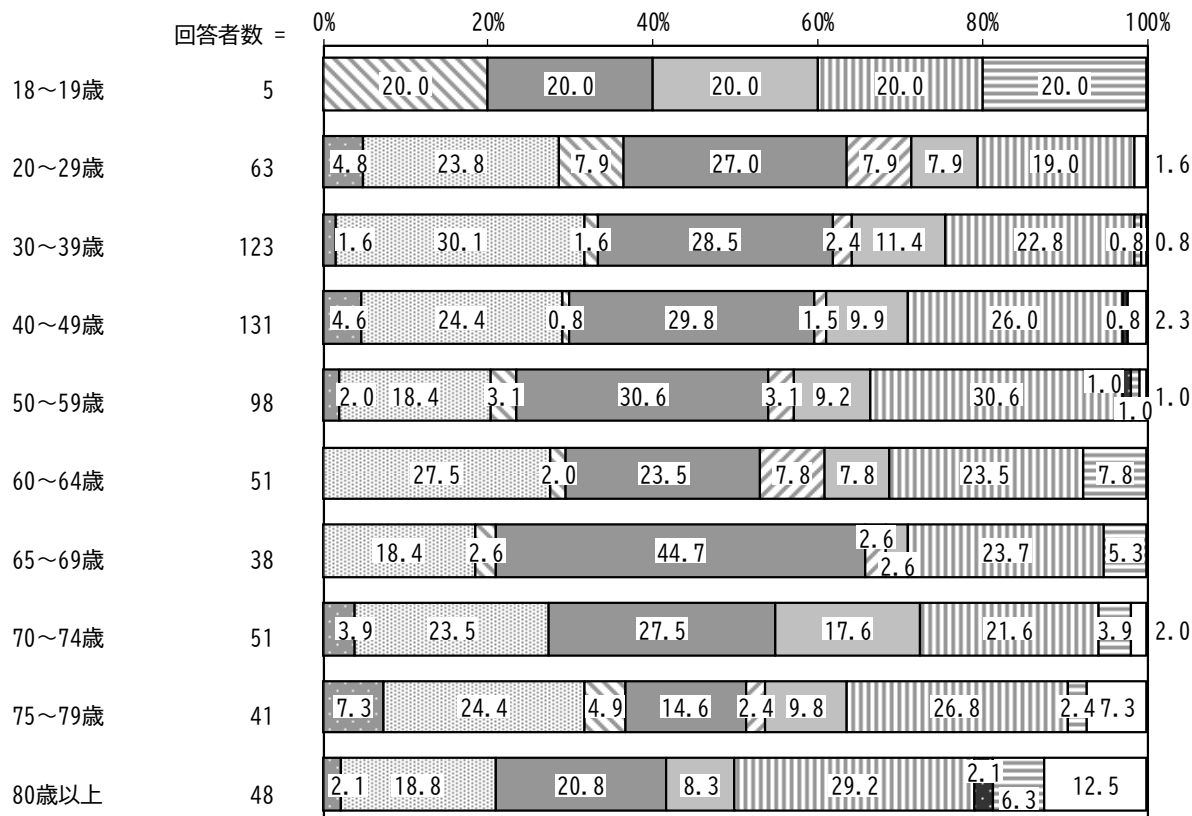
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

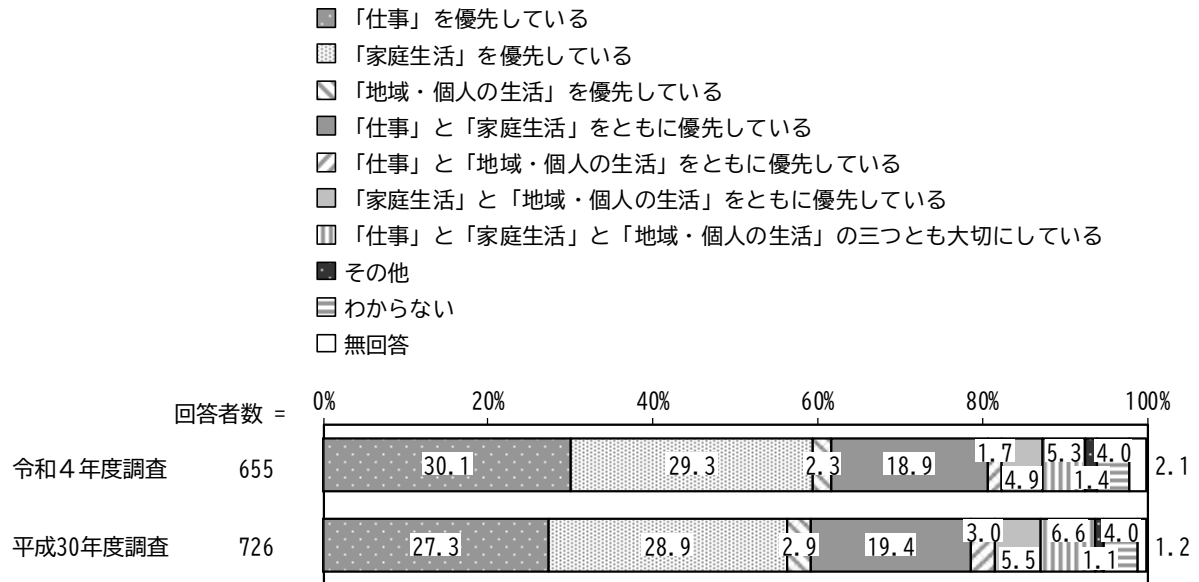
年齢別にみると、他に比べ、65～69歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が、30～39歳で「家庭生活」を優先したい」の割合が、50～59歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が高くなっています。



B（現実として）

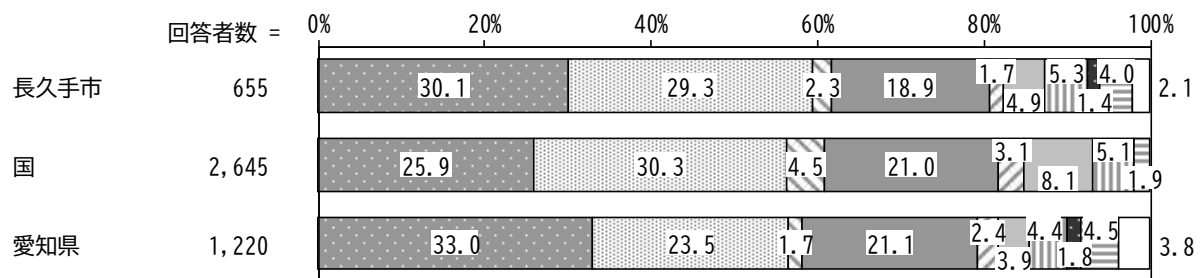
「仕事」を優先している」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」の割合が 29.3%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 18.9%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



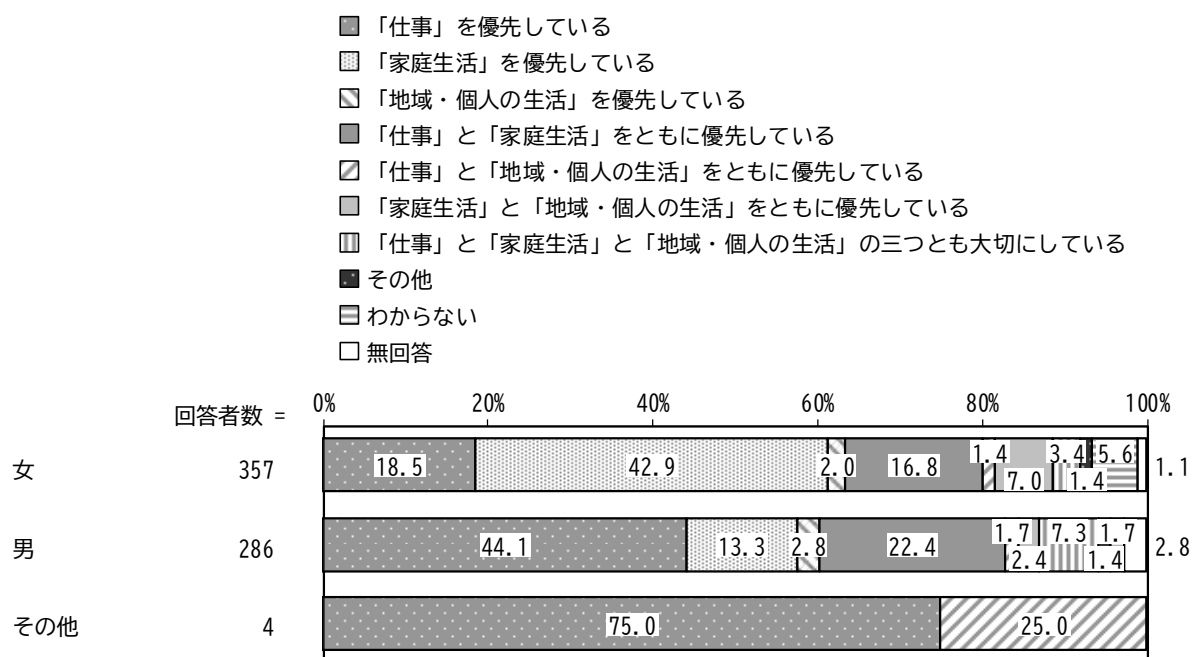
【国・県調査との比較】

国、愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。



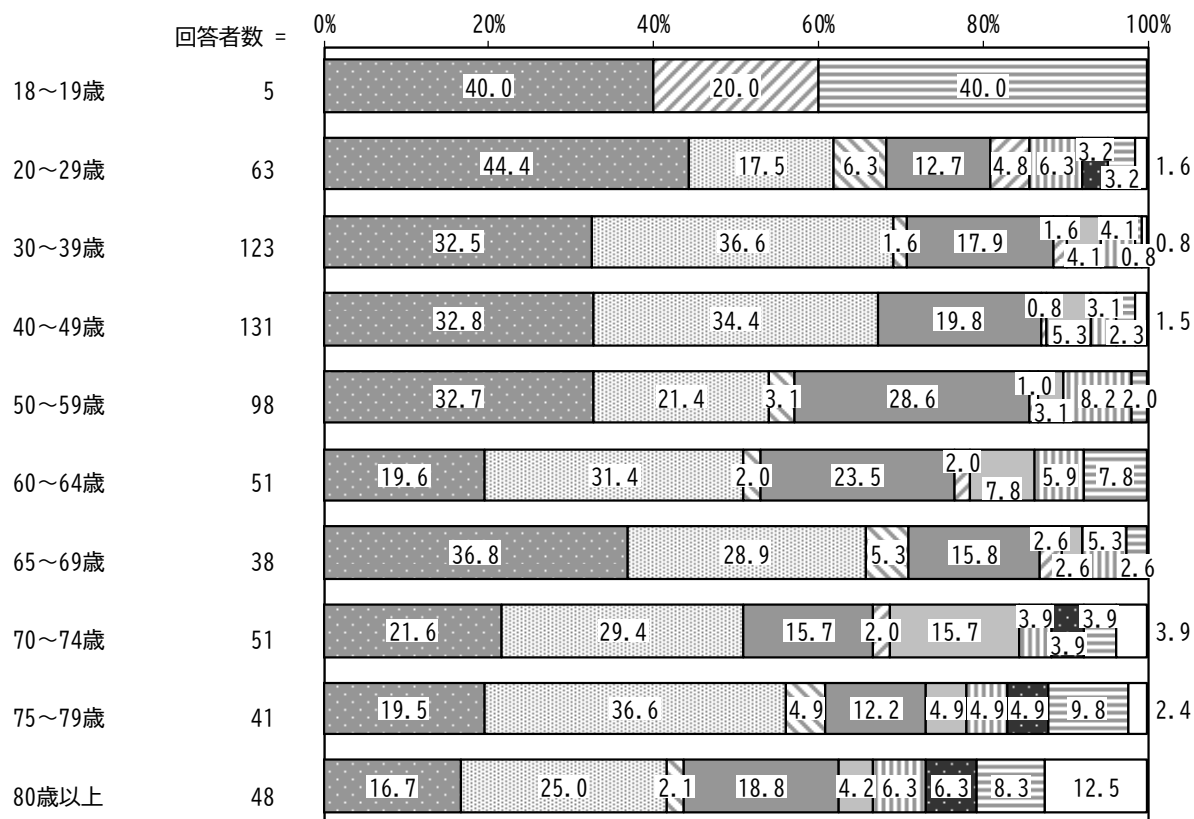
【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「仕事」を優先している」の割合が、女で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。



【年齢別】

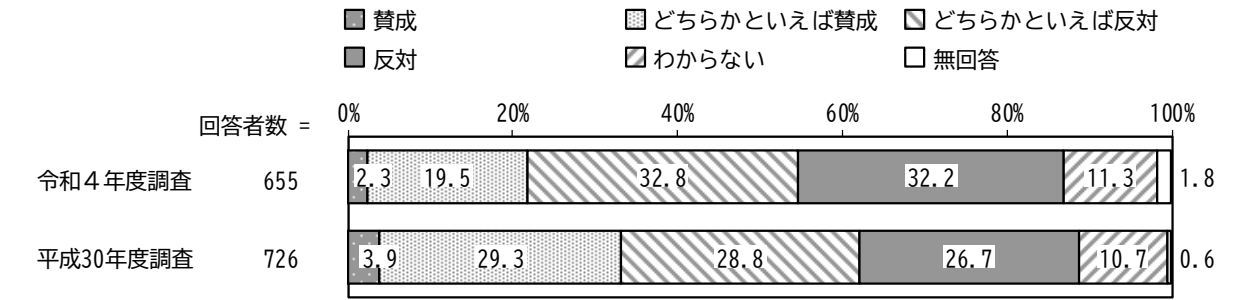
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「仕事」を優先している」の割合が、50～59歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が、30～49歳、75～79歳で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。



問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

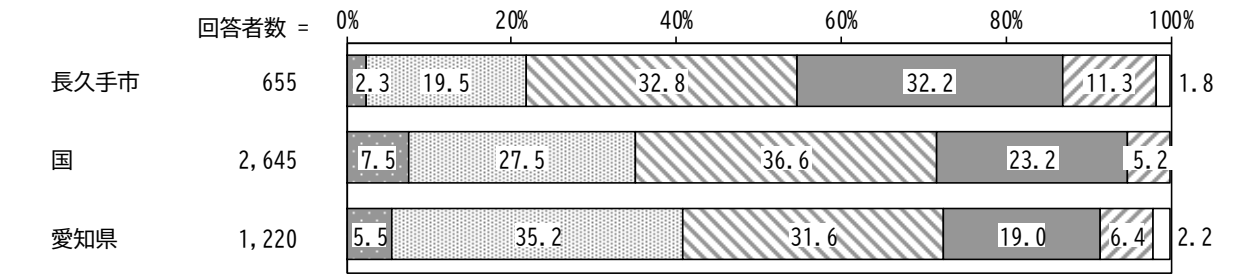
「どちらかといえば反対」の割合が32.8%と最も高く、次いで「反対」の割合が32.2%、「どちらかといえば賛成」の割合が19.5%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「反対」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば賛成」の割合が減少しています。



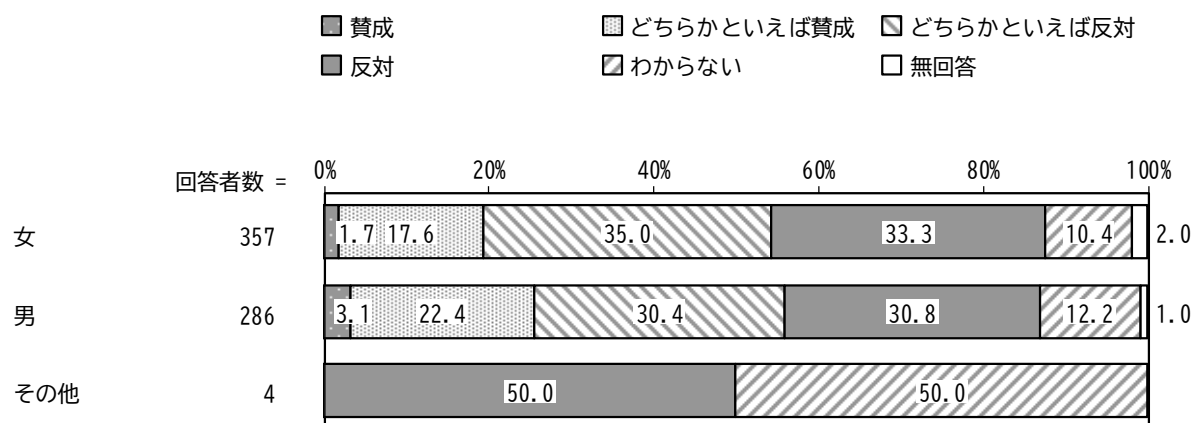
【国・県との比較】

国、愛知県調査と比較すると、「どちらかといえば反対」と「反対」の割合を合わせた“反対”の割合が高くなっています。



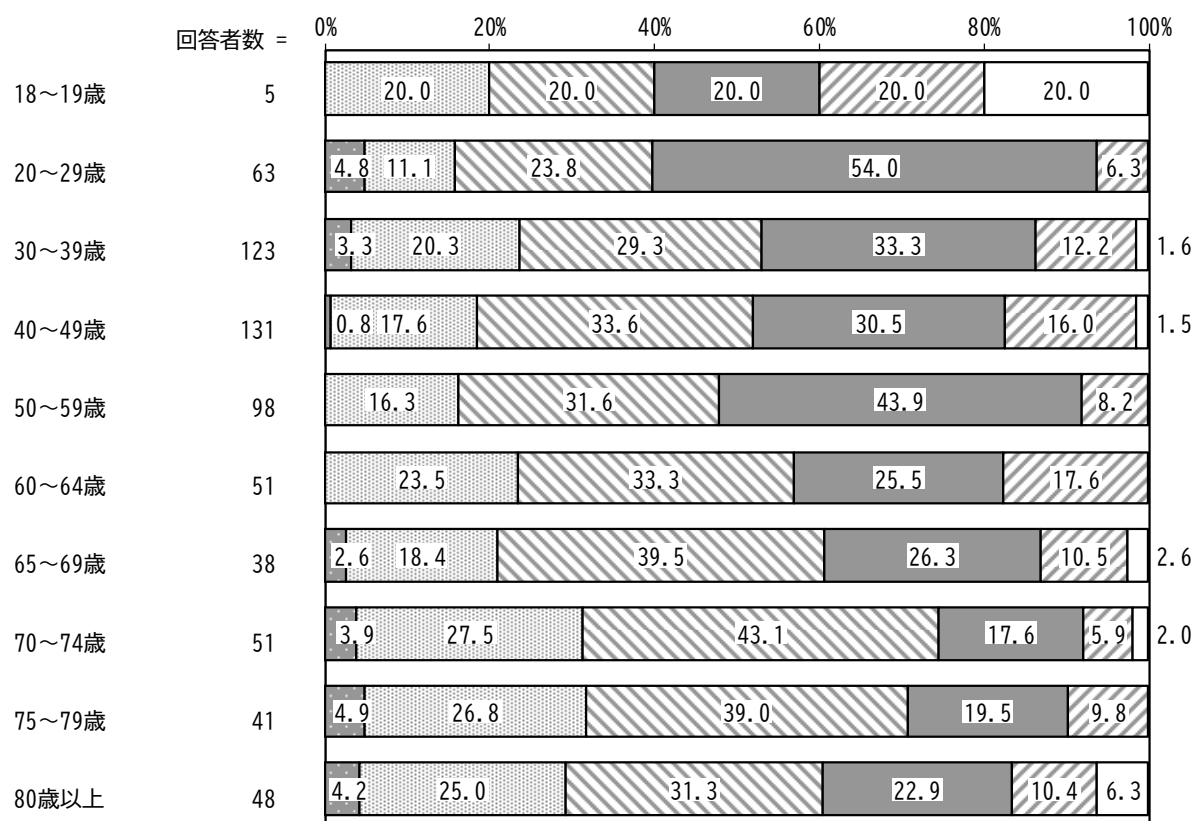
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

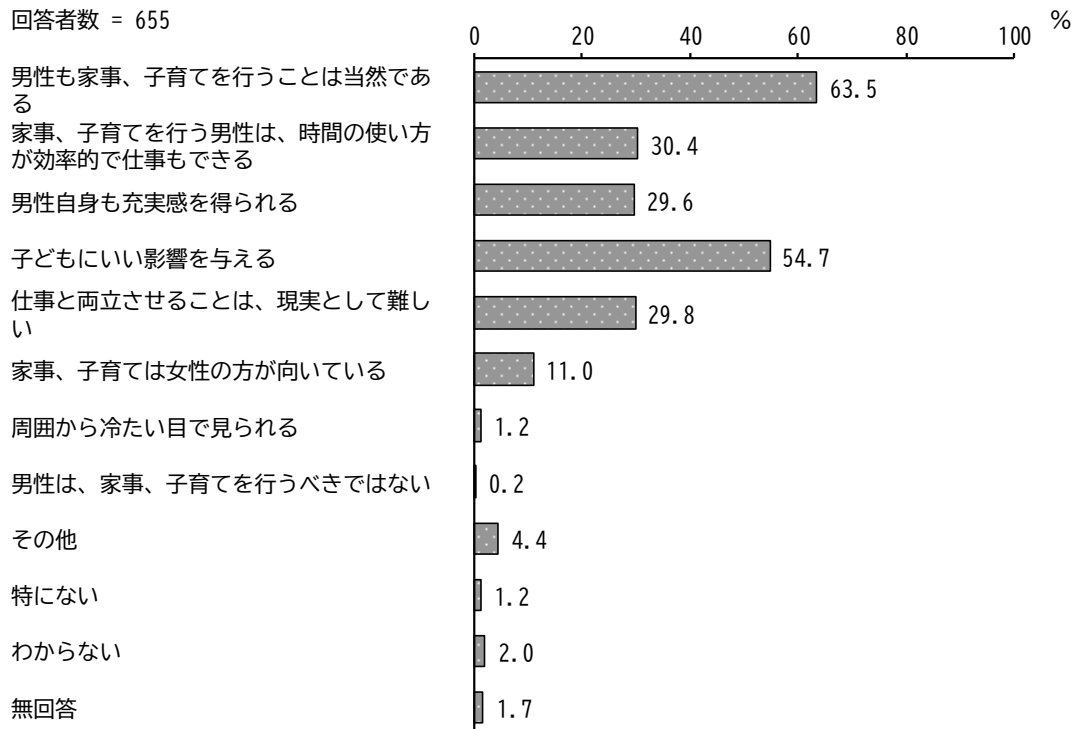
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳、50～59歳で「反対」の割合が、70～74歳で「どちらかといえば反対」の割合が高くなっています。



問9 あなたは、男性が家事、子育てを行うことについて、あなたの考えにあてはまるものを次の中からすべて選んでください。(〇はいくつでも)

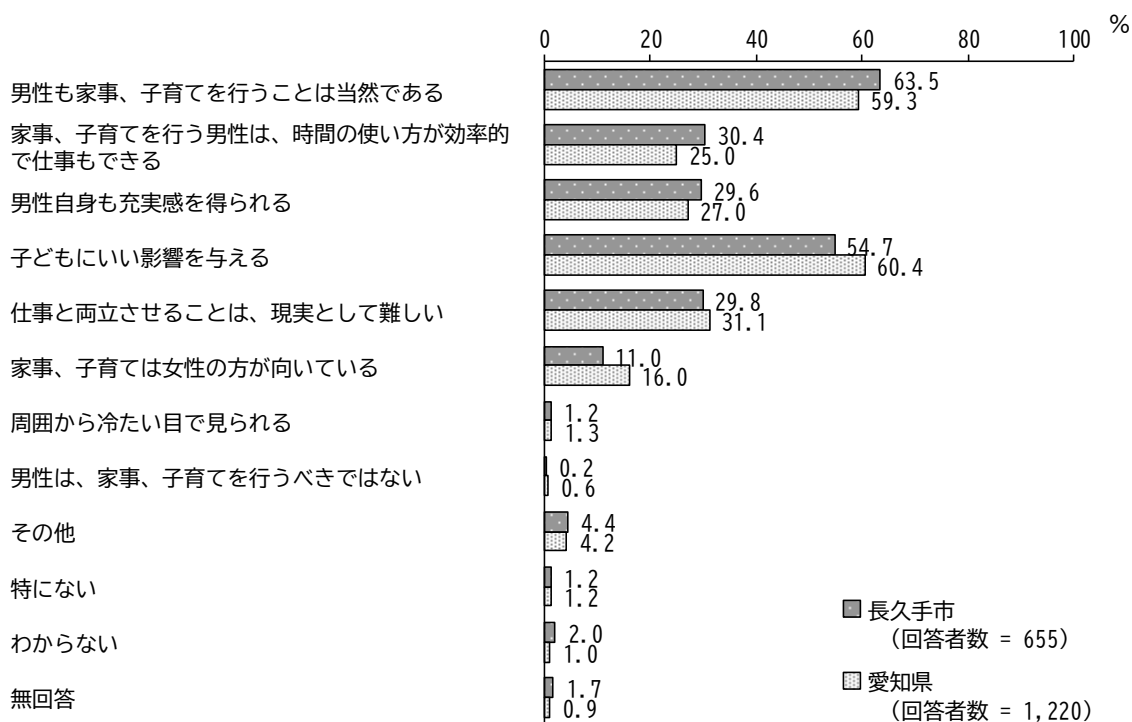
「男性も家事、子育てを行うことは当然である」の割合が63.5%と最も高く、次いで「子どもにいい影響を与える」の割合が54.7%、「家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる」の割合が30.4%となっています。

回答者数 = 655



【国・県との比較】

愛知県調査と比較すると、「家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる」「男性も家事、子育てを行うことは当然である」「男性自身も充実感を得られる」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性も家事、子育てを行うことは当然である	家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる	男性自身も充実感を得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事、子育ては女性の方が向いている	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事、子育てを行うべきではない	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	655	63.5	30.4	29.6	54.7	29.8	11.0	1.2	0.2	4.4	1.2	2.0	1.7
女	357	64.7	33.1	30.5	59.4	27.5	8.7	1.1	—	3.9	1.1	2.8	2.0
男	286	63.6	26.9	29.0	49.3	33.2	14.0	1.4	0.3	5.2	1.0	1.0	0.7
その他	4	50.0	—	—	25.0	—	—	—	—	—	25.0	—	—

【年齢別】

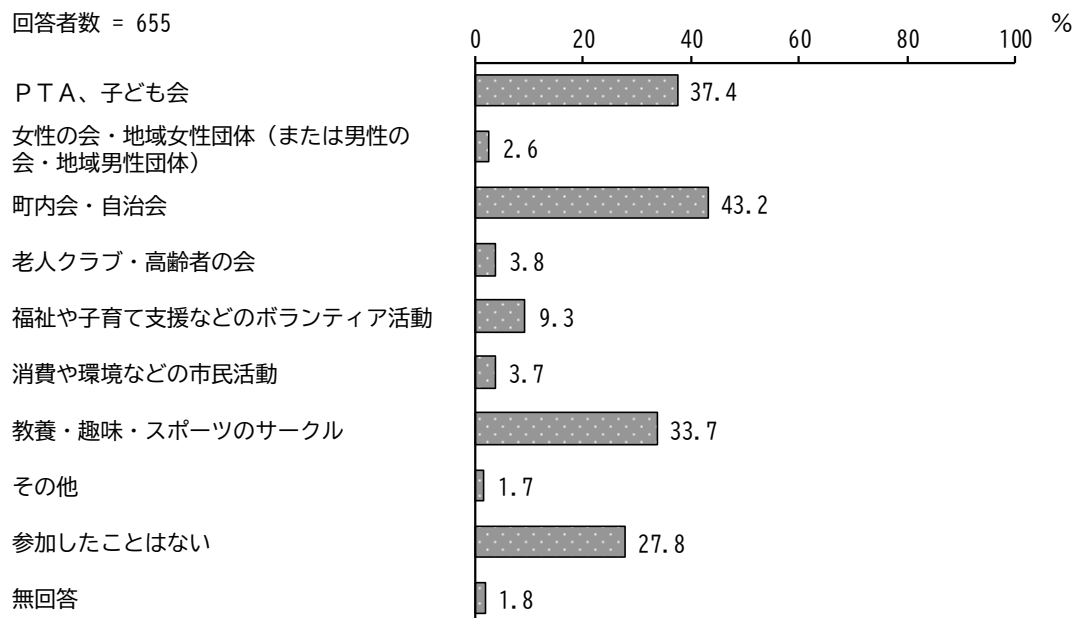
年齢別にみると、他に比べ、20～39歳で「男性も家事、子育てを行うことは当然である」「子どもにいい影響を与える」の割合が高くなっています。また、20～29歳で「家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	男性も家事、子育てを行うことは当然である	家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる	男性自身も充実感を得られる	子どもにいい影響を与える	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事、子育ては女性の方が向いている	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事、子育てを行うべきではない	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	655	63.5	30.4	29.6	54.7	29.8	11.0	1.2	0.2	4.4	1.2	2.0	1.7
18～19歳	5	20.0	—	20.0	20.0	40.0	—	—	—	—	—	20.0	20.0
20～29歳	63	73.0	47.6	38.1	60.3	28.6	6.3	4.8	—	3.2	1.6	—	1.6
30～39歳	123	72.4	26.8	30.9	61.8	30.9	12.2	1.6	—	4.9	0.8	0.8	0.8
40～49歳	131	67.9	26.0	26.0	54.2	33.6	9.9	0.8	0.8	4.6	0.8	0.8	1.5
50～59歳	98	69.4	31.6	28.6	54.1	28.6	9.2	1.0	—	4.1	—	3.1	—
60～64歳	51	54.9	31.4	33.3	51.0	27.5	19.6	—	—	9.8	2.0	—	—
65～69歳	38	60.5	26.3	15.8	47.4	28.9	10.5	—	—	7.9	2.6	—	2.6
70～74歳	51	68.6	27.5	29.4	58.8	21.6	5.9	—	—	3.9	2.0	5.9	—
75～79歳	41	31.7	31.7	34.1	43.9	34.1	17.1	2.4	—	—	2.4	4.9	—
80歳以上	48	50.0	31.3	33.3	52.1	29.2	14.6	—	—	2.1	2.1	4.2	6.3

問 10 現在（今までに）どのような活動に参加していますか（した経験がありますか）。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

「町内会・自治会」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「PTA、子ども会」の割合が 37.4%、「教養・趣味・スポーツのサークル」の割合が 33.7%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「PTA、子ども会」「福祉や子育て支援などのボランティア活動」の割合が、男で「参加したことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	PTA、子ども会	女性の会・地域女性団体（または男性の会・地域男性団体）	町内会・自治会	老人クラブ・高齢者の会	福祉や子育て支援などのボランティア活動	消費や環境などの市民活動	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	参加したことはない	無回答
全 体	655	37.4	2.6	43.2	3.8	9.3	3.7	33.7	1.7	27.8	1.8
女	357	54.6	3.6	43.7	2.8	12.0	3.9	35.6	1.4	24.6	2.2
男	286	16.8	1.4	42.3	5.2	6.3	3.1	31.5	2.1	32.2	1.0
その他	4	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—	25.0	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～39歳で「参加したことはない」の割合が、75～79歳で「教養・趣味・スポーツのサークル」の割合が高くなっています。

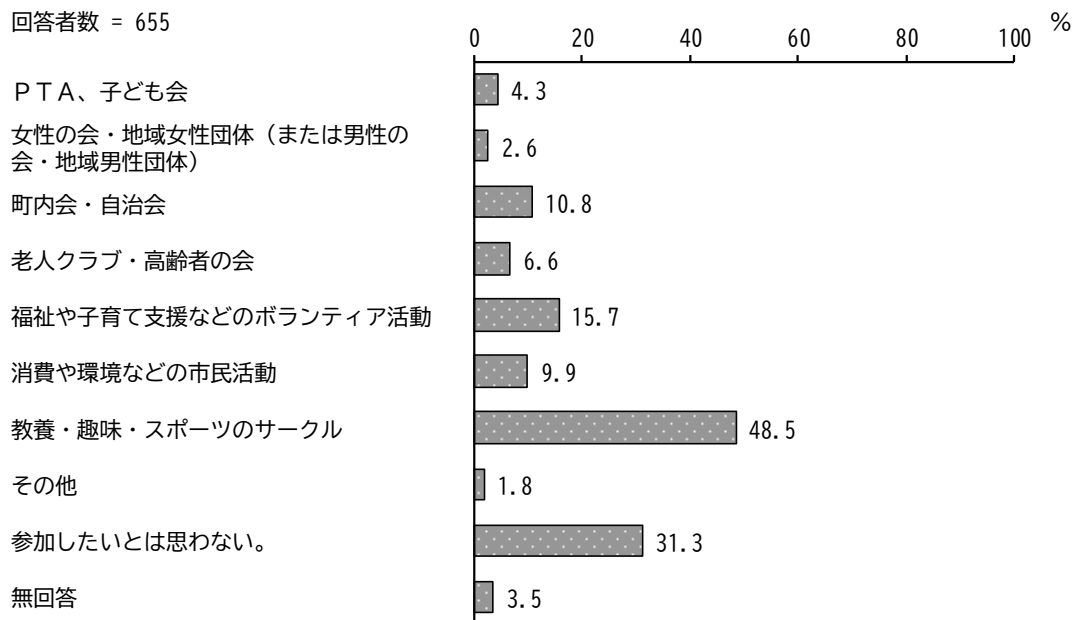
単位：％

区分	回答者数(件)	P T A、子ども会	女性の会・地域女性団体(または男性の会・地域男性団体)	町内会・自治会	老人クラブ・高齢者の会	福祉や子育て支援などのボランティア活動	消費や環境などの市民活動	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	参加したことはない	無回答
全 体	655	37.4	2.6	43.2	3.8	9.3	3.7	33.7	1.7	27.8	1.8
18～19 歳	5	40.0	—	—	—	—	20.0	40.0	—	20.0	20.0
20～29 歳	63	15.9	—	3.2	—	11.1	3.2	20.6	1.6	61.9	—
30～39 歳	123	13.8	—	24.4	—	4.9	2.4	18.7	0.8	51.2	1.6
40～49 歳	131	49.6	2.3	42.0	—	12.2	5.3	26.0	0.8	21.4	2.3
50～59 歳	98	50.0	1.0	56.1	—	9.2	3.1	39.8	1.0	21.4	—
60～64 歳	51	56.9	3.9	60.8	2.0	13.7	3.9	45.1	—	9.8	2.0
65～69 歳	38	47.4	—	57.9	—	2.6	—	34.2	5.3	18.4	2.6
70～74 歳	51	51.0	5.9	62.7	9.8	7.8	9.8	52.9	7.8	13.7	2.0
75～79 歳	41	39.0	4.9	61.0	17.1	14.6	—	53.7	—	9.8	—
80 歳以上	48	25.0	12.5	58.3	25.0	10.4	—	50.0	2.1	12.5	4.2

問 11 今後または引き続き、あなたが参加したい活動はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

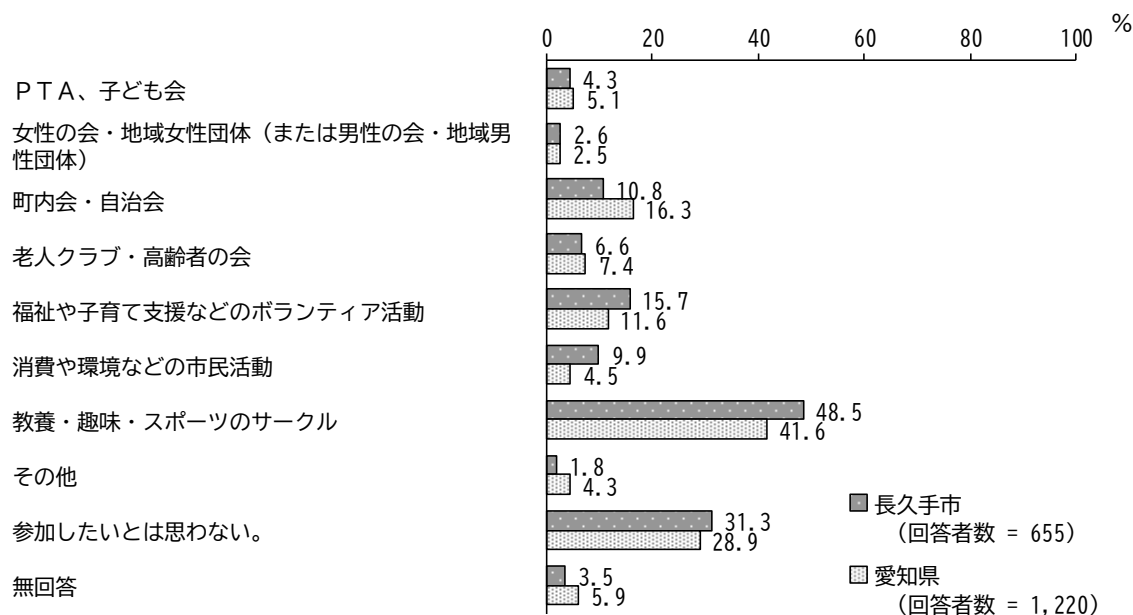
「教養・趣味・スポーツのサークル」の割合が48.5%と最も高く、次いで「参加したいとは思わない。」の割合が31.3%、「福祉や子育て支援などのボランティア活動」の割合が15.7%となっています。

回答者数 = 655



【国・県との比較】

愛知県調査と比較すると、「教養・趣味・スポーツのサークル」「消費や環境などの市民活動」の割合が高くなっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「教養・趣味・スポーツのサークル」の割合が、男で「町内会・自治会」「消費や環境などの市民活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	PTA、子ども会	女性の会・地域女性団体(または男性の会・地域男性団体)	町内会・自治会	老人クラブ・高齢者の会	福祉や子育て支援などのボランティア活動	消費や環境などの市民活動	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	参加したいとは思わない。	無回答
全 体	655	4.3	2.6	10.8	6.6	15.7	9.9	48.5	1.8	31.3	3.5
女	357	5.3	2.8	7.0	6.2	16.8	7.6	51.8	1.1	30.5	4.2
男	286	3.1	2.4	15.7	7.3	14.3	12.9	44.8	2.8	32.5	1.7
その他	4	—	—	25.0	—	—	—	25.0	—	50.0	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～39 歳で「参加したいとは思わない。」の割合が、75～79 歳で「教養・趣味・スポーツのサークル」の割合が高くなっています。

単位：％

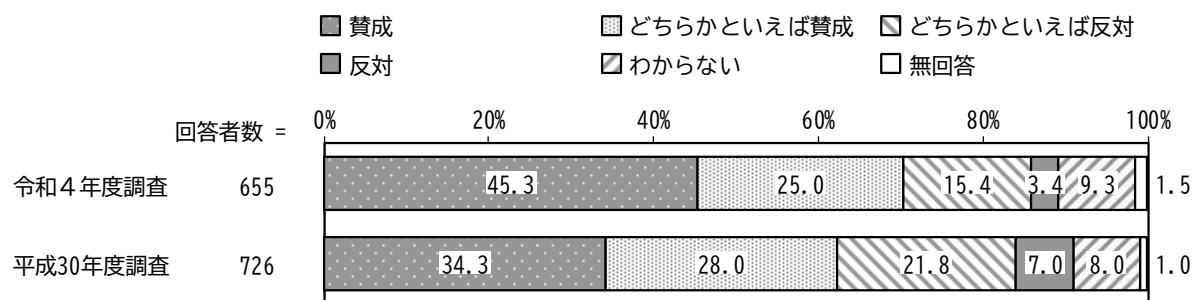
区分	回答者数(件)	PTA、子ども会	女性の会・地域女性団体(または男性の会・地域男性団体)	町内会・自治会	老人クラブ・高齢者の会	福祉や子育て支援などのボランティア活動	消費や環境などの市民活動	教養・趣味・スポーツのサークル	その他	参加したいとは思わない。	無回答
全 体	655	4.3	2.6	10.8	6.6	15.7	9.9	48.5	1.8	31.3	3.5
18～19 歳	5	—	—	20.0	—	—	20.0	60.0	—	—	20.0
20～29 歳	63	7.9	3.2	6.3	1.6	12.7	4.8	39.7	3.2	46.0	1.6
30～39 歳	123	8.1	3.3	8.1	0.8	12.2	5.7	35.0	1.6	45.5	3.3
40～49 歳	131	8.4	1.5	13.0	—	17.6	13.0	48.9	0.8	33.6	3.1
50～59 歳	98	1.0	4.1	9.2	1.0	16.3	10.2	57.1	2.0	28.6	1.0
60～64 歳	51	2.0	2.0	9.8	3.9	19.6	15.7	58.8	3.9	17.6	—
65～69 歳	38	—	2.6	15.8	2.6	21.1	10.5	57.9	—	31.6	2.6
70～74 歳	51	—	2.0	7.8	11.8	15.7	15.7	51.0	2.0	19.6	7.8
75～79 歳	41	—	2.4	12.2	22.0	12.2	9.8	61.0	2.4	19.5	2.4
80 歳以上	48	—	2.1	20.8	45.8	18.8	4.2	43.8	2.1	16.7	8.3

(5) 結婚、子育てについて

問 12 結婚について、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

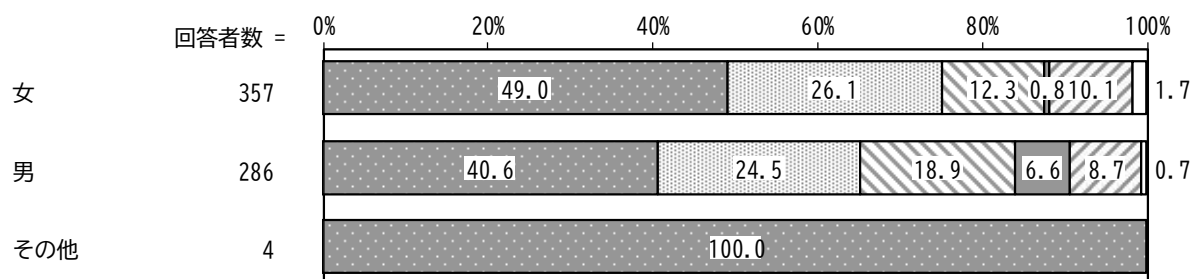
「賛成」の割合が45.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が25.0%、「どちらかといえば反対」の割合が15.4%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「賛成」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえば反対」の割合が減少しています。



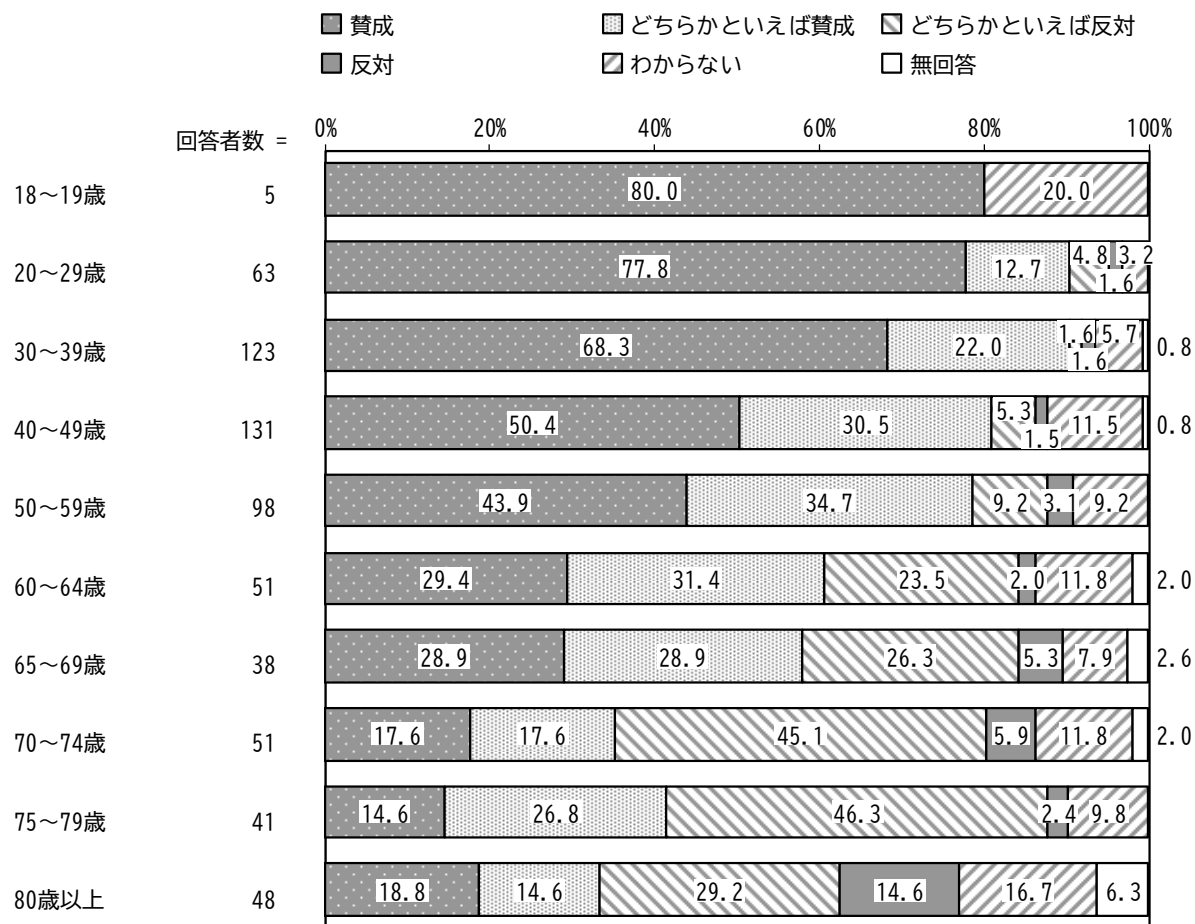
【性別】

性別にみると、他と比べ、女で「賛成」の割合が高くなっています。



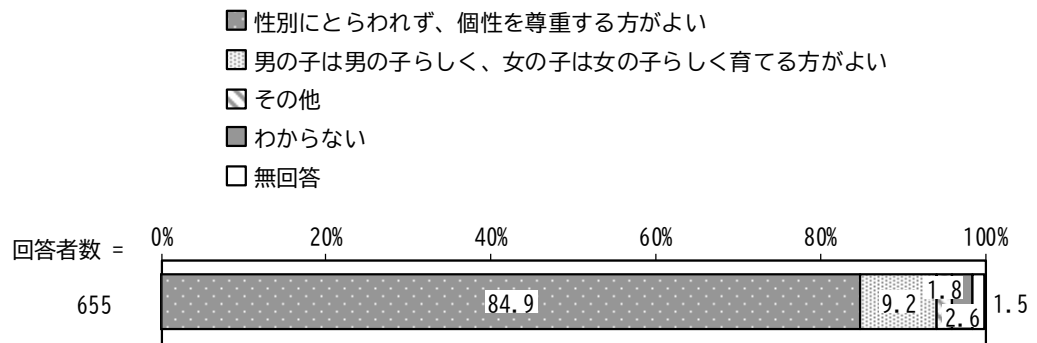
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が低くなるにつれ、「賛成」の割合が高くなっています。



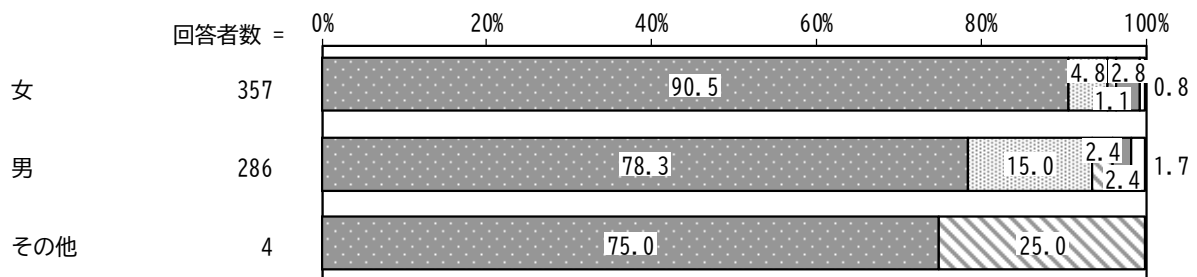
問 13 あなたは、子育てについてどのような考えを持っていますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

「性別にとらわれず、個性を尊重する方がよい」の割合が84.9%と最も高くなっています。



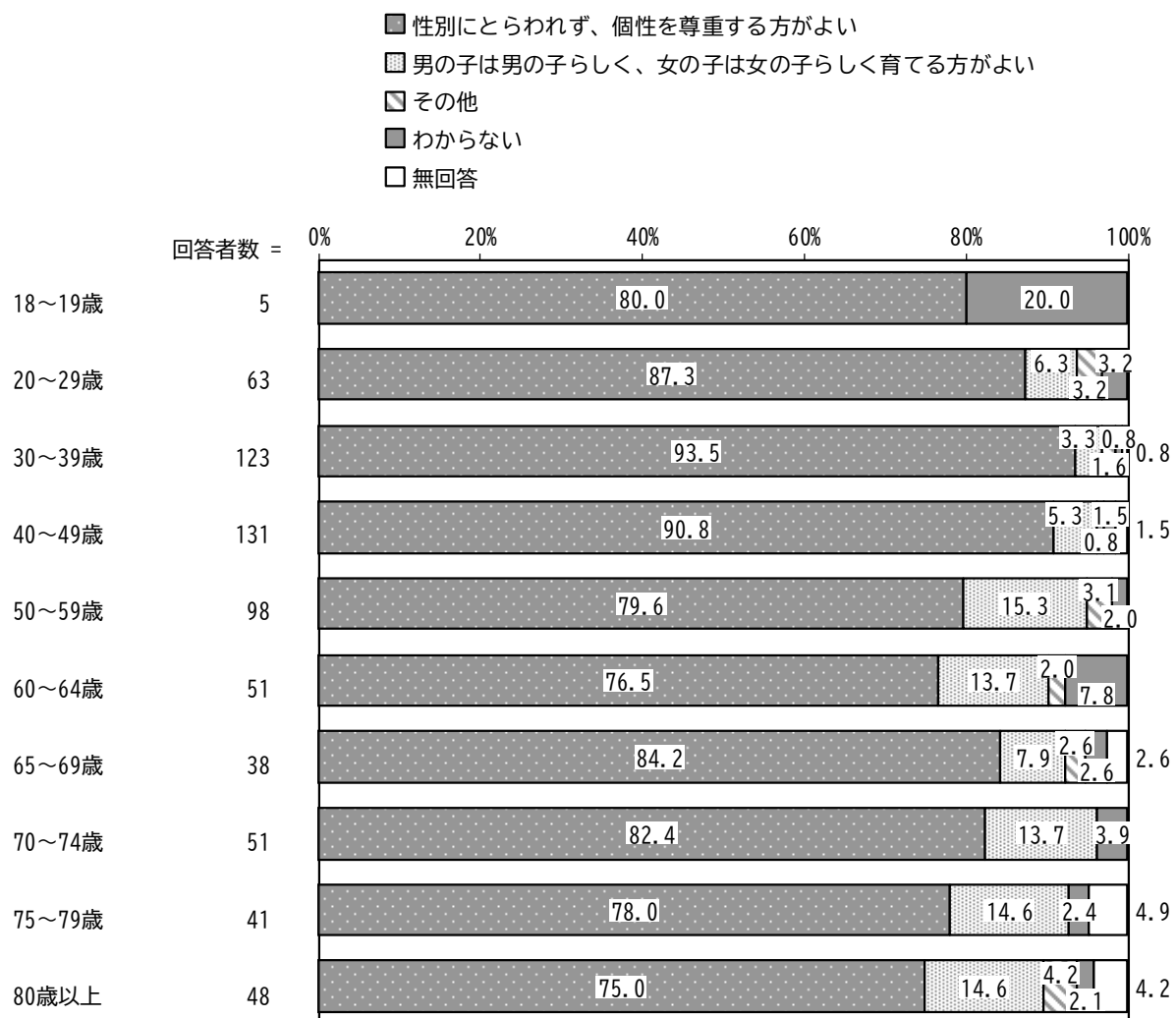
【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「性別にとらわれず、個性を尊重する方がよい」の割合が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～49歳で「性別にとらわれず、個性を尊重する方がよい」の割合が高くなっています。

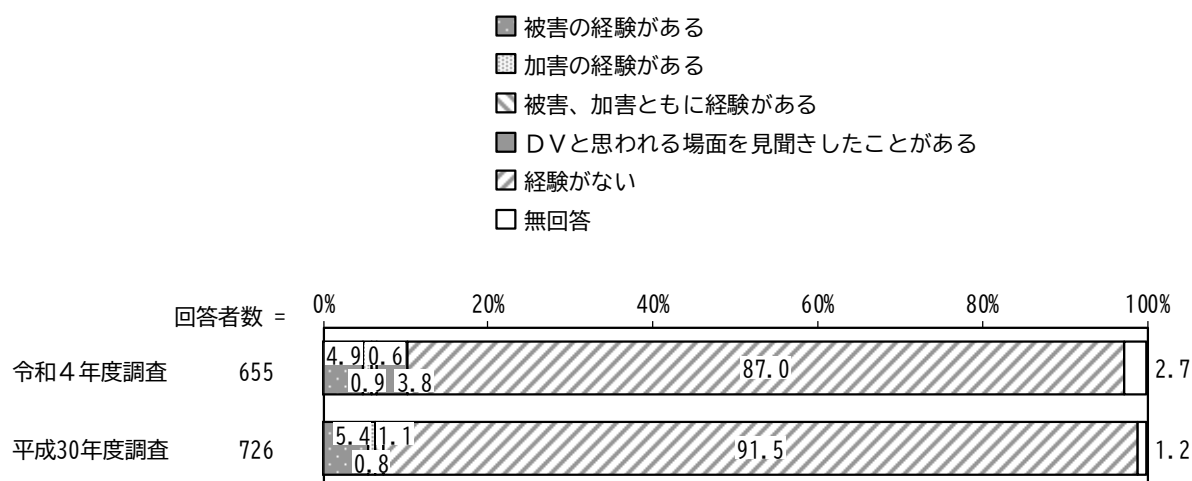


(6) DV（ドメスティック・バイオレンス）について

問 14 あなたは、配偶者、パートナーまたは恋人との間において、DVの経験がありますか。次の中から1つ選んでください。（○は1つ）

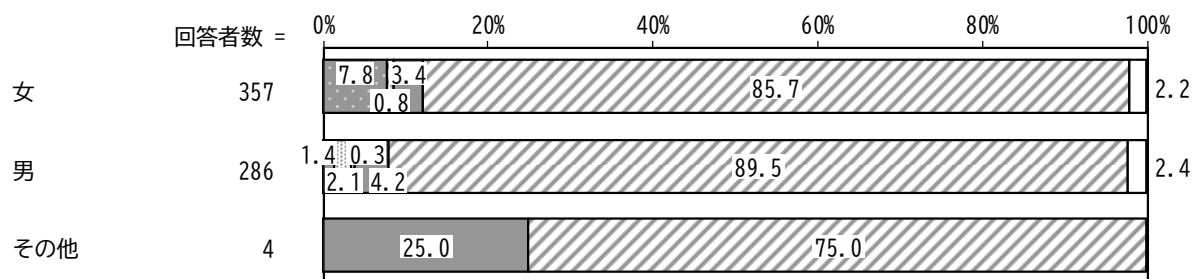
「経験がない」の割合が87.0%と最も高くなっています。一方、「被害の経験がある」の割合が4.9%、「加害の経験がある」の割合が0.9%、「被害、加害ともに経験がある」の割合が0.6%となっています。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



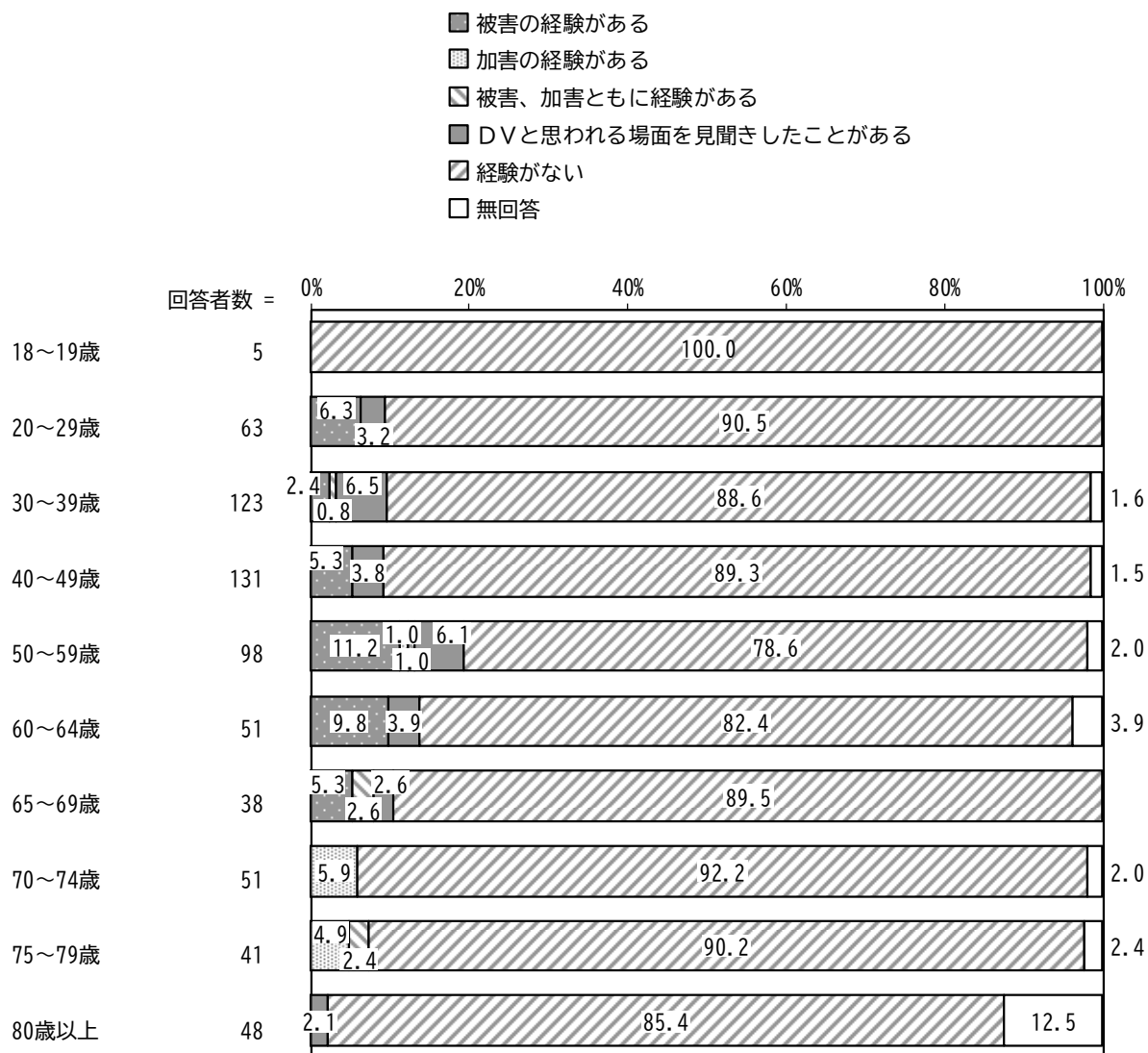
【性別】

性別にみると、他と比べ、女で「被害の経験がある」の割合が、男で、「加害の経験がある」の割合が高くなっています。



【年齢別】

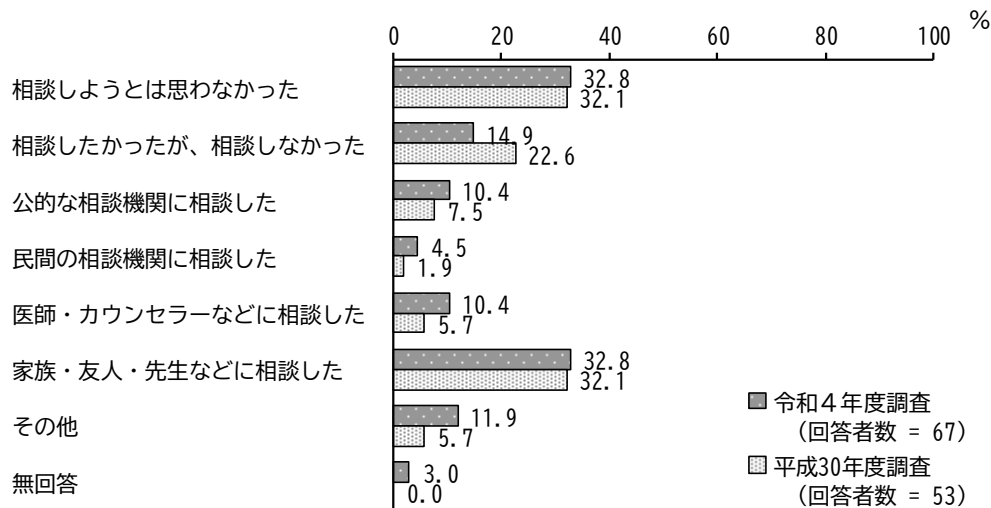
年齢別にみると、「被害の経験がある」の割合が50～59歳で11.2%、50～59歳で9.8%、「加害の経験がある」の割合が70～74歳で5.9%、75～79歳で4.9%、「被害、加害ともに経験がある」の割合が30～39歳で6.5%、50～59歳で6.1%と、他に比べ割合が高くなっています。



問15 問14で「1」～「4」と回答した方にお聞きします。あなたは、DVについて誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「相談しようとは思わなかった」、「家族・友人・先生などに相談した」の割合が32.8%と最も高く、次いで「相談したかったが、相談しなかった」の割合が14.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「相談したかったが、相談しなかった」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「相談しようとは思わなかった」の割合が、女で「相談したかったが、相談しなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	相談しようとは思わなかった	相談したかったが、相談しなかった	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	医師・カウンセラーなどに相談した	家族・友人・先生などに相談した	その他	無回答
全 体	67	32.8	14.9	10.4	4.5	10.4	32.8	11.9	3.0
女	43	23.3	20.9	9.3	4.7	11.6	37.2	11.6	2.3
男	23	52.2	4.3	13.0	4.3	4.3	26.1	13.0	4.3
その他	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、50～59 歳で「公的な相談機関に相談した」「家族・友人・先生などに相談した」の割合が、30～39 歳で「家族・友人・先生などに相談した」の割合が、40～49 歳で「相談しようとは思わなかった」の割合が高くなっています。

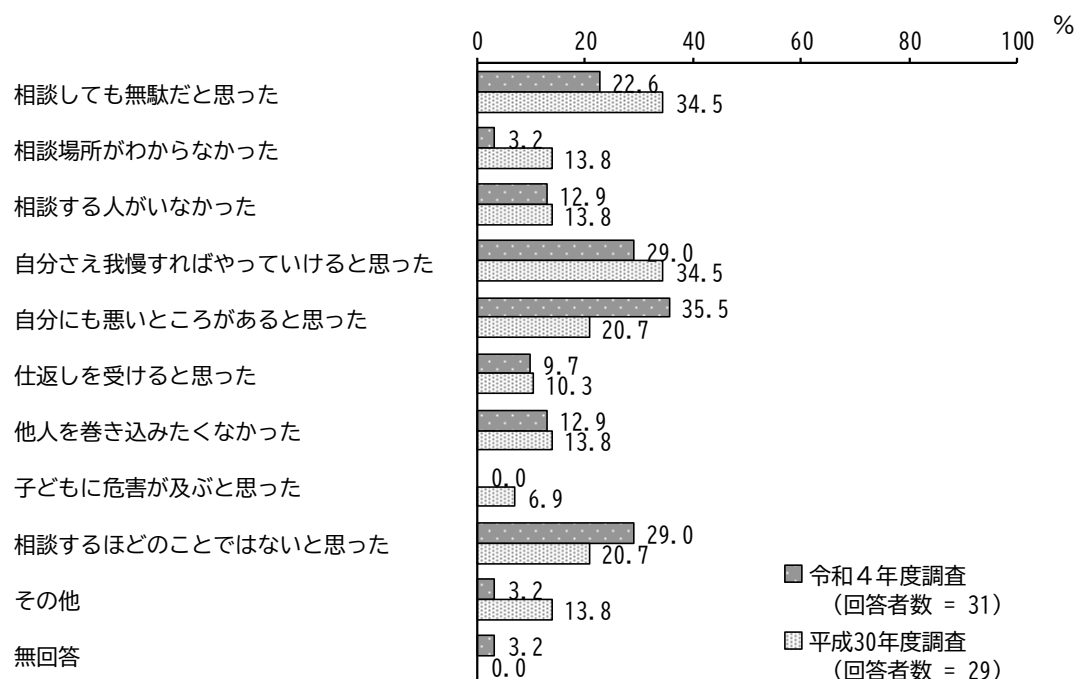
単位：％

区分	回答者数(件)	相談しようとは思わなかった	相談したかったが、相談しなかった	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	医師・カウンセラーなどに相談した	家族・友人・先生などに相談した	その他	無回答
全 体	67	32.8	14.9	10.4	4.5	10.4	32.8	11.9	3.0
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	6	—	33.3	—	—	33.3	33.3	16.7	—
30～39 歳	12	33.3	—	8.3	—	—	41.7	16.7	8.3
40～49 歳	12	41.7	16.7	8.3	—	16.7	33.3	16.7	—
50～59 歳	19	26.3	15.8	21.1	15.8	15.8	42.1	5.3	—
60～64 歳	7	14.3	28.6	—	—	—	28.6	14.3	14.3
65～69 歳	4	50.0	—	25.0	—	—	25.0	—	—
70～74 歳	3	66.7	—	—	—	—	—	33.3	—
75～79 歳	3	100.0	—	—	—	—	—	—	—
80 歳以上	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—

問 16 問 15 で「1」または「2」と回答した方にお聞きします。あなたが、誰（どこ）にも相談しなかったのは、なぜですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

「自分にも悪いところがあると思った」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思った」、「相談するほどのことではないと思った」の割合が 29.0%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」の割合が増加しています。一方、「相談しても無駄だと思った」「相談場所がわからなかった」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「子どもに危害が及ぶと思った」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「相談しても無駄だと思った」「相談する人がいなかった」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」の割合が、男で「自分にも悪いところがあると思った」「相談するほどのことではないと思った」の割合が、高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	相談しても無駄だと思った	相談場所がわからなかった	相談する人がいなかった	自分さえ我慢すればやっていけると思った	自分にも悪いところがあると思った	仕返しを受けると思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
全 体	31	22.6	3.2	12.9	29.0	35.5	9.7	12.9	－	29.0	3.2	3.2
女	18	27.8	5.6	22.2	33.3	22.2	11.1	16.7	－	16.7	5.6	5.6
男	13	15.4	－	－	23.1	53.8	7.7	7.7	－	46.2	－	－
その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

【年齢別】

回答者数が小数のため、コメントは控えます。

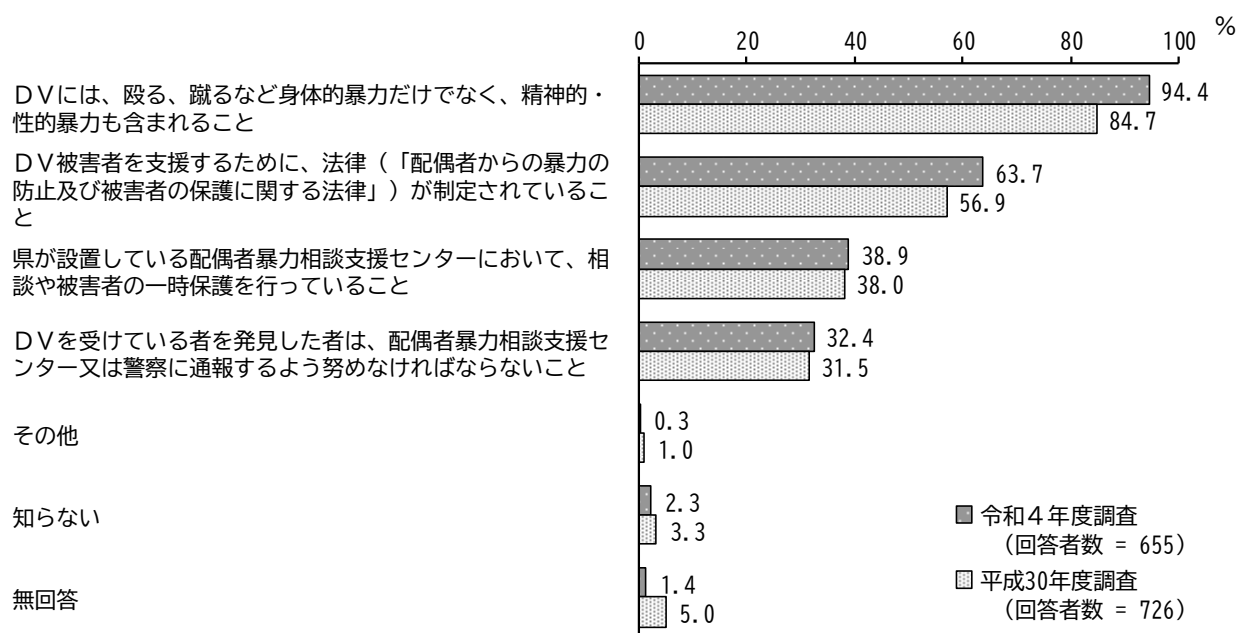
単位：％

区分	回答者数(件)	相談しても無駄だと思った	相談場所がわからなかった	相談する人がいなかった	自分さえ我慢すればやっていけると思った	自分にも悪いところがあると思った	仕返しを受けると思った	他人を巻き込みたくなかった	子どもに危害が及ぶと思った	相談するほどのことではないと思った	その他	無回答
全 体	31	22.6	3.2	12.9	29.0	35.5	9.7	12.9	－	29.0	3.2	3.2
18～19 歳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20～29 歳	2	50.0	－	－	100.0	100.0	50.0	100.0	－	－	－	－
30～39 歳	4	25.0	－	－	25.0	25.0	－	－	－	－	－	25.0
40～49 歳	6	16.7	16.7	－	16.7	16.7	－	－	－	50.0	16.7	－
50～59 歳	8	25.0	－	12.5	50.0	25.0	25.0	12.5	－	12.5	－	－
60～64 歳	3	33.3	－	66.7	33.3	33.3	－	33.3	－	33.3	－	－
65～69 歳	2	－	－	－	－	50.0	－	－	－	100.0	－	－
70～74 歳	2	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－
75～79 歳	3	－	－	33.3	－	33.3	－	－	－	66.7	－	－
80 歳以上	1	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

問 17 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」の割合が94.4%と最も高く、次いで「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」の割合が63.7%、「県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」の割合が38.9%となっています。

平成30年度調査と比較すると、「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」の割合が増加しています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること	DV被害者を支援するために、法律（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）が制定されていること	県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること	DVを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター又は警察に通報するよう努めなければならないこと	その他	知らない	無回答
全 体	655	94.4	63.7	38.9	32.4	0.3	2.3	1.4
女	357	96.4	65.5	47.9	33.1	－	1.4	1.1
男	286	93.4	62.2	28.7	32.2	0.3	2.8	1.0
その他	4	50.0	25.0	－	－	25.0	25.0	－

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、40～64 歳で「県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること」の割合が、50～59 歳で「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること」の割合が高くなっています。

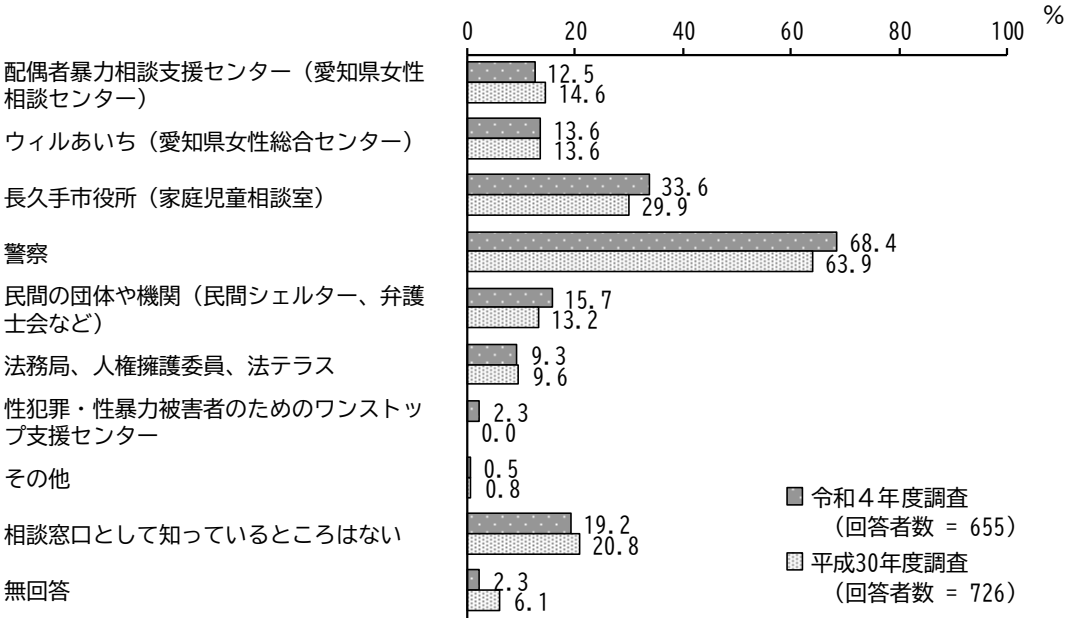
単位：％

区分	回答者数（件）	DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること	DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること	県が設置している配偶者暴力相談支援センターにおいて、相談や被害者の一時保護を行っていること	DVを受けている者を発見した者は、配偶者暴力相談支援センター又は警察に通報するよう努めなければならないこと	その他	知らない	無回答
全 体	655	94.4	63.7	38.9	32.4	0.3	2.3	1.4
18～19 歳	5	100.0	60.0	20.0	—	—	—	—
20～29 歳	63	98.4	46.0	28.6	33.3	—	1.6	—
30～39 歳	123	98.4	68.3	37.4	31.7	—	1.6	—
40～49 歳	131	94.7	66.4	47.3	38.2	—	2.3	0.8
50～59 歳	98	95.9	72.4	50.0	35.7	—	2.0	—
60～64 歳	51	96.1	62.7	47.1	31.4	2.0	2.0	—
65～69 歳	38	97.4	55.3	23.7	13.2	—	—	2.6
70～74 歳	51	92.2	62.7	35.3	33.3	2.0	3.9	2.0
75～79 歳	41	95.1	68.3	36.6	34.1	—	—	—
80 歳以上	48	77.1	56.3	22.9	29.2	—	6.3	8.3

問 18 あなたは、配偶者、パートナーまたは恋人からの暴力について相談できる窓口をご存知ですか。知っている相談窓口をすべて選んでください。（○はいくつでも）

「警察」の割合が 68.4%と最も高く、次いで「長久手市役所（家庭児童相談室）」の割合が 33.6%、「相談窓口として知っているところはない」の割合が 19.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）	ウィルあいち（愛知県女性総合センター）	長久手市役所（家庭児童相談室）	警察	民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）	法務局、人権擁護委員、法テラス	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他	相談窓口として知っているところはない	無回答
全 体	655	12.5	13.6	33.6	68.4	15.7	9.3	2.3	0.5	19.2	2.3
女	357	12.6	15.4	36.4	71.4	19.0	8.4	2.0	—	16.5	1.7
男	286	12.6	11.2	30.4	65.7	11.5	10.5	2.4	0.7	22.7	2.1
その他	4	—	—	—	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—

【年齢別】

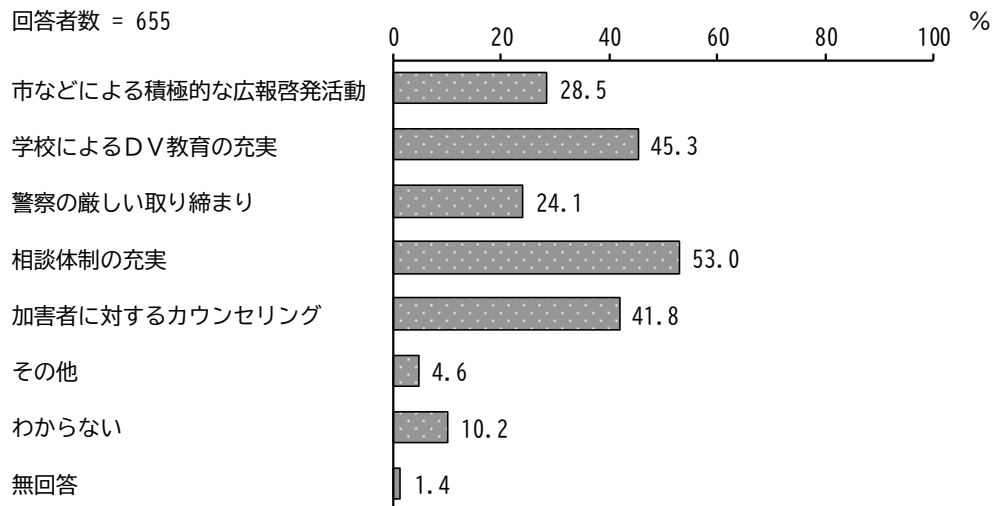
年齢別にみると、他に比べ、65～69 歳で「相談窓口として知っているところはない」の割合が、75～79 歳で「長久手市役所（家庭児童相談室）」の割合が、40～49 歳で「警察」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	配偶者暴力相談支援センター（愛知県女性相談センター）	ウィルあいち（愛知県女性総合センター）	長久手市役所（家庭児童相談室）	警察	民間の団体や機関（民間シェルター、弁護士会など）	法務局、人権擁護委員、法テラス	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他	相談窓口として知っているところはない	無回答
全 体	655	12.5	13.6	33.6	68.4	15.7	9.3	2.3	0.5	19.2	2.3
18～19 歳	5	—	20.0	—	60.0	20.0	20.0	—	—	20.0	20.0
20～29 歳	63	11.1	11.1	25.4	63.5	11.1	9.5	3.2	—	22.2	—
30～39 歳	123	9.8	8.1	31.7	73.2	18.7	7.3	0.8	—	20.3	—
40～49 歳	131	11.5	9.9	38.2	79.4	23.7	9.2	3.1	—	13.7	3.8
50～59 歳	98	14.3	22.4	31.6	73.5	15.3	6.1	4.1	—	19.4	1.0
60～64 歳	51	19.6	21.6	27.5	70.6	15.7	11.8	3.9	2.0	15.7	—
65～69 歳	38	5.3	10.5	23.7	44.7	5.3	7.9	2.6	2.6	42.1	2.6
70～74 歳	51	13.7	13.7	39.2	70.6	13.7	15.7	—	2.0	11.8	2.0
75～79 歳	41	14.6	12.2	48.8	65.9	12.2	9.8	—	—	14.6	—
80 歳以上	48	16.7	14.6	39.6	41.7	6.3	12.5	2.1	—	25.0	8.3

問 19 DVを防止し、配偶者などによりよい関係を築いていくために必要な事はどんなことだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「相談体制の充実」の割合が53.0%と最も高く、次いで「学校によるDV教育の充実」の割合が45.3%、「加害者に対するカウンセリング」の割合が41.8%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「加害者に対するカウンセリング」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	市などによる積極的な 広報啓発活動	学校によるDV教育の 充実	警察の厳しい取り 締まり	相談体制の充実	加害者に対するカ ウンセリング	その他	わからない	無回答
全 体	655	28.5	45.3	24.1	53.0	41.8	4.6	10.2	1.4
女	357	26.3	48.7	22.1	56.9	50.7	3.6	9.8	0.8
男	286	31.8	42.0	26.2	48.6	30.8	5.2	11.2	1.4
その他	4	—	25.0	50.0	25.0	—	50.0	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29 歳で「警察の厳しい取り締まり」の割合が、65～69 歳で「わからない」の割合が、75 歳以上で「市などによる積極的な広報啓発活動」の割合が高くなっています。

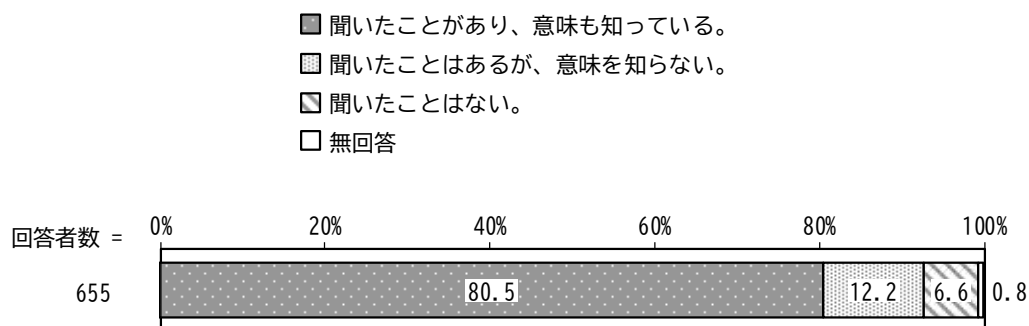
単位：％

区分	回答者数(件)	市などによる積極的な広報啓発活動	学校によるDV教育の充実	警察の厳しい取り締まり	相談体制の充実	加害者に対する力ウンセリング	その他	わからない	無回答
全 体	655	28.5	45.3	24.1	53.0	41.8	4.6	10.2	1.4
18～19 歳	5	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	—	20.0	20.0
20～29 歳	63	34.9	47.6	44.4	54.0	42.9	3.2	1.6	—
30～39 歳	123	25.2	51.2	39.0	56.1	43.9	4.1	8.1	—
40～49 歳	131	26.0	47.3	24.4	56.5	44.3	6.9	6.1	1.5
50～59 歳	98	27.6	38.8	16.3	44.9	52.0	3.1	11.2	—
60～64 歳	51	19.6	41.2	19.6	49.0	37.3	7.8	15.7	—
65～69 歳	38	26.3	36.8	10.5	44.7	36.8	5.3	26.3	—
70～74 歳	51	23.5	52.9	13.7	64.7	31.4	5.9	11.8	—
75～79 歳	41	41.5	46.3	17.1	61.0	41.5	4.9	12.2	—
80 歳以上	48	43.8	39.6	6.3	45.8	27.1	—	14.6	8.3

(7) 性の多様性（LGBTQ等）について

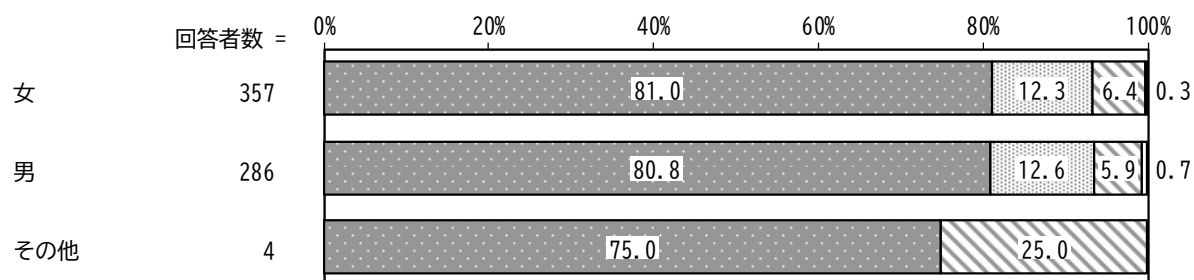
問 20 あなたは、「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBTQ等）」という言葉聞いたことがありますか。（○は1つ）

「聞いたことがあり、意味も知っている。」の割合が80.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味を知らない。」の割合が12.2%となっています。



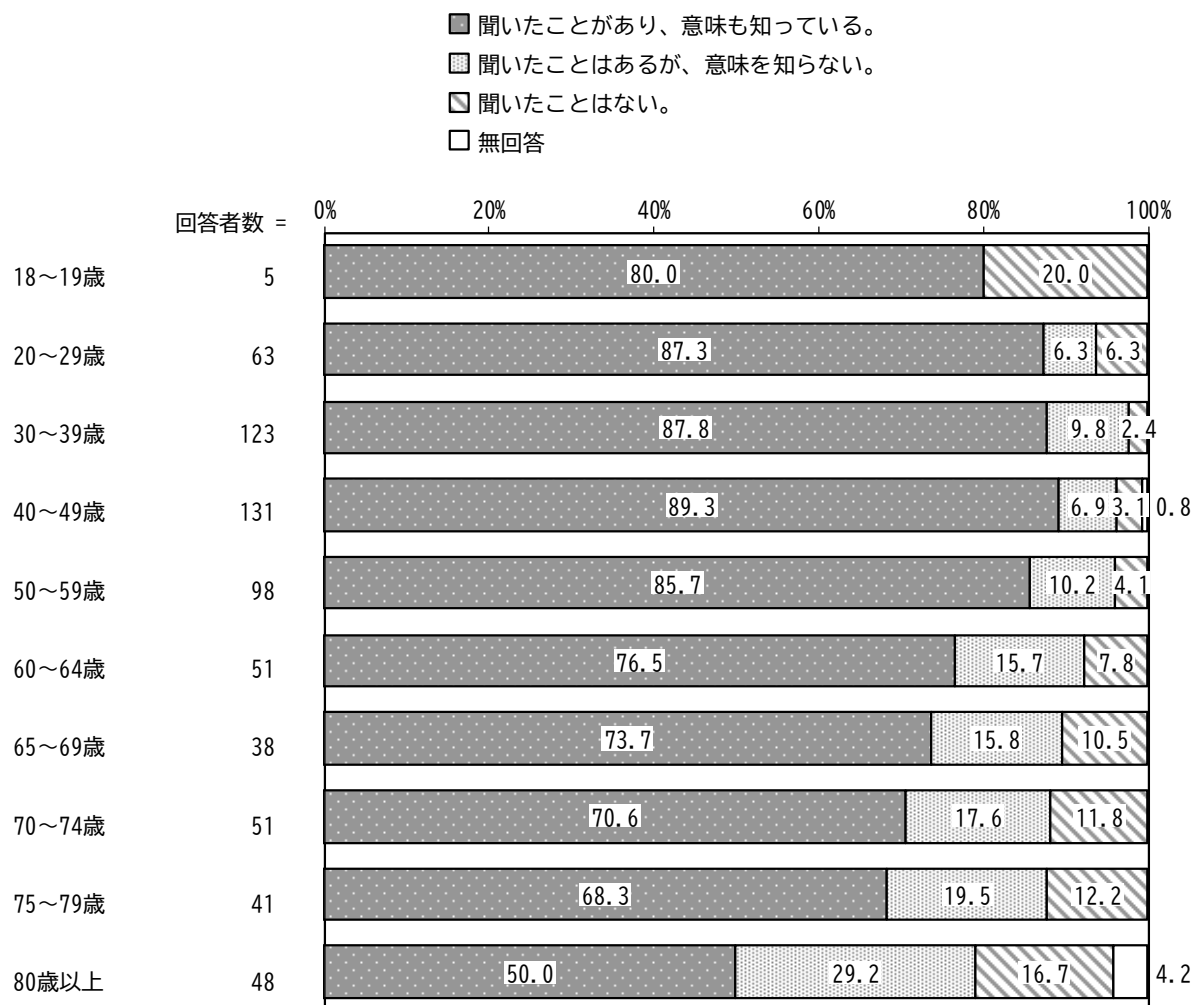
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

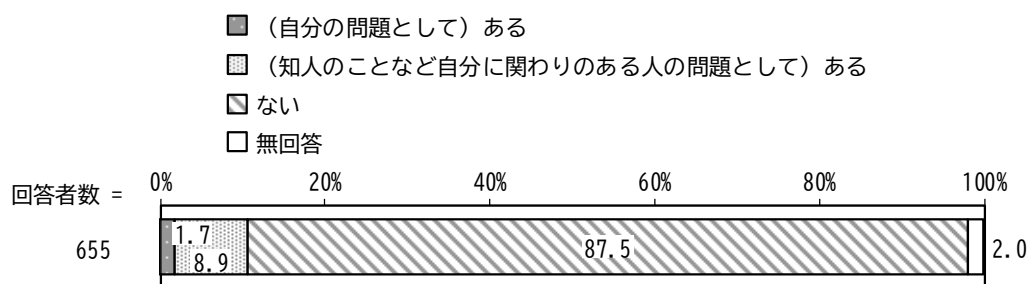
年齢別にみると、20 歳以上で年齢が高くなるにつれ、「聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が高くなっています。



問 21 あなたは、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBTQ等）のことを、自分や自分に関わりのある人の問題として、悩んだり、考えたりしたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。（○は1つ）

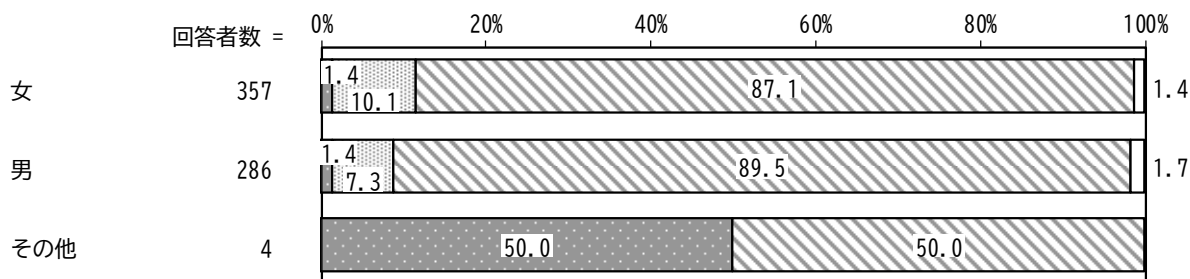
「ない」の割合が87.5%と最も高くなっています。

一方、「(自分の問題として) ある」の割合が1.7%、「(知人のことなど自分に関わりのある人の問題として) ある」の割合が8.9%となっており、自分や自分に関わりのある人の問題として、悩んだり、考えたりしたことのある割合が約1割となっています。



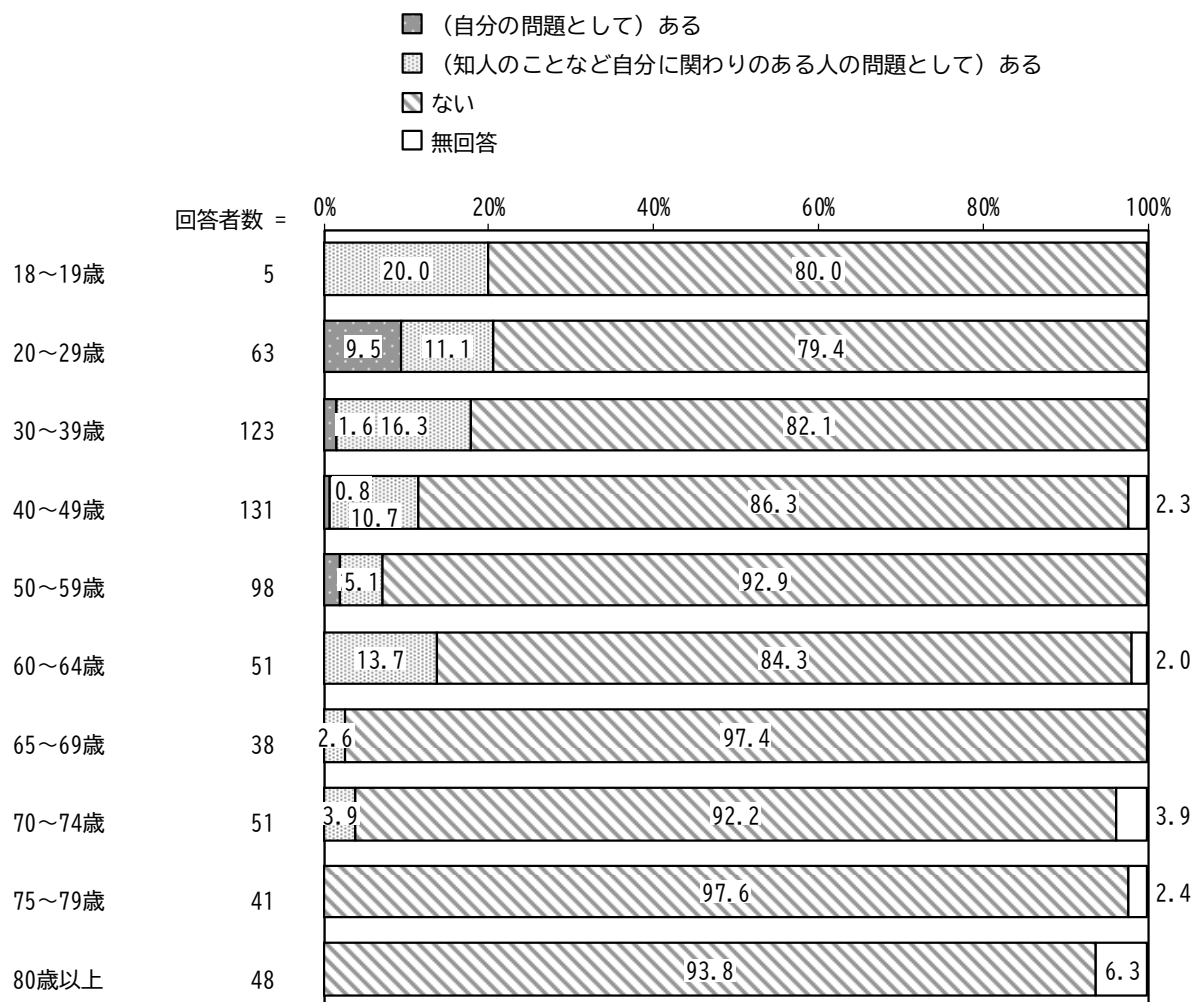
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

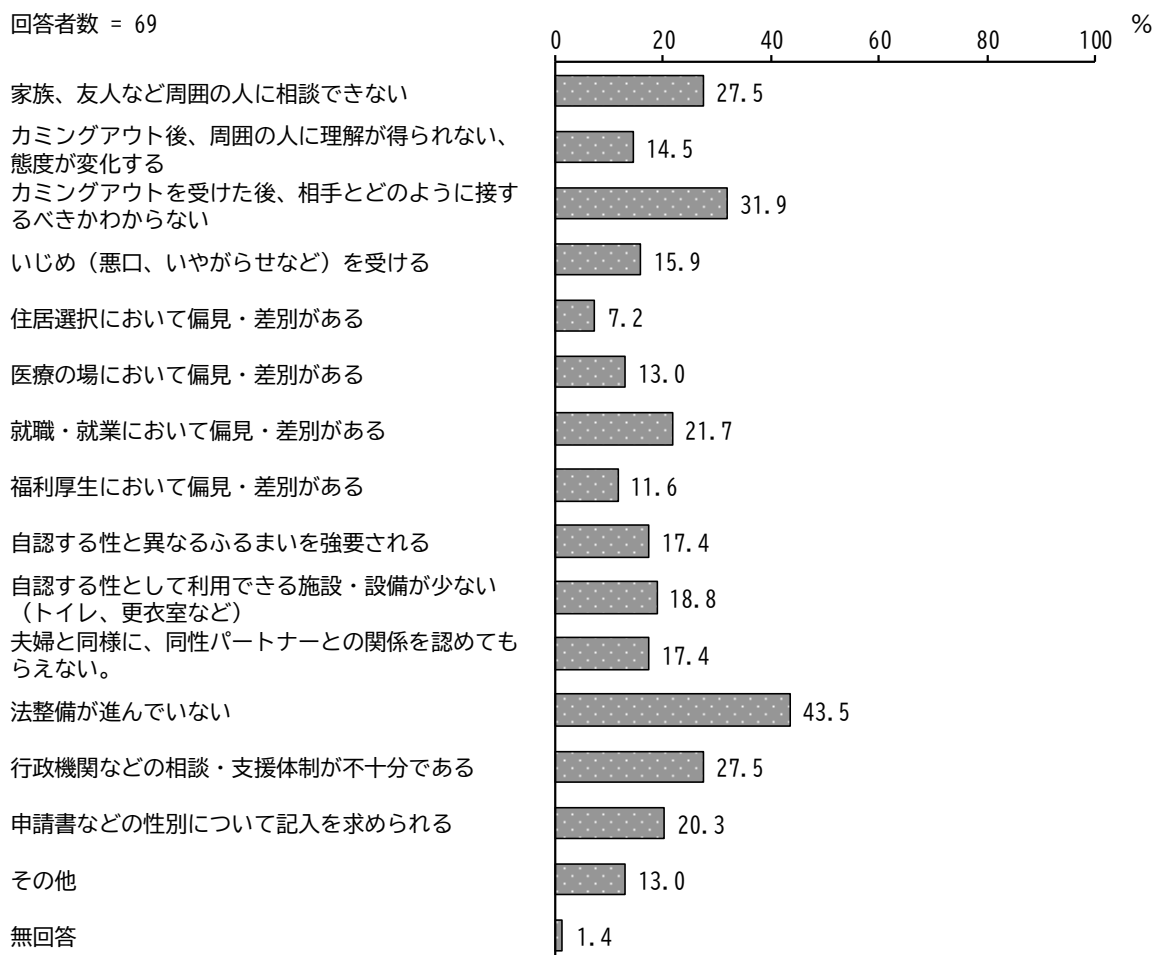
年齢別にみると、年齢は低いほど、自分や自分に関わりのある人の問題として、悩んだり、考えたりしたことのある割合が高くなっています。特に 20～29 歳で、「(自分の問題として) ある」の割合が 9.5%と高くなっています。



問22 問21で「1」または「2」と答えた方にお聞きします。どのようなことで悩まれましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

「法整備が進んでいない」の割合が43.5%と最も高く、次いで「カミングアウトを受けた後、相手とどのように接するべきかわからない」の割合が31.9%、「家族、友人など周囲の人に相談できない」、「行政機関などの相談・支援体制が不十分である」の割合が27.5%となっています。

回答者数 = 69



【性別】

性別にみると、他に比べ、男で「法整備が進んでいない」の割合が、女で「家族、友人など周囲の人に相談できない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族、友人など周囲の人に相談できない	カミングアウト後、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する	カミングアウトを受けた後、相手とどのように接するべきかわからない	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける	住居選択において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	就職・就業において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある
全 体	69	27.5	14.5	31.9	15.9	7.2	13.0	21.7	11.6
女	41	34.1	17.1	36.6	17.1	2.4	7.3	17.1	7.3
男	25	20.0	12.0	28.0	16.0	16.0	16.0	24.0	12.0
その他	2	—	—	—	—	—	50.0	50.0	50.0

区分	自認する性と異なるふるまいを強要される	自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ、更衣室など）	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない。	法整備が進んでいない	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	申請書などの性別について記入を求められる	その他	無回答	
全 体	17.4	18.8	17.4	43.5	27.5	20.3	13.0	1.4	
女	14.6	17.1	19.5	36.6	22.0	17.1	9.8	—	
男	20.0	16.0	8.0	52.0	32.0	16.0	20.0	4.0	
その他	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0	—	—	

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「カミングアウト後、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する」「カミングアウトを受けた後、相手とどのように接するべきかわからない」の割合が、30～39歳で「夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない。」の割合が高くなっています。

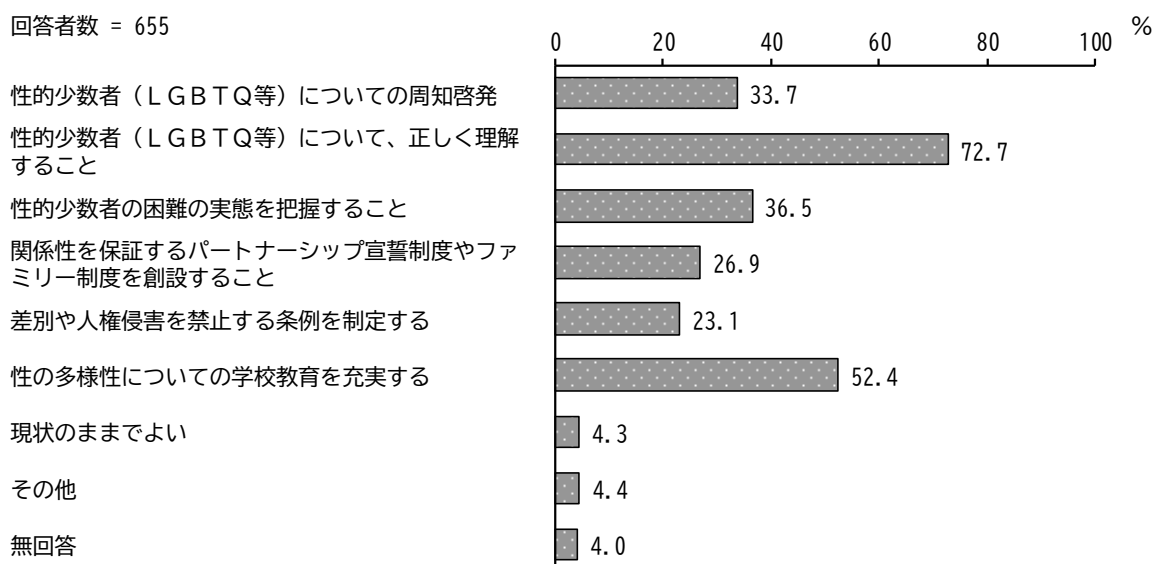
単位：％

区分	回答者数（件）	家族、友人など周囲の人に相談できない	カミングアウト後、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する	カミングアウトを受けた後、相手とどのように接するべきかわからない	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける	住居選択において偏見・差別がある	医療の場において偏見・差別がある	就職・就業において偏見・差別がある	福利厚生において偏見・差別がある
全 体	69	27.5	14.5	31.9	15.9	7.2	13.0	21.7	11.6
18～19 歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	13	38.5	30.8	46.2	7.7	7.7	—	7.7	—
30～39 歳	22	18.2	9.1	36.4	22.7	4.5	9.1	22.7	9.1
40～49 歳	15	26.7	6.7	33.3	13.3	—	13.3	13.3	—
50～59 歳	7	42.9	14.3	14.3	—	14.3	14.3	28.6	28.6
60～64 歳	7	28.6	14.3	14.3	42.9	28.6	42.9	57.1	42.9
65～69 歳	1	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—
70～74 歳	2	—	50.0	—	—	—	—	—	—
75～79 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—
80 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—

区分	自認する性と異なるふるまいを強要される	自認する性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ、更衣室など）	夫婦と同様に、同性パートナーとの関係を認めてもらえない。	法整備が進んでいない	行政機関などの相談・支援体制が不十分である	申請書などの性別について記入を求められる	その他	無回答	
全 体	17.4	18.8	17.4	43.5	27.5	20.3	13.0	1.4	
18～19 歳	—	—	—	—	—	—	100.0	—	
20～29 歳	23.1	—	7.7	46.2	7.7	30.8	15.4	—	
30～39 歳	22.7	31.8	31.8	40.9	22.7	22.7	9.1	4.5	
40～49 歳	20.0	6.7	13.3	33.3	26.7	—	20.0	—	
50～59 歳	14.3	14.3	—	42.9	28.6	14.3	14.3	—	
60～64 歳	—	42.9	14.3	71.4	71.4	42.9	—	—	
65～69 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	
70～74 歳	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	
75～79 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	
80 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	

問 23 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、L G B T Q等）の困難を解決して、暮らしやすい社会としていくためには、何が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

「性的少数者（L G B T Q等）について、正しく理解すること」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「性の多様性についての学校教育を充実する」の割合が 52.4%、「性的少数者の困難の実態を把握すること」の割合が 36.5%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「関係性を保証するパートナーシップ宣誓制度やファミリー制度を創設すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	性的少数者（L G B T Q等）についての周知啓発	性的少数者（L G B T Q等）について、正しく理解すること	性的少数者の困難の実態を把握すること	関係性を保証するパートナーシップ宣誓制度やファミリー制度を創設すること	差別や人権侵害を禁止する条例を制定する	性の多様性についての学校教育を充実する	現状のままでよい	その他	無回答
全 体	655	33.7	72.7	36.5	26.9	23.1	52.4	4.3	4.4	4.0
女	357	32.5	77.6	39.5	33.3	24.6	55.7	2.8	3.6	4.2
男	286	36.0	67.5	33.2	19.2	21.3	48.3	5.9	4.9	2.8
その他	4	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、30～39 歳、50～59 歳で「性的少数者の困難の実態を把握すること」の割合が、70～74 歳で「性の多様性についての学校教育を充実する」の割合が高くなっています。

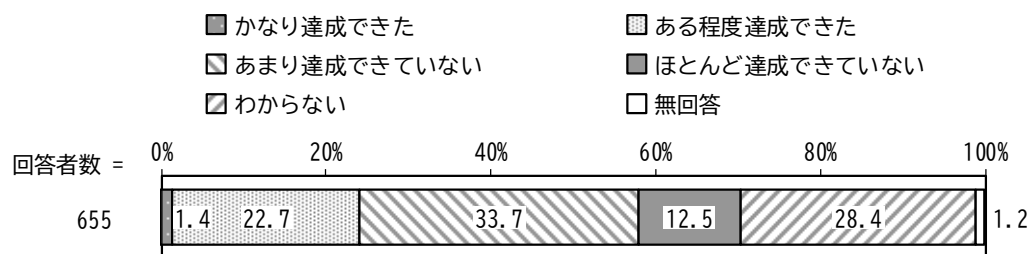
単位：％

区分	回答者数（件）	性的少数者（LGBTQ等） についての周知啓発	性的少数者（LGBTQ等） について、正しく理解すること	性的少数者の困難の実態を 把握すること	関係性を保証するパートナーシップ宣誓制度やファミリー制度を創設すること	差別や人権侵害を禁止する 条例を制定する	性の多様性についての学校 教育を充実する	現状のままでよい	その他	無回答
全 体	655	33.7	72.7	36.5	26.9	23.1	52.4	4.3	4.4	4.0
18～19 歳	5	40.0	60.0	—	40.0	20.0	40.0	20.0	—	—
20～29 歳	63	34.9	73.0	41.3	31.7	22.2	54.0	12.7	1.6	—
30～39 歳	123	35.8	79.7	49.6	33.3	23.6	53.7	0.8	7.3	0.8
40～49 歳	131	35.1	69.5	38.2	32.8	22.1	58.8	6.1	4.6	4.6
50～59 歳	98	35.7	77.6	44.9	27.6	19.4	52.0	4.1	1.0	2.0
60～64 歳	51	25.5	78.4	23.5	23.5	19.6	35.3	2.0	5.9	2.0
65～69 歳	38	36.8	68.4	26.3	13.2	26.3	55.3	2.6	10.5	—
70～74 歳	51	35.3	68.6	27.5	27.5	31.4	64.7	3.9	3.9	3.9
75～79 歳	41	26.8	78.0	22.0	19.5	24.4	41.5	2.4	2.4	4.9
80 歳以上	48	31.3	54.2	25.0	6.3	25.0	45.8	2.1	4.2	18.8

(8) 行政の取組について

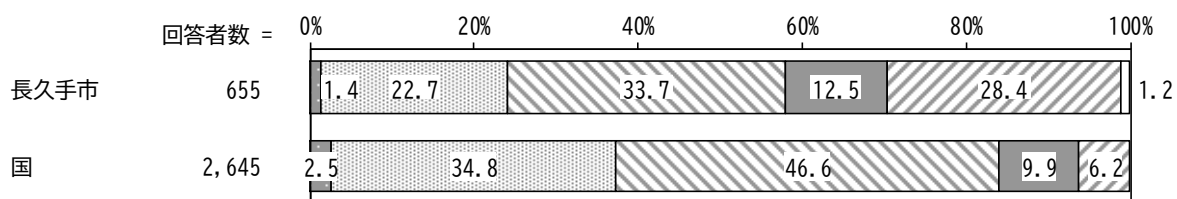
問 24 あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は達成できたと思いますか。次の中から1つ選んでください。(○は1つ)

「あまり達成できていない」の割合が33.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が28.4%、「ある程度達成できた」の割合が22.7%となっています。



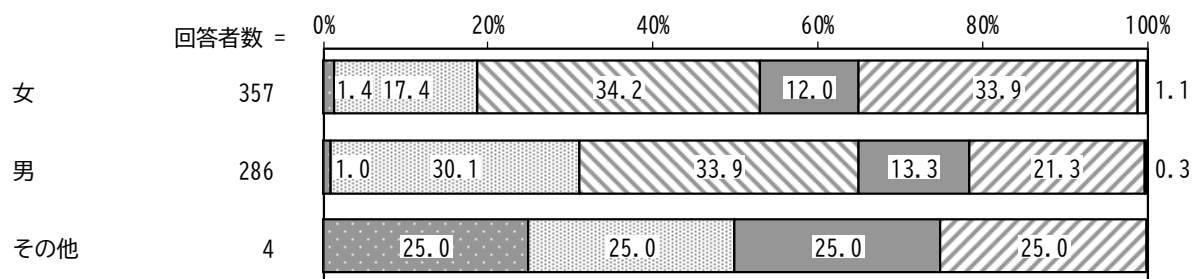
【国・県との比較】

国調査と比較すると、「かなり達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせた“達成できた”の割合が低くなっています。



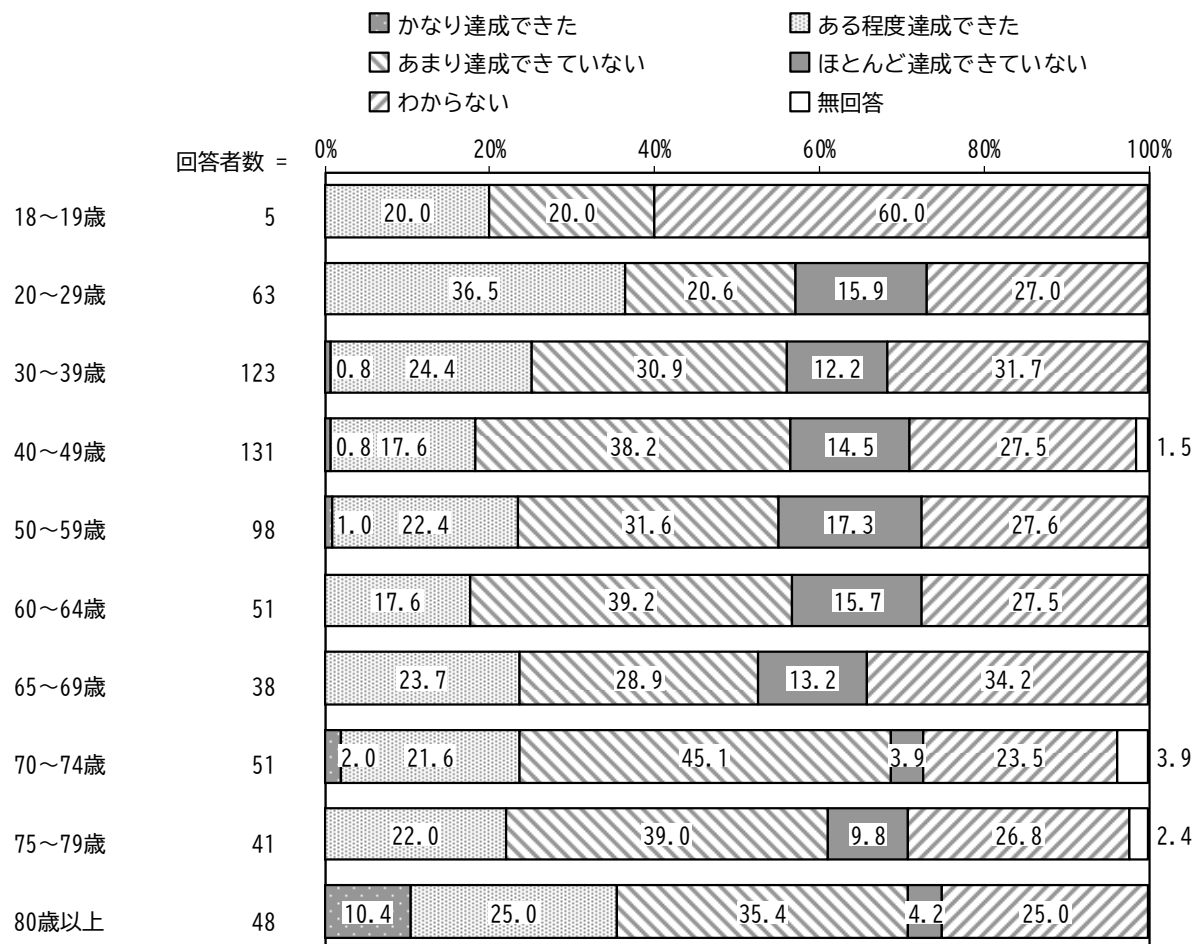
【性別】

性別にみると、他に比べ、女で「かなり達成できた」と「ある程度達成できた」を合わせた“達成できた”の割合が低くなっています。



【年齢別】

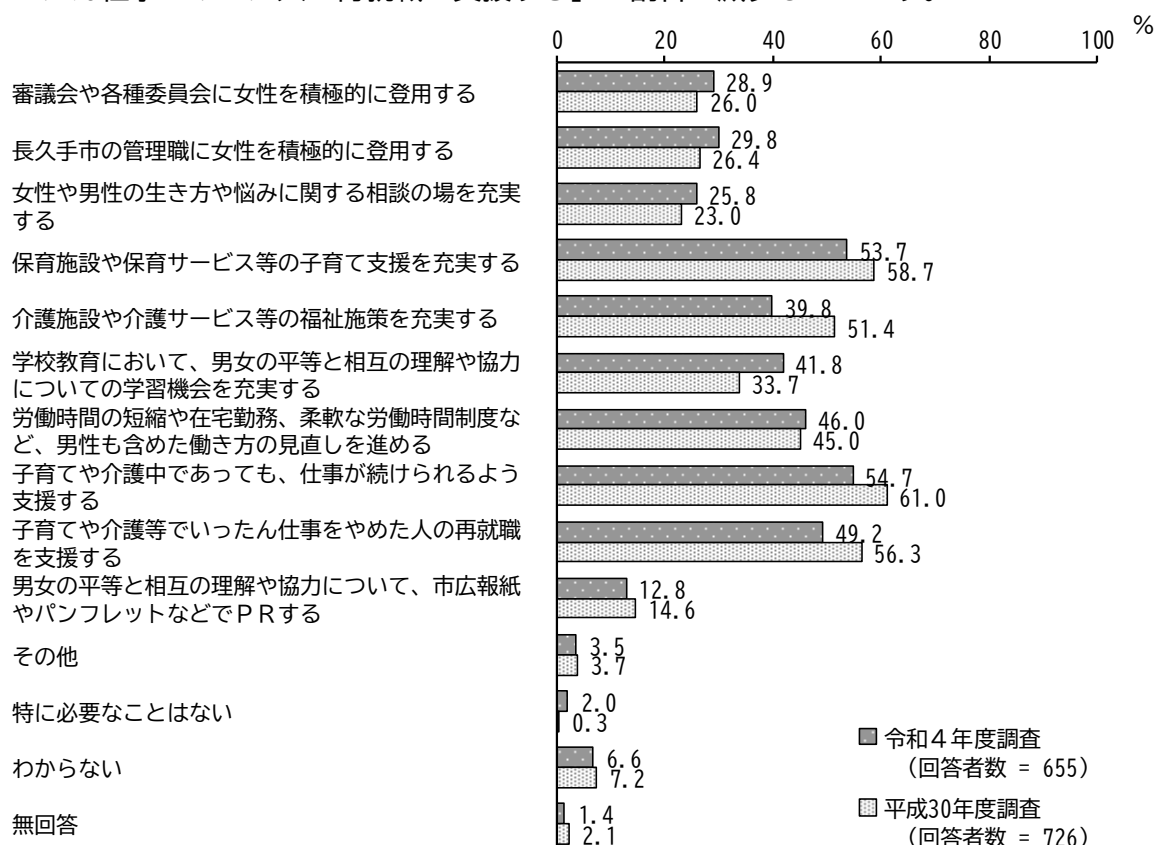
年齢別にみると、他に比べ、20～29歳で「ある程度達成できた」の割合が、70～74歳で「あまり達成できていない」の割合が、65～69歳で「わからない」の割合が高くなっています。



問 25 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、長久手市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「保育施設や保育サービス等の子育て支援を充実する」の割合が 53.7%、「子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する」の割合が 49.2%となっています。

平成 30 年度調査と比較すると、「学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する」の割合が増加しています。一方、「介護施設や介護サービス等の福祉施策を充実する」「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、他と比べ、女で「介護施設や介護サービス等の福祉施策を充実する」「学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する」「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する」の割合が、男で「長久手市の管理職に女性を積極的に登用する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する	長久手市の管理職に女性を積極的に登用する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	保育施設や保育サービス等の子育て支援を充実する	介護施設や介護サービス等の福祉施策を充実する	学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める
全 体	655	28.9	29.8	25.8	53.7	39.8	41.8	46.0
女	357	29.7	27.5	24.9	53.2	43.1	44.3	46.2
男	286	29.0	33.2	26.6	55.6	36.7	39.2	46.9
その他	4	—	—	50.0	—	—	50.0	25.0

区分	子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する	子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する	男女の平等と相互の理解や協力について、市広報紙やパンフレットなどでPRする	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全 体	54.7	49.2	12.8	3.5	2.0	6.6	1.4
女	58.5	53.8	11.8	2.2	1.1	7.8	1.1
男	50.3	43.7	14.3	4.9	2.8	5.2	0.3
その他	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—

【年齢別】

年齢別にみると、他に比べ、20～39歳で「保育施設や保育サービス等の子育て支援を充実する」「子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する」の割合が、20～49歳で「労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める」の割合が、80歳以上で「男女の平等と相互の理解や協力について、市広報紙やパンフレットなどでPRする」「長久手市の管理職に女性を積極的に登用する」の割合が、75～79歳で「審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する」の割合が高くなっています。

単位：％

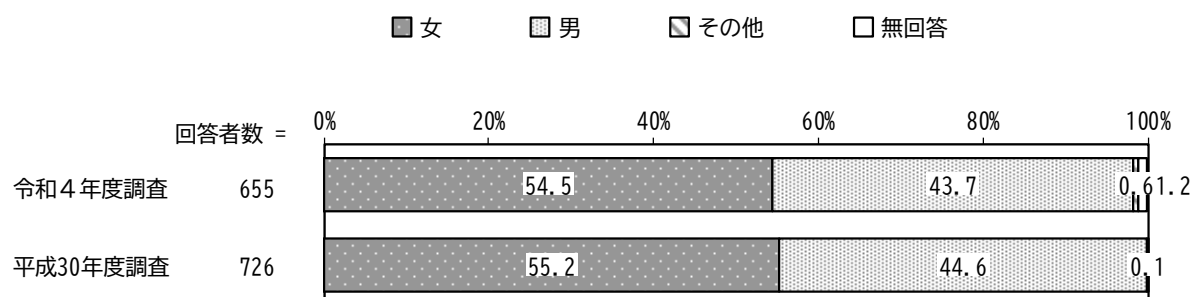
区分	回答者数（件）	審議会や各種委員会に女性を積極的に登用する	長久手市の管理職に女性を積極的に登用する	女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を充実する	保育施設や保育サービス等の子育て支援を充実する	介護施設や介護サービス等の福祉施策を充実する	学校教育において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習機会を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務、柔軟な労働時間制度など、男性も含めた働き方の見直しを進める
全 体	655	28.9	29.8	25.8	53.7	39.8	41.8	46.0
18～19歳	5	—	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0
20～29歳	63	22.2	28.6	33.3	65.1	41.3	44.4	54.0
30～39歳	123	28.5	29.3	22.8	65.0	35.0	43.1	58.5
40～49歳	131	24.4	22.1	25.2	56.5	40.5	45.0	56.5
50～59歳	98	24.5	28.6	25.5	52.0	46.9	38.8	36.7
60～64歳	51	29.4	33.3	19.6	47.1	35.3	33.3	31.4
65～69歳	38	34.2	28.9	34.2	50.0	39.5	36.8	36.8
70～74歳	51	41.2	35.3	25.5	45.1	37.3	47.1	47.1
75～79歳	41	41.5	34.1	19.5	46.3	43.9	41.5	31.7
80歳以上	48	37.5	45.8	33.3	37.5	43.8	45.8	35.4

区分	子育てや介護中であっても、仕事が続けられるよう支援する	子育てや介護等といったん仕事をやめた人の再就職を支援する	男女の平等と相互の理解や協力について、市広報紙やパンフレットなどでPRする	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答	
全 体	54.7	49.2	12.8	3.5	2.0	6.6	1.4	
18～19歳	20.0	40.0	—	—	—	20.0	—	
20～29歳	61.9	49.2	9.5	4.8	1.6	3.2	—	
30～39歳	63.4	51.2	7.3	3.3	1.6	5.7	—	
40～49歳	52.7	54.2	11.5	8.4	2.3	4.6	0.8	
50～59歳	55.1	54.1	11.2	2.0	1.0	8.2	—	
60～64歳	47.1	35.3	9.8	—	2.0	11.8	—	
65～69歳	50.0	36.8	21.1	5.3	2.6	7.9	—	
70～74歳	49.0	47.1	15.7	—	3.9	3.9	3.9	
75～79歳	53.7	56.1	19.5	—	2.4	12.2	—	
80歳以上	52.1	43.8	29.2	2.1	2.1	6.3	4.2	

(9) ご自身について

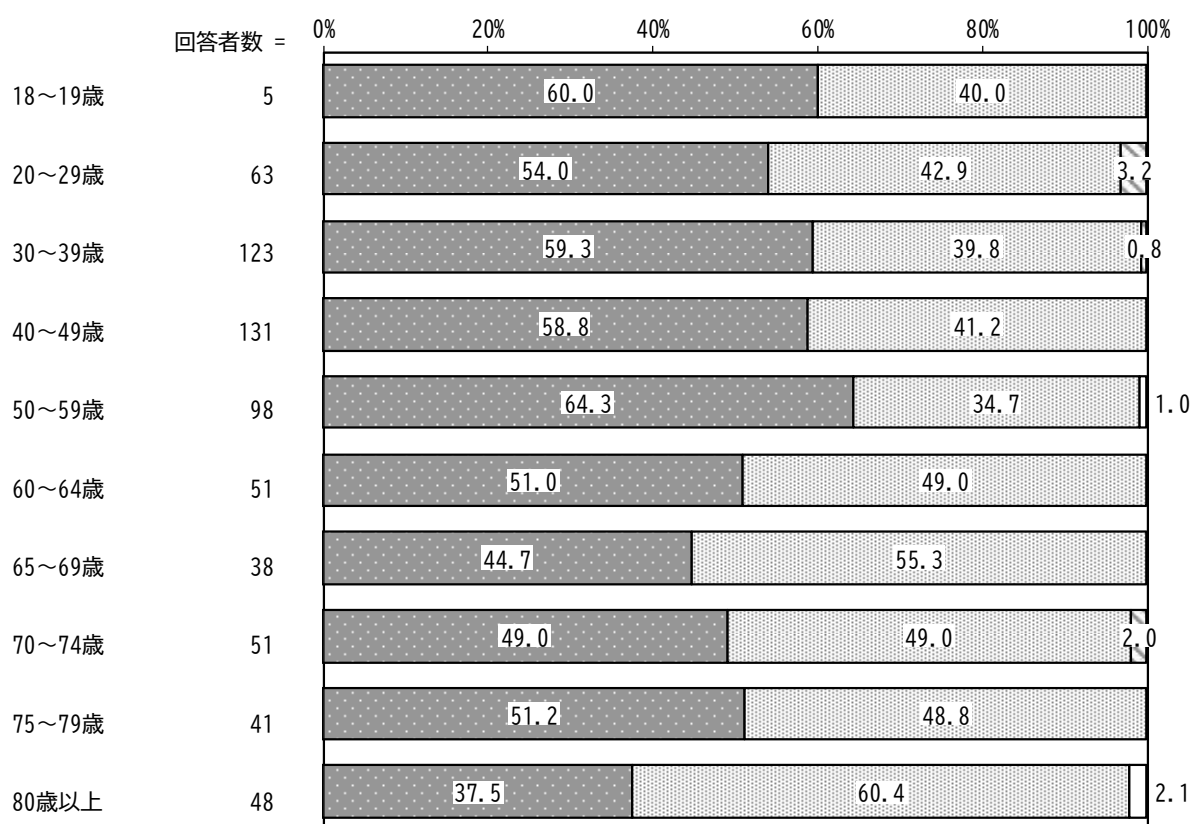
問 26 (1) あなたの性別は、次のうちどれですか。次の中から1つ選んでください。
(○は1つ)

「女」の割合が54.5%、「男」の割合が43.7%となっています。
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



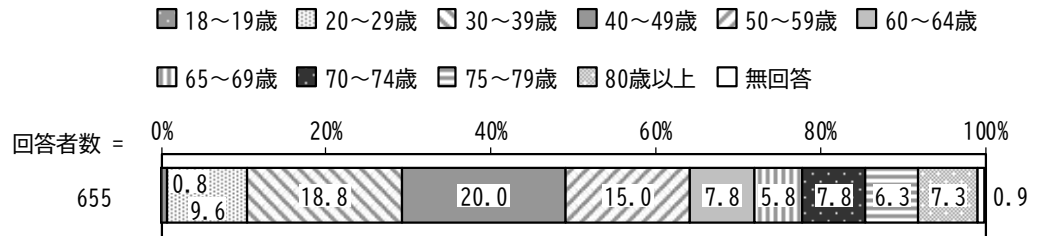
【年齢別】

年齢別にみると、18～59歳、75～79歳で「女」の割合が高く、65～74歳、80歳以上で「女」の割合が高くなっています。



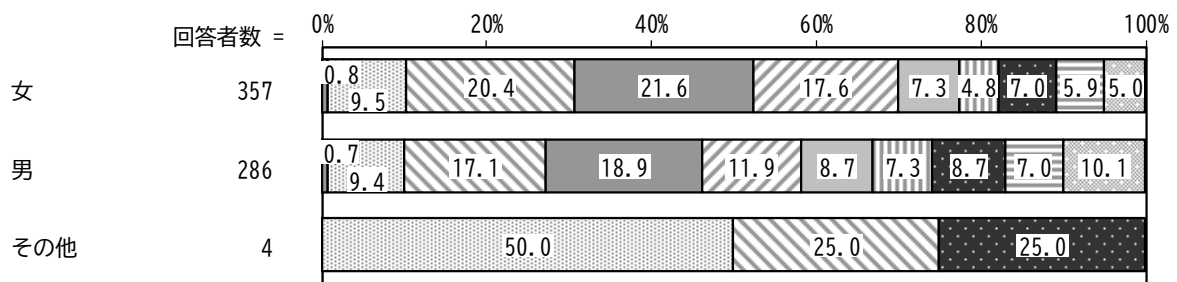
問 26 (2) あなたの年齢は、次のうちどれですか。次の中から1つ選んでください。
(○は1つ)

「40～49 歳」の割合が 20.0%と最も高く、次いで「30～39 歳」の割合が 18.8%、「50～59 歳」の割合が 15.0%となっています。



【性別】

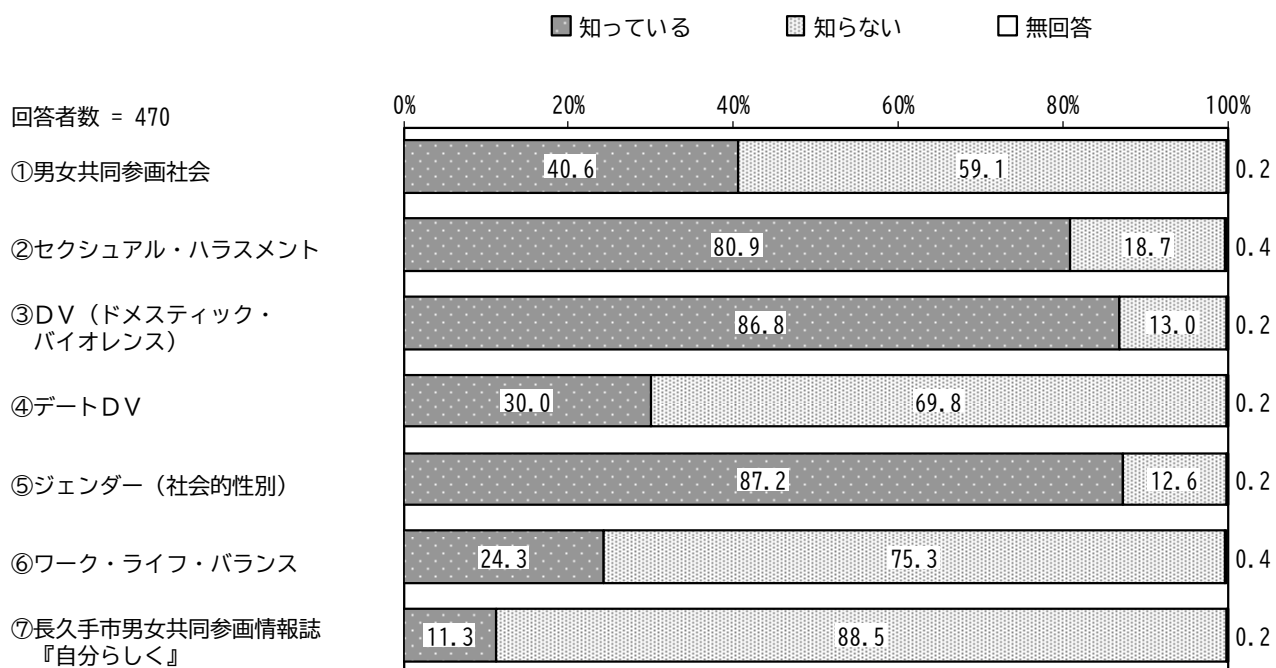
性別にみると、大きな差はみられません。



2 中学生調査

問1 あなたは、次の①から⑦までの男女共同参画に関する以下の言葉について、知っていますか。(それぞれに○を1つ)

『③DV（ドメスティック・バイオレンス）』『⑤ジェンダー（社会的性別）』で「知っている」の割合が高くなっています。また、『⑦長久手市男女共同参画情報誌『自分らしく』で「知らない」の割合が高くなっています。



問2 あなたは、次の①から③の分野において男女が平等になっていると思いますか。
次の中から1つ選んでください。(それぞれに○を1つ)

『③社会全体で』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”の割合が高くなっています。また、『①家庭のなかで』で「平等である」の割合が高くなっています。

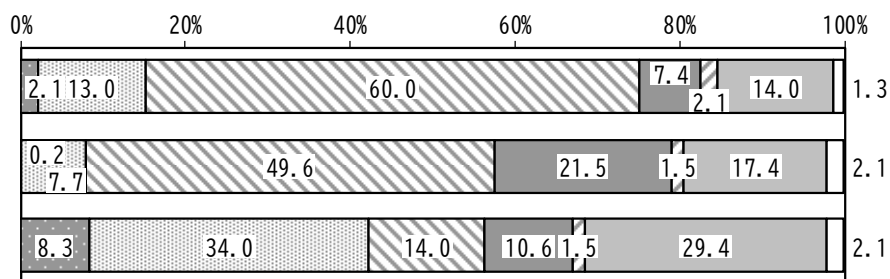
- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 470

①家庭のなかで

②学校のなかで

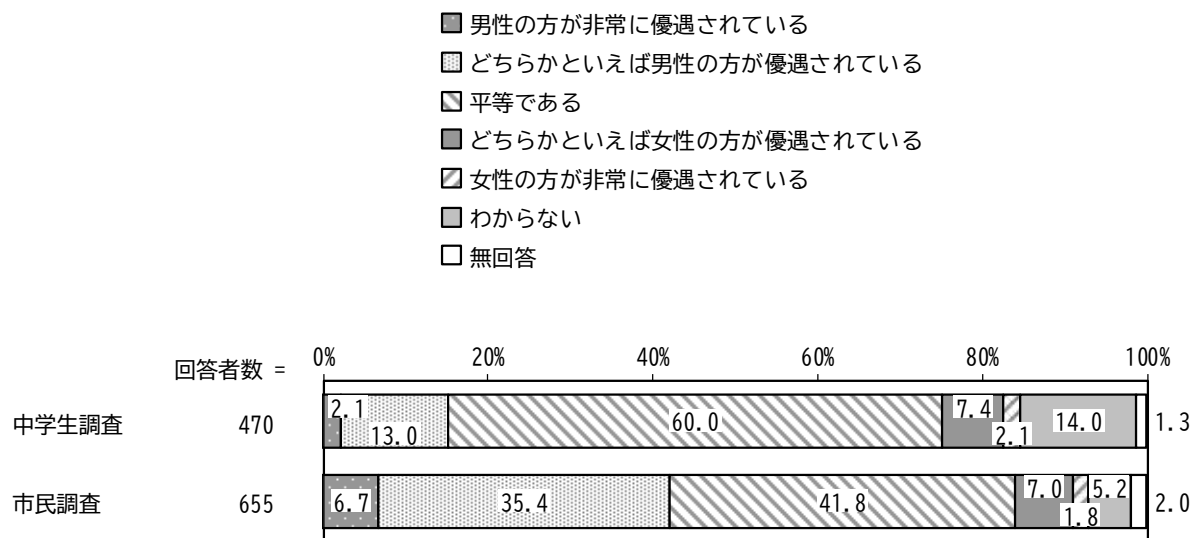
③社会全体で



①家庭のなかで

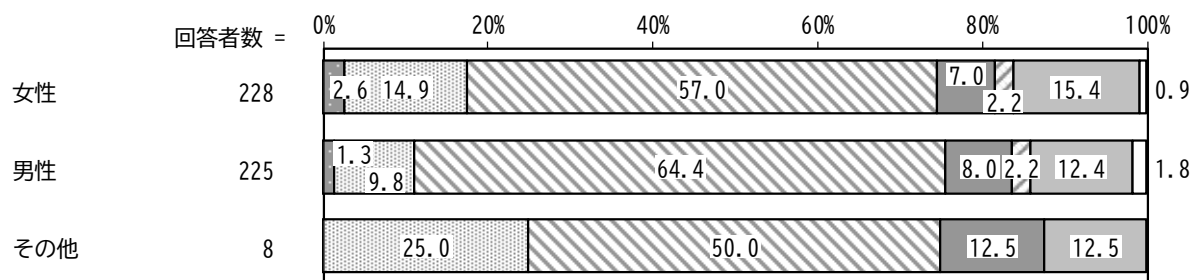
【市民調査との比較】

市民調査と比較すると、中学生調査で「平等である」の割合が高くなっています。



【性別】

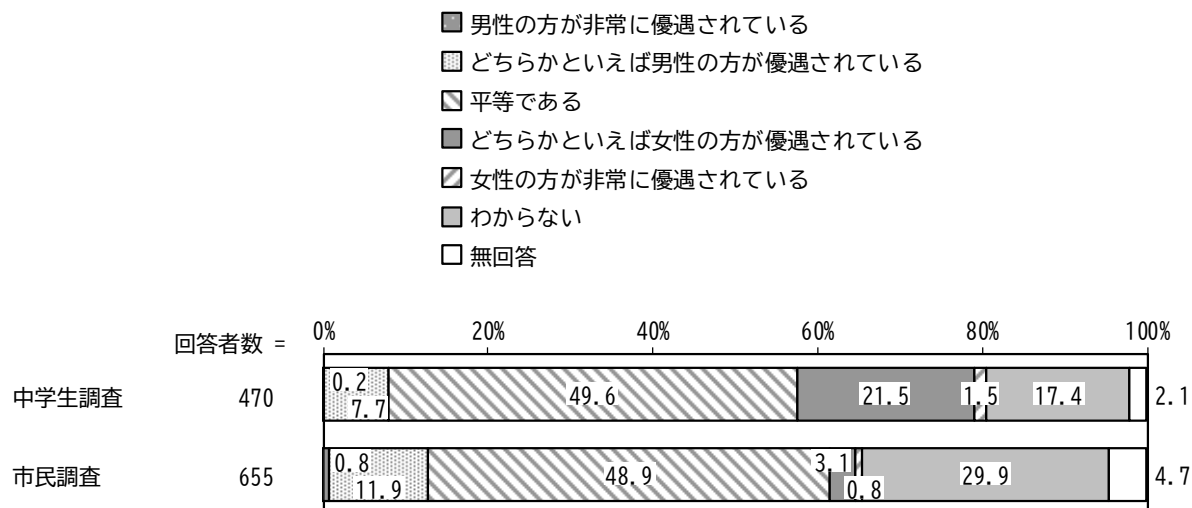
性別にみると、他に比べ、女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。



②学校のなかで

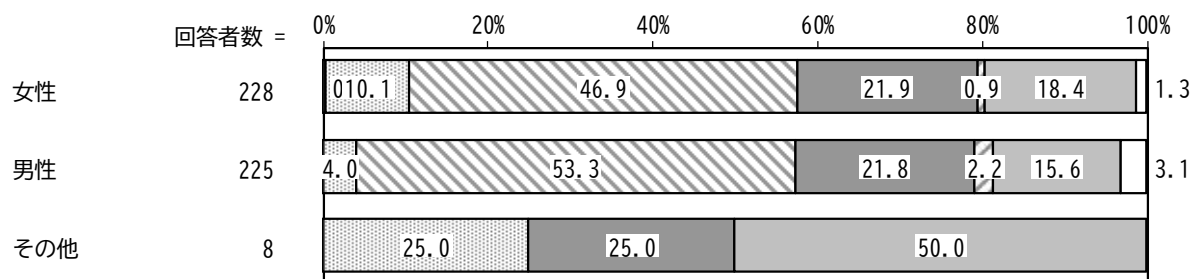
【市民調査との比較】

市民調査と比較すると、中学生調査で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【性別】

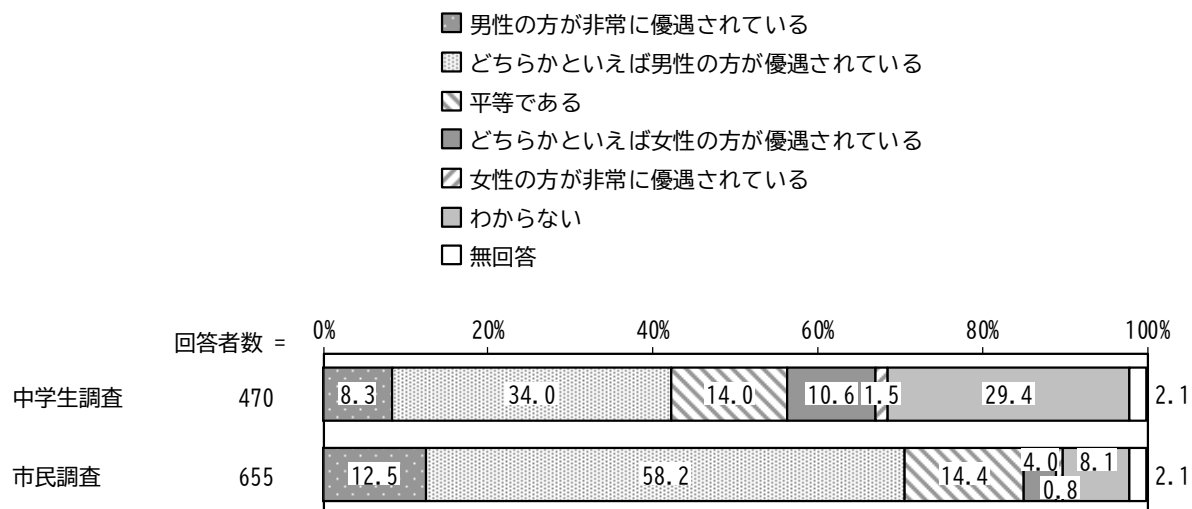
性別にみると、大きな差はみられません。



③社会全体で

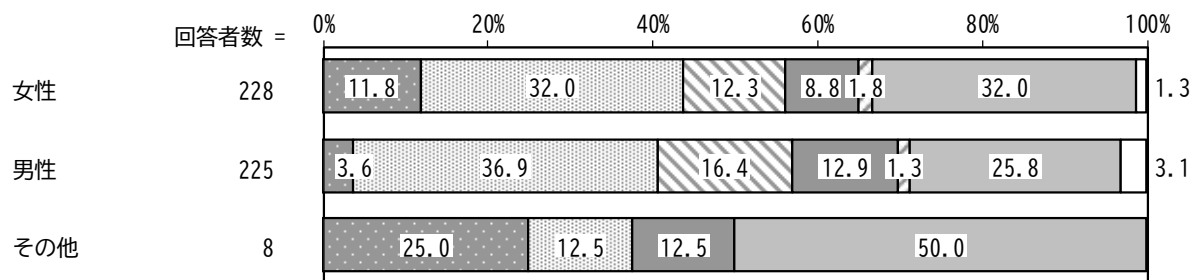
【市民調査との比較】

市民調査と比較すると、中学生調査で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。一方、市民調査で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



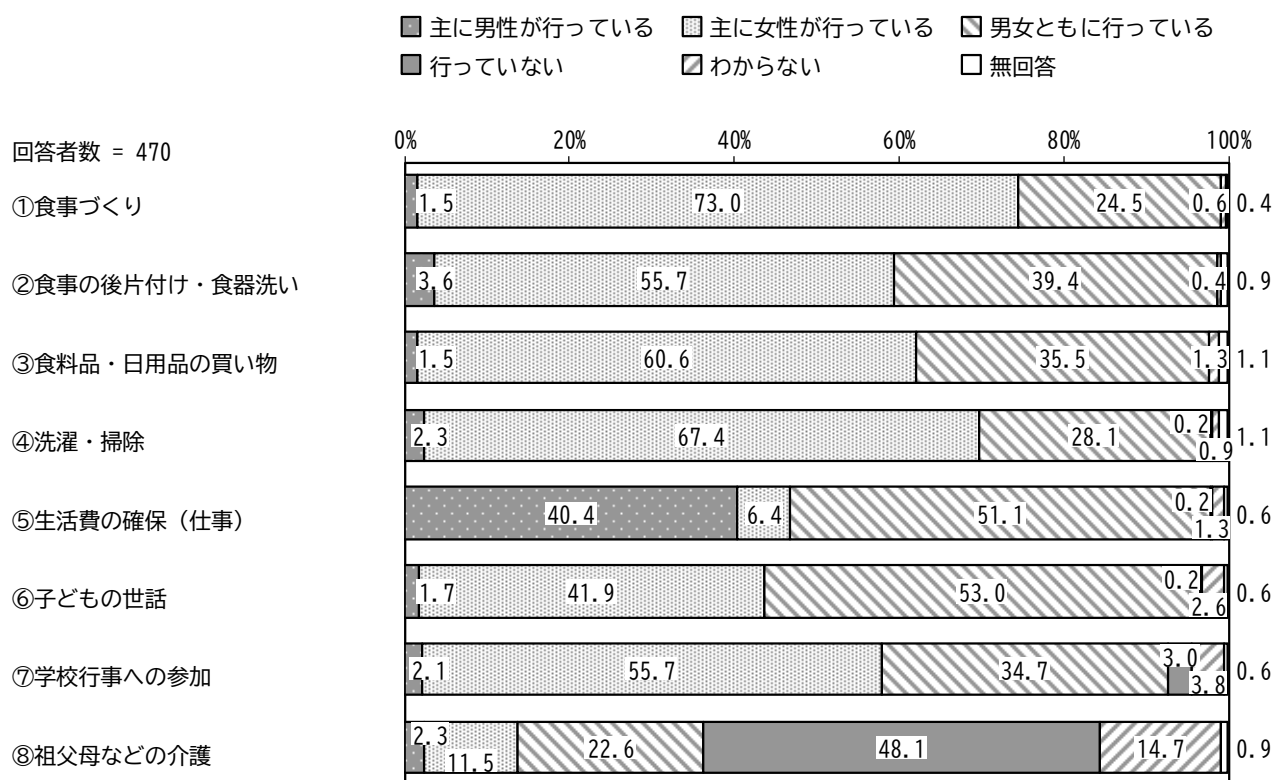
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



問3 あなたの家庭では、次の①から⑧の仕事は、男性（父、祖父、兄弟など）・女性（母、祖母、姉妹など）どちらが行っていますか。次の中から1つ選んでください。（それぞれに○を1つ）

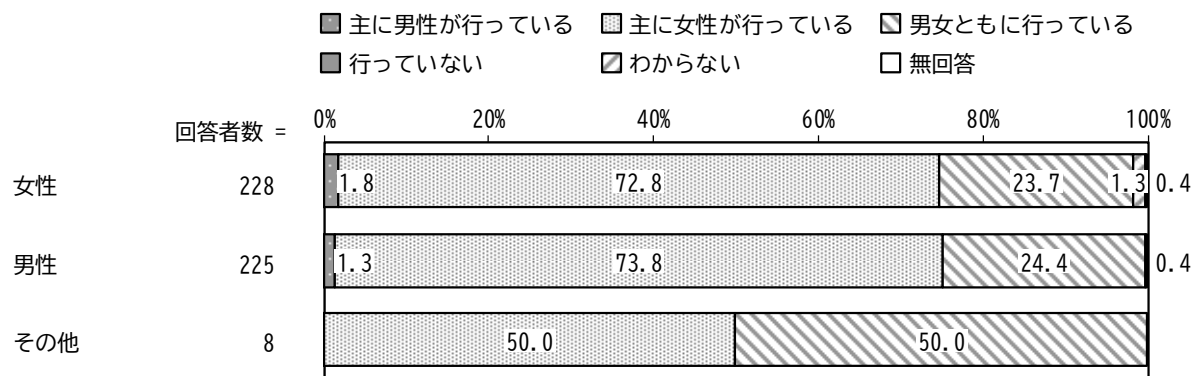
『⑤生活費の確保（仕事）』で「主に男性が行っている」の割合が、『①食事づくり』で「主に女性が行っている」の割合が高くなっています。



①食事づくり

【性別】

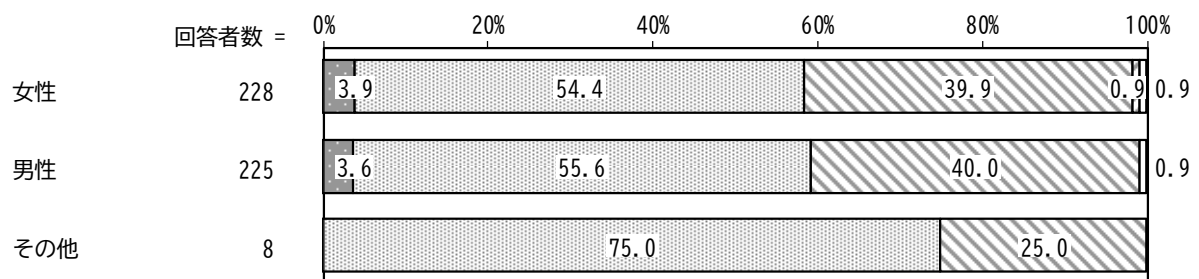
性別にみると、大きな差はみられません。



②食事の後片付け・食器洗い

【性別】

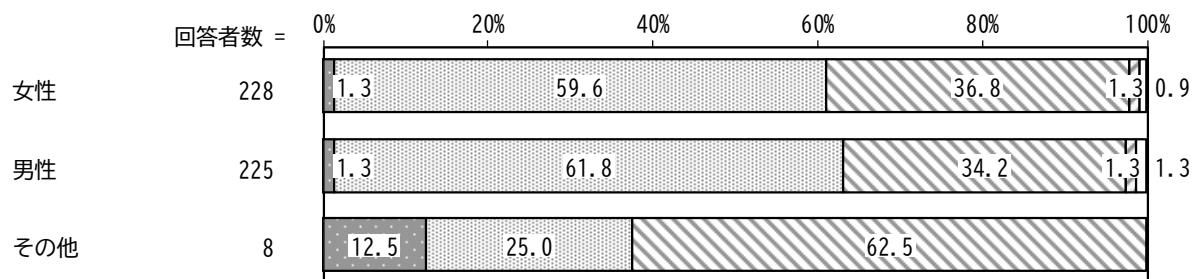
性別にみると、大きな差はみられません。



③食料品・日用品の買い物

【性別】

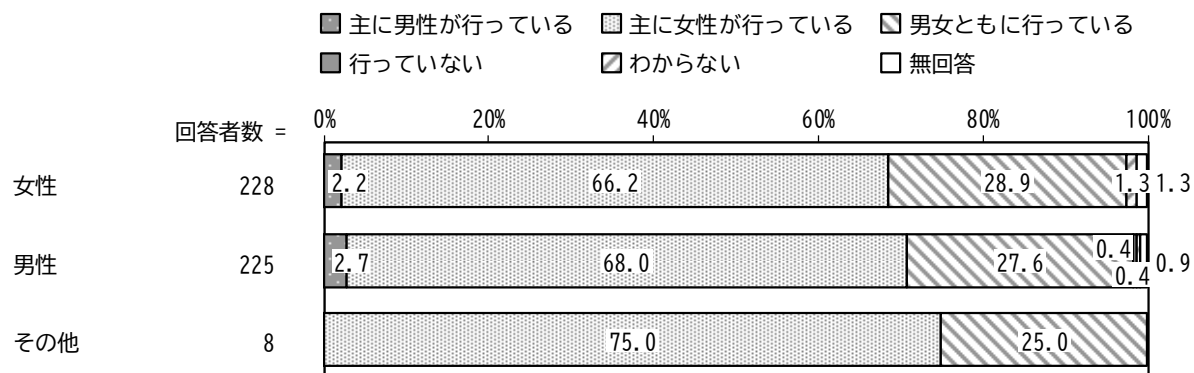
性別にみると、大きな差はみられません。



④洗濯・掃除

【性別】

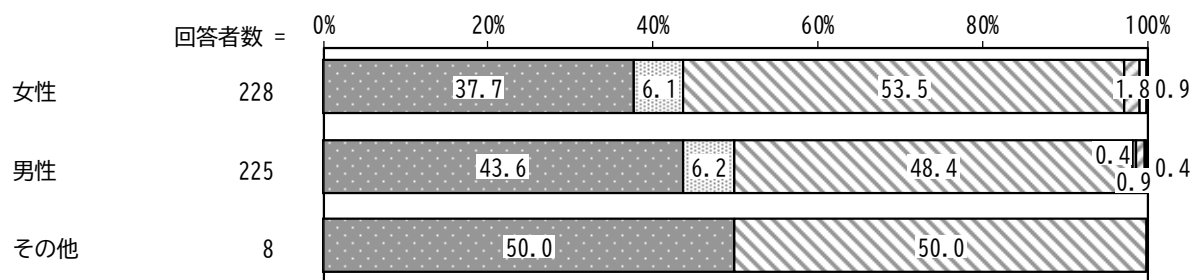
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤生活費の確保（仕事）

【性別】

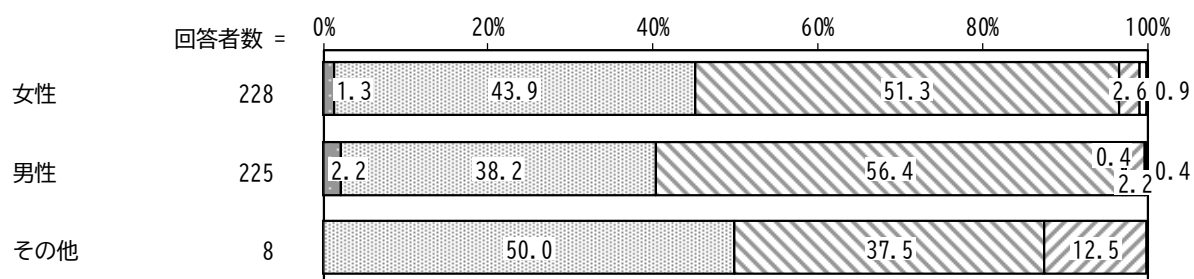
性別にみると、大きな差はみられません。



⑥子どもの世話

【性別】

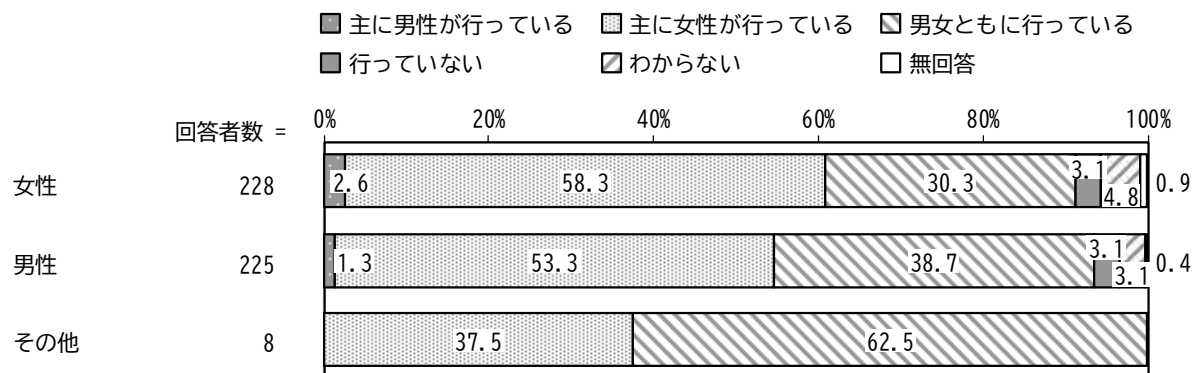
性別にみると、大きな差はみられません。



⑦学校行事への参加

【性別】

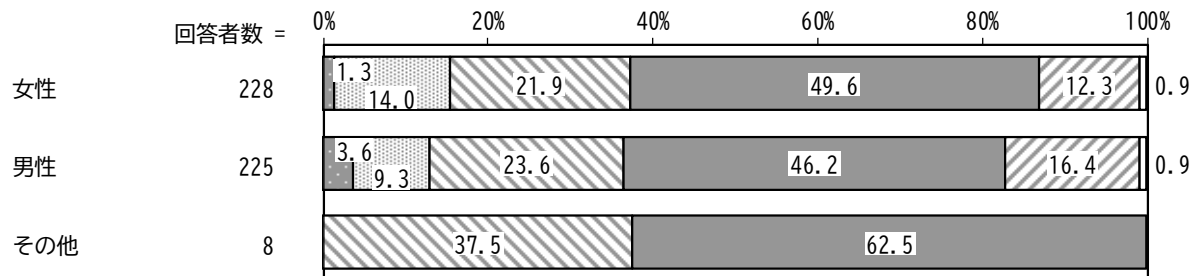
性別にみると、大きな差はみられません。



⑧祖父母などの介護

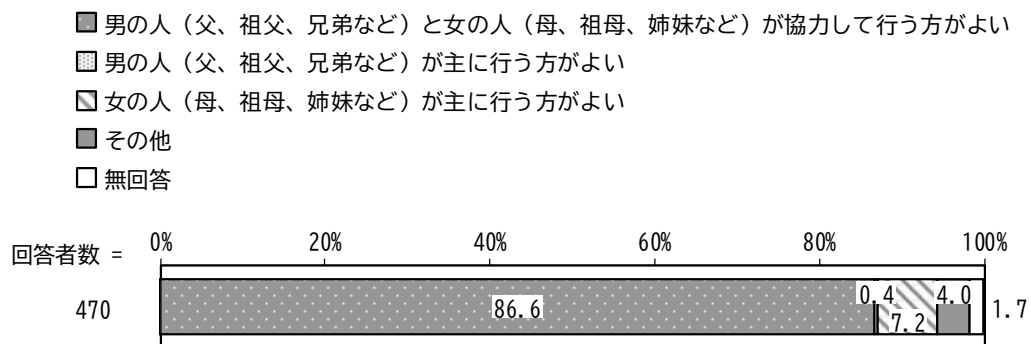
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



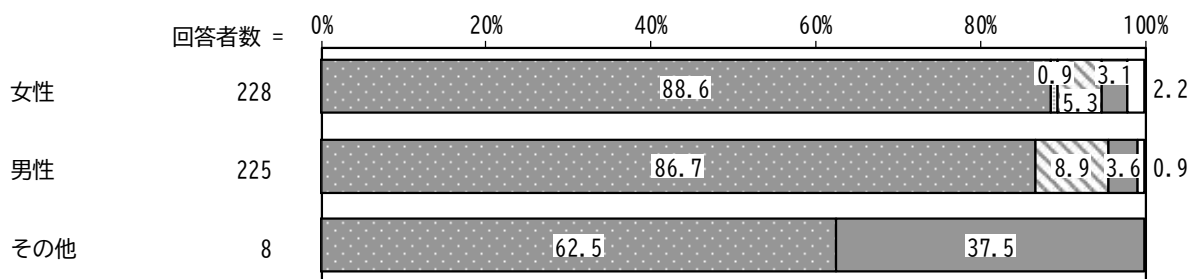
問4 あなたは、食事の支度や掃除、洗濯のような家事は、どのように分担する方がよいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「男の人（父、祖父、兄弟など）と女の人（母、祖母、姉妹など）が協力して行う方がよい」の割合が86.6%と最も高くなっています。



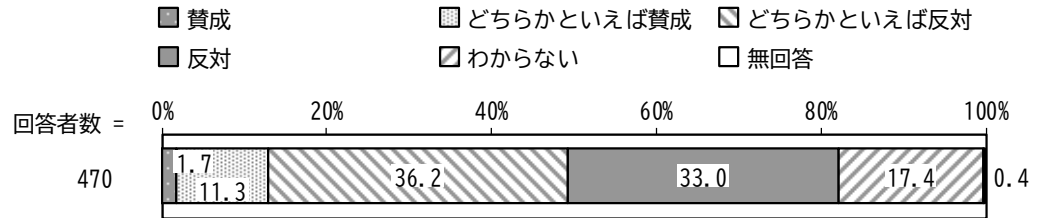
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



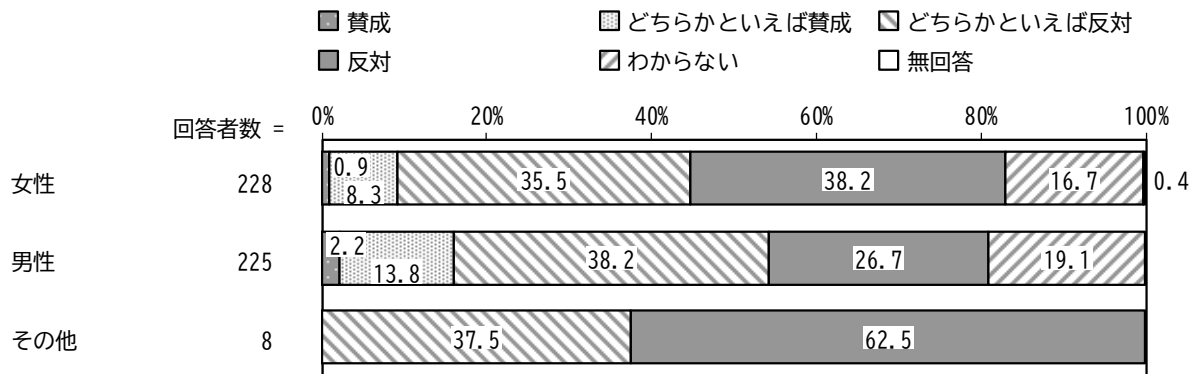
問5 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「どちらかといえば反対」の割合が36.2%と最も高く、次いで「反対」の割合が33.0%、「わからない」の割合が17.4%となっています。



【性別】

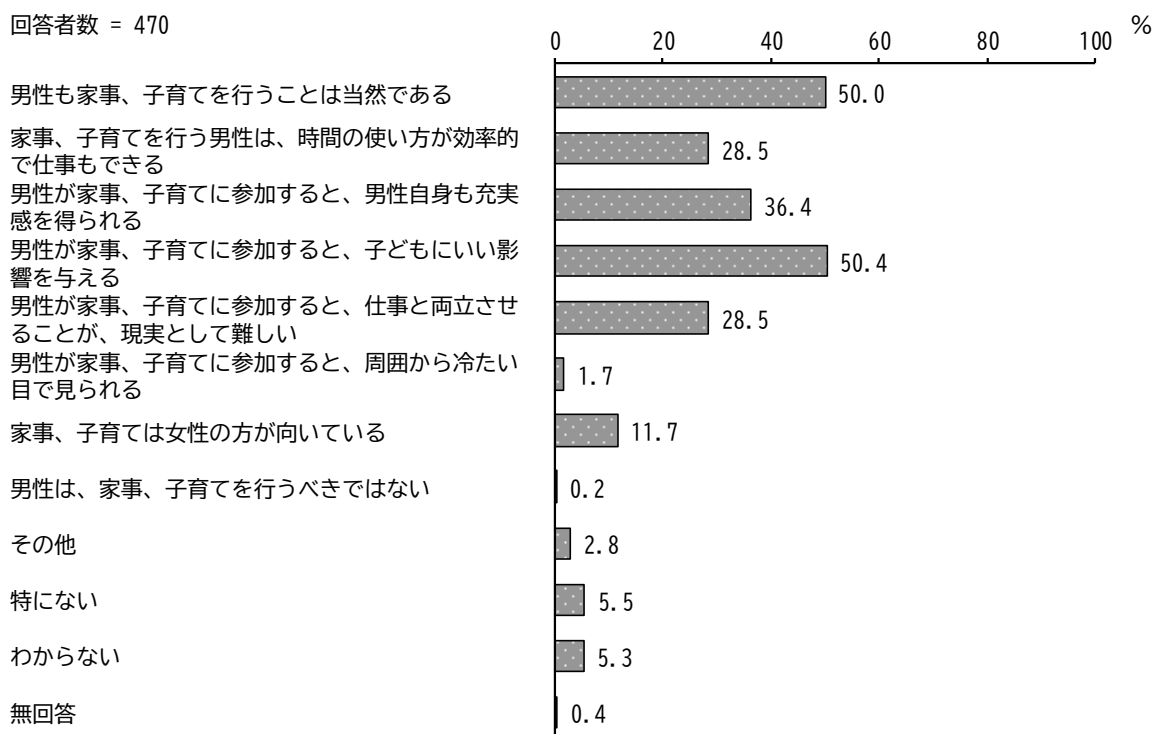
性別にみると、他に比べ、女性で「反対」の割合が高くなっています。



問6 男性が家事、子育てを行うことについて、あなたの考えにあてはまる番号をすべて選んでください。(〇はいくつでも) ..

「男性が家事、子育てに参加すると、子どもにいい影響を与える」の割合が50.4%と最も高く、次いで「男性も家事、子育てを行うことは当然である」の割合が50.0%、「男性が家事、子育てに参加すると、男性自身も充実感を得られる」の割合が36.4%となっています。

回答者数 = 470



【性別】

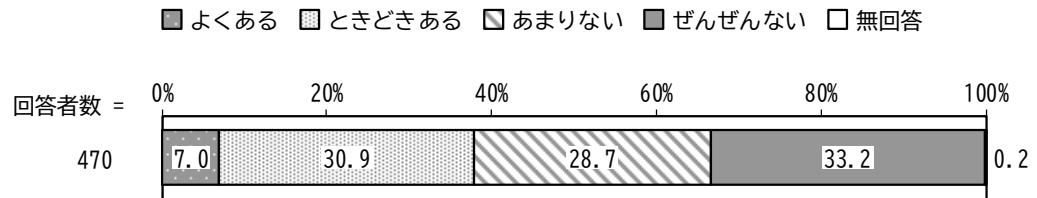
性別にみると、他に比べ、男性で「男性が家事、子育てに参加すると、仕事と両立させることが、現実として難しい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	男性も家事、子育てを行うことは当然である	家事、子育てを行う男性は、時間の使い方が効率的で仕事もできる	男性が家事、子育てに参加すると、男性自身も充実感を得られる	男性が家事、子育てに参加すると、子どもにいい影響を与える	男性が家事、子育てに参加すると、仕事と両立させることが、現実として難しい	男性が家事、子育てに参加すると、周囲から冷たい目で見られる	家事、子育ては女性の方が向いている	男性は、家事、子育てを行うべきではない	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	470	50.0	28.5	36.4	50.4	28.5	1.7	11.7	0.2	2.8	5.5	5.3	0.4
女性	228	51.3	30.7	38.2	53.1	22.8	1.3	8.3	—	3.9	3.9	4.4	—
男性	225	48.9	26.2	34.7	47.1	34.2	2.2	14.7	0.4	1.3	7.1	6.2	0.4
その他	8	50.0	12.5	37.5	62.5	12.5	—	12.5	—	12.5	12.5	—	—

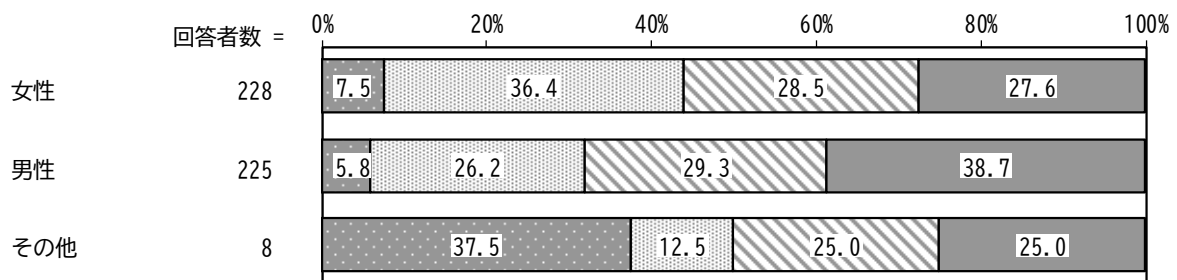
問7 あなたは、「男らしくなさい・男のくせに」や「女らしくなさい・女のくせに」のように言われた（言われる）ことはありますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「ぜんぜんない」の割合が33.2%と最も高く、次いで「ときどきある」の割合が30.9%、「あまりない」の割合が28.7%となっています。



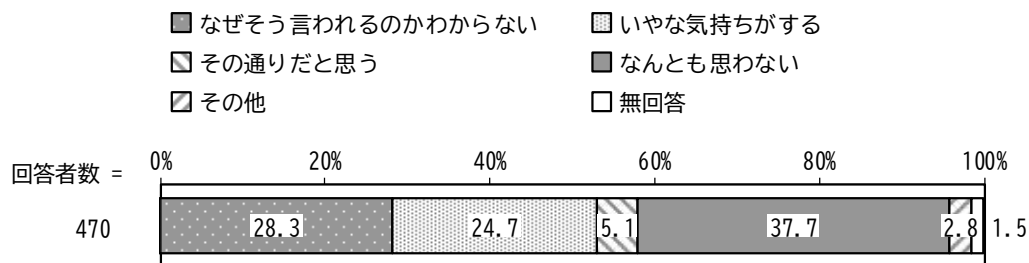
【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「ときどきある」の割合が、男性で「ぜんぜんない」の割合が高くなっています。



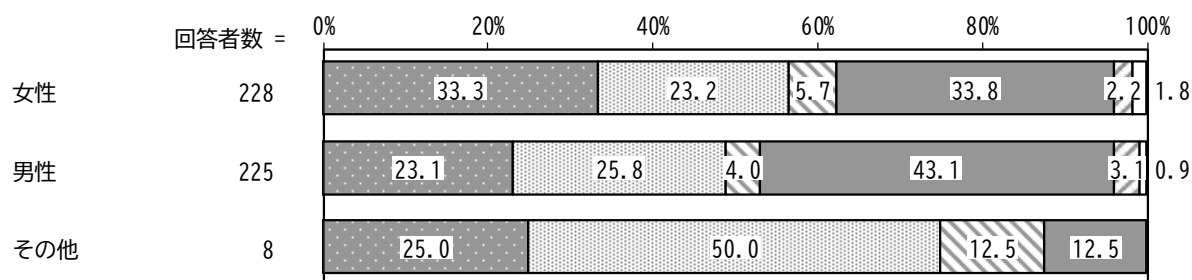
問8 あなたは、「男らしくなさい」や「女らしくなさい」と言われたらどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「なんとも思わない」の割合が37.7%と最も高く、次いで「なぜそう言われるのかわからない」の割合が28.3%、「いやな気持ちがある」の割合が24.7%となっています。



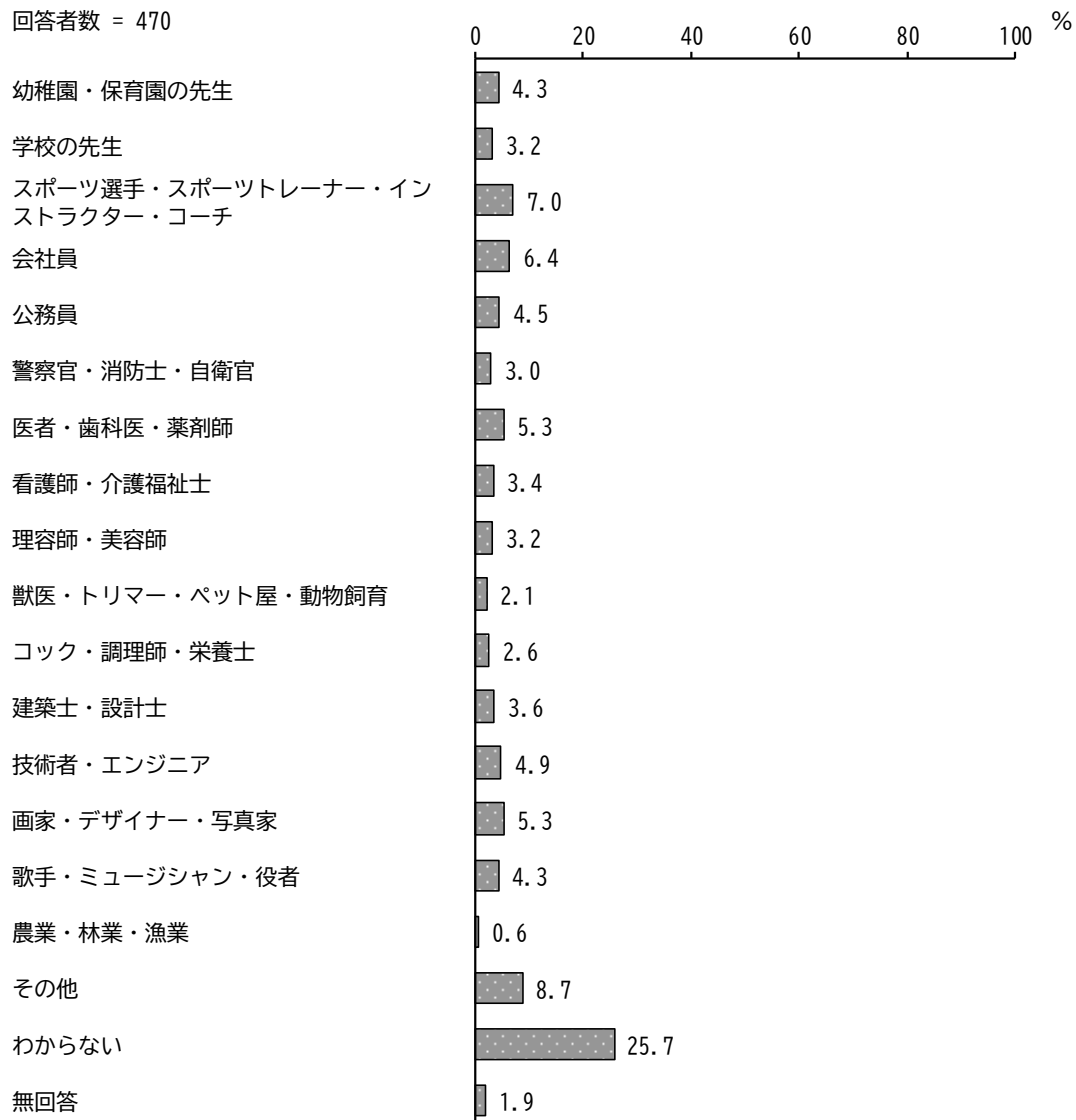
【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「なぜそう言われるのかわからない」の割合が、男性で「なんとも思わない」の割合が高くなっています。



問9 あなたは将来どのような仕事をしたいですか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「わからない」の割合が25.7%と最も高くなっています。



【性別】

性別にみると、男性に比べ女性で「幼稚園・保育園の先生」「看護師・介護福祉士」「画家・デザイナー・写真家」の割合が、女性に比べ男性で「スポーツ選手・スポーツトレーナー・インストラクター・コーチ」「会社員」「建築士・設計士」「技術者・エンジニア」の割合が高くなっています。

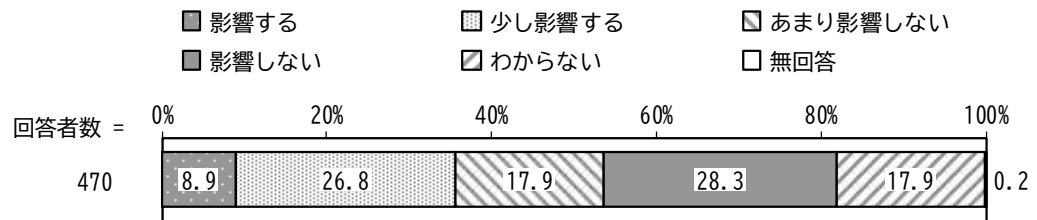
単位：％

区分	回答者数 (件)	幼稚園・保育園の先生	学校の先生	スポーツ選手・スポーツトレーナー・インストラクター・コーチ	会社員	公務員	警察官・消防士・自衛官	医者・歯科医・薬剤師	看護師・介護福祉士	理容師・美容師
全 体	470	4.3	3.2	7.0	6.4	4.5	3.0	5.3	3.4	3.2
女性	228	7.9	2.2	2.2	3.9	3.9	2.6	6.6	6.6	6.6
男性	225	0.9	4.4	12.0	8.4	4.9	3.6	4.0	0.4	－
その他	8	－	－	－	－	12.5	－	12.5	－	－

区分	獣医・トリマー・ペット屋・動物飼育	コック・調理師・栄養士	建築士・設計士	技術者・エンジニア	画家・デザイナー・写真家	歌手・ミュージシャン・役者	農業・林業・漁業	その他	わからない	無回答
全 体	2.1	2.6	3.6	4.9	5.3	4.3	0.6	8.7	25.7	1.9
女性	2.6	3.1	1.3	1.8	7.9	4.4	0.4	10.1	24.1	1.8
男性	1.8	1.8	6.2	7.1	2.7	4.0	0.9	7.6	27.6	1.8
その他	－	－	－	12.5	12.5	12.5	－	12.5	25.0	－

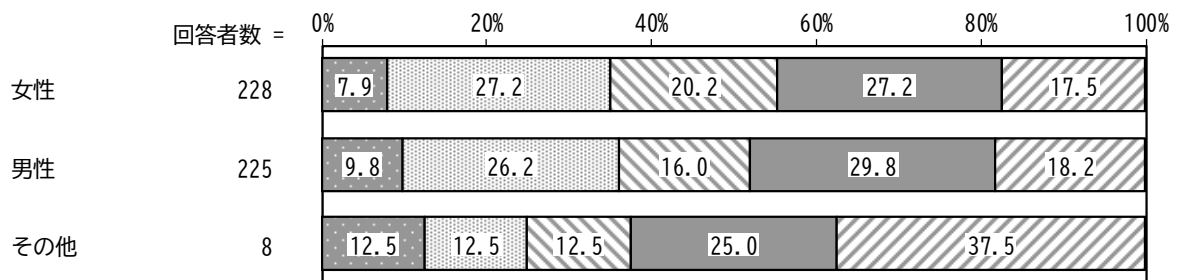
問10 将来なりたい仕事を実現する上で、「男であること」もしくは「女であること」といった性別が影響すると思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「影響しない」の割合が28.3%と最も高く、次いで「少し影響する」の割合が26.8%、「あまり影響しない」、「わからない」の割合が17.9%となっています。



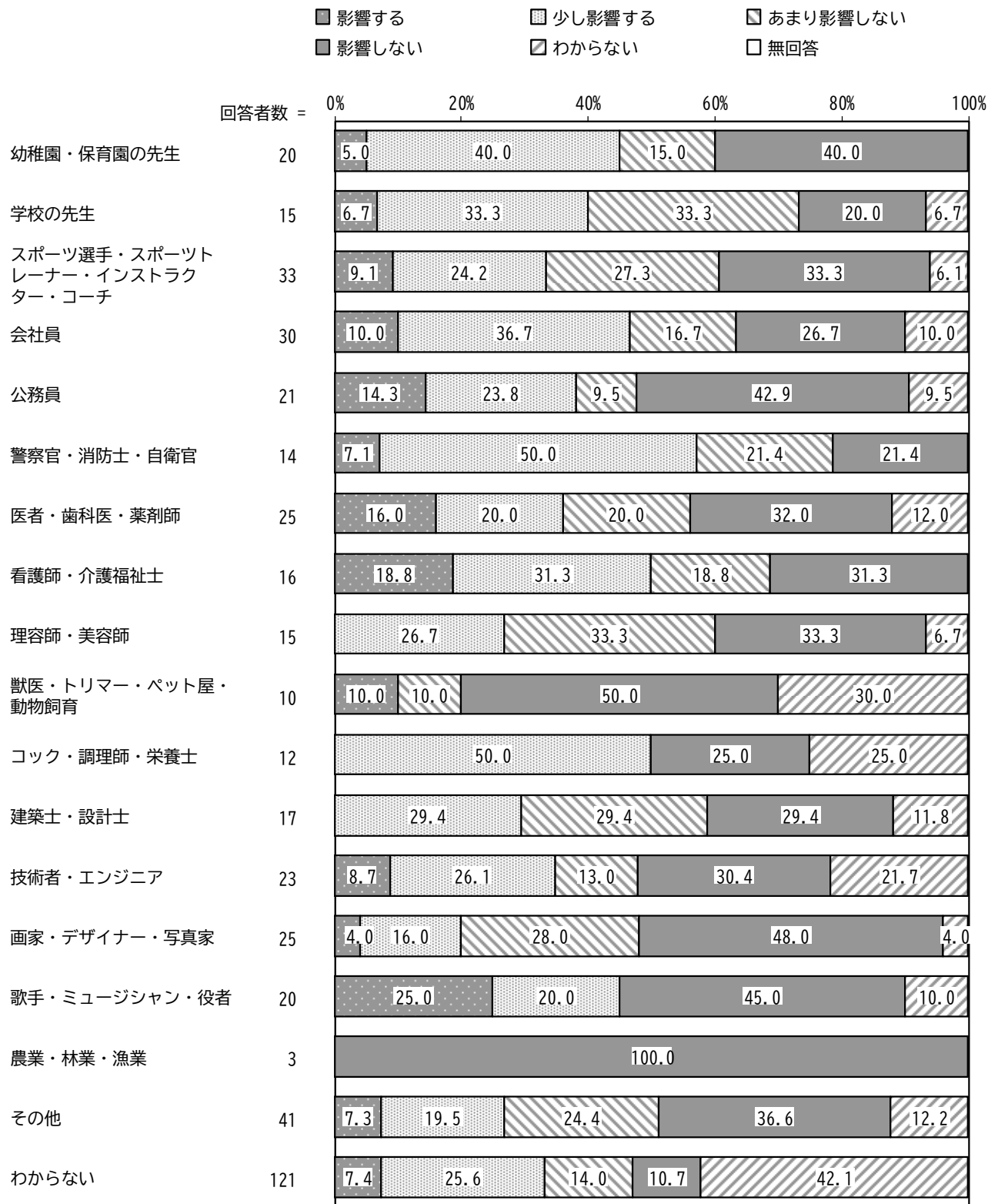
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



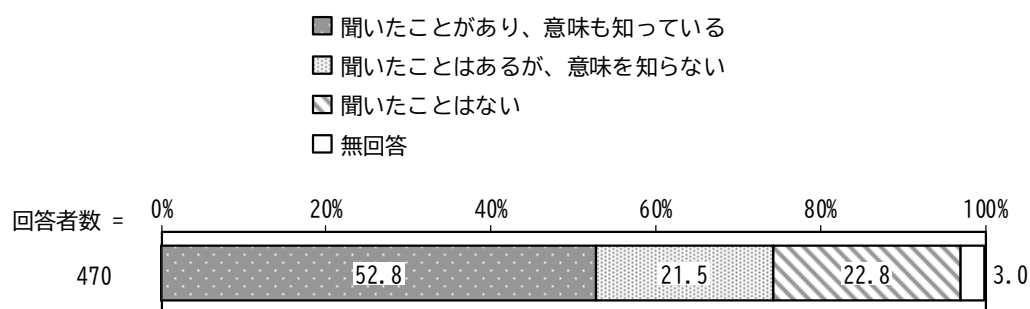
【将来ないたい職業別】

将来ないたい職業別にみると、警察官・消防士・自衛官、コック・調理師・栄養士で「影響する」と「少し影響する」を合わせた「影響する」の割合が50%以上と高くなっています。



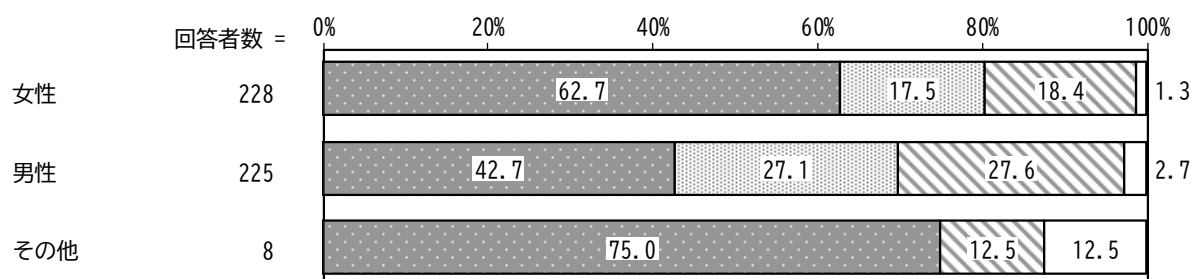
問１１ あなたは、「性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBTQ等）」という言葉聞いたことがありますか。あてはまる番号を１つ選んで○をつけてください。

「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が52.8%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味を知らない」の割合が21.5%、「聞いたことはない」の割合が22.8%となっています。



【性別】

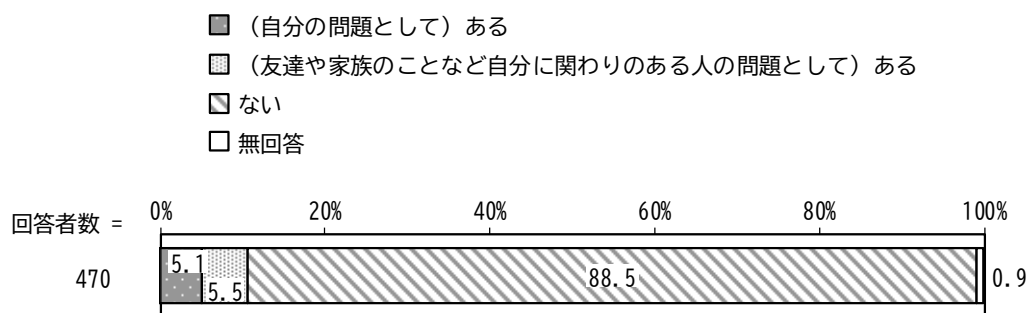
性別にみると、他に比べ、女性で「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が、男性で「聞いたことはあるが、意味を知らない」の割合が高くなっています。



問12 あなたは、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ、LGBTQ等）のことを、自分や自分に関わりのある人の問題として、悩んだり、考えたりしたことがありますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

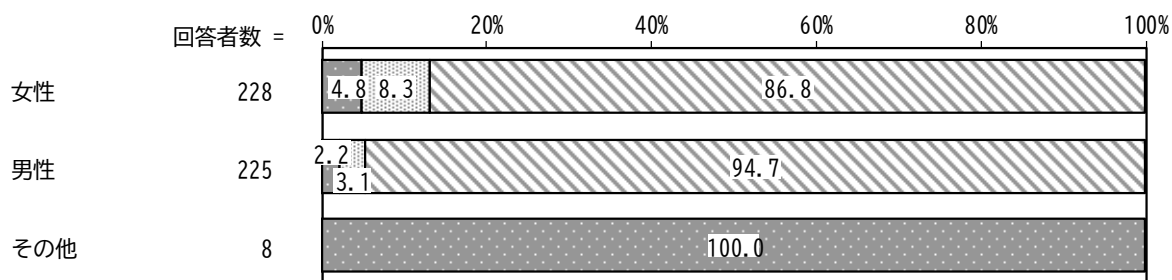
「ない」の割合が88.5%と最も高くなっています。

一方、「(自分の問題として) ある」の割合が5.1%、「(知人のことなど自分に関わりのある人
の問題として) ある」の割合が5.5%となっており、自分や自分に関わりのある人
の問題として、悩んだり、考えたりしたことのある割合が約1割となっています。



【性別】

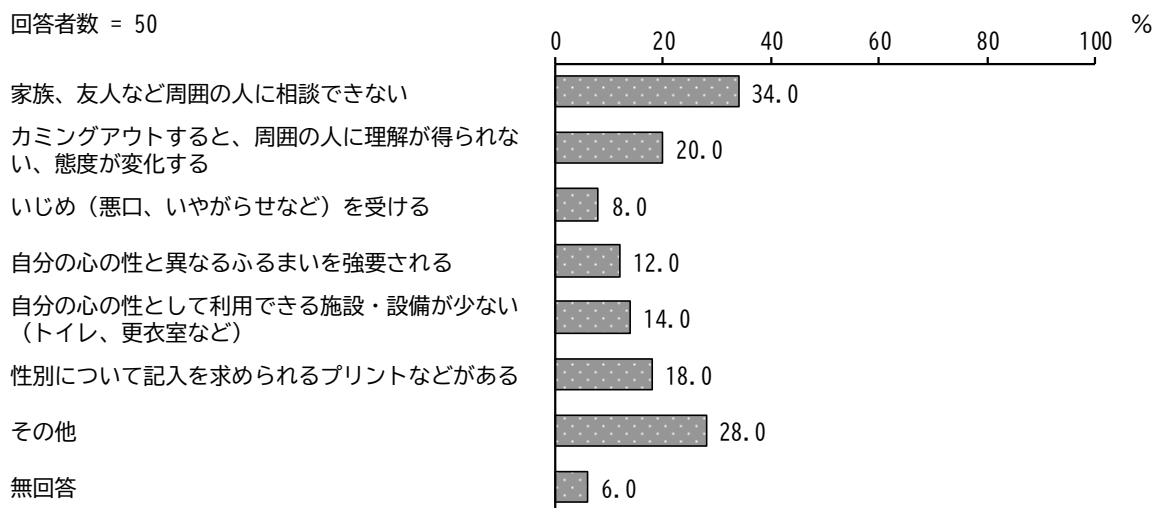
性別にみると、他に比べ、男性で「ない」の割合が高くなっています。



問13 問12で1または2と答えた方にお聞きします。どのようなことで悩んでいますか。あてはまる番号をすべて選んでください。(○はいくつでも)

「家族、友人など周囲の人に相談できない」の割合が34.0%と最も高く、次いで「カミングアウトすると、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する」の割合が20.0%、「性別について記入を求められるプリントなどがある」の割合が18.0%となっています。

回答者数 = 50



【性別】

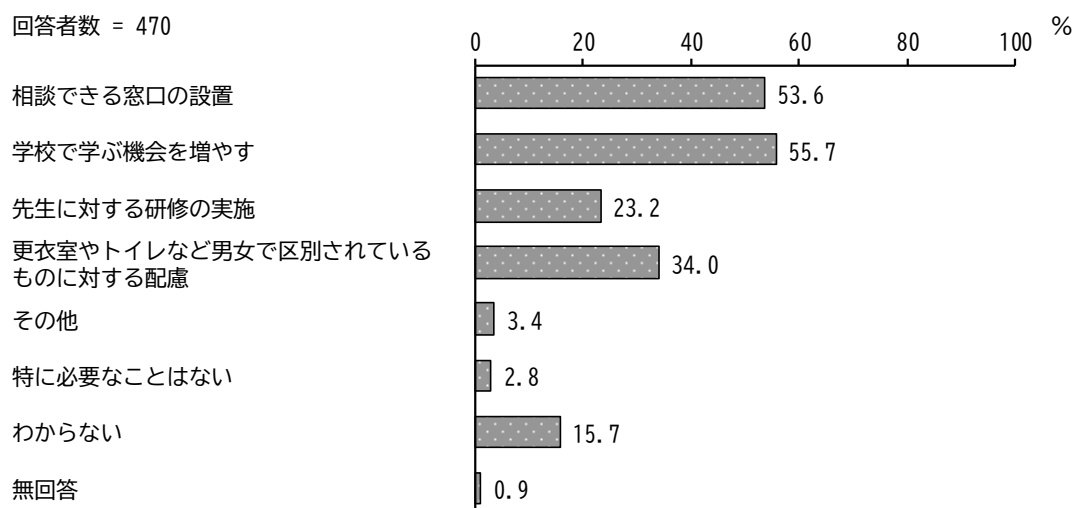
性別にみると、他に比べ、男性で「自分の心の性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ、更衣室など）」「家族、友人など周囲の人に相談できない」「いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける」「カミングアウトすると、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	家族、友人など周囲の人に相談できない	カミングアウトすると、周囲の人に理解が得られない、態度が変化する	いじめ（悪口、いやがらせなど）を受ける	自分の心の性と異なるふるまいを強要される	自分の心の性として利用できる施設・設備が少ない（トイレ、更衣室など）	性別について記入を求められるプリントなどがある	その他	無回答
全 体	50	34.0	20.0	8.0	12.0	14.0	18.0	28.0	6.0
女性	30	33.3	13.3	3.3	10.0	10.0	10.0	30.0	6.7
男性	12	41.7	25.0	16.7	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3
その他	8	25.0	37.5	12.5	12.5	12.5	62.5	12.5	—

問14 自分の身体の性、心の性または恋愛対象の性などで悩んでいる人が、安心して学べる環境にするためには、どのような支援が必要だと思いますか。あてはまる番号をすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「学校で学ぶ機会を増やす」の割合が55.7%と最も高く、次いで「相談できる窓口の設置」の割合が53.6%、「更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮」の割合が34.0%となっています。



【性別】

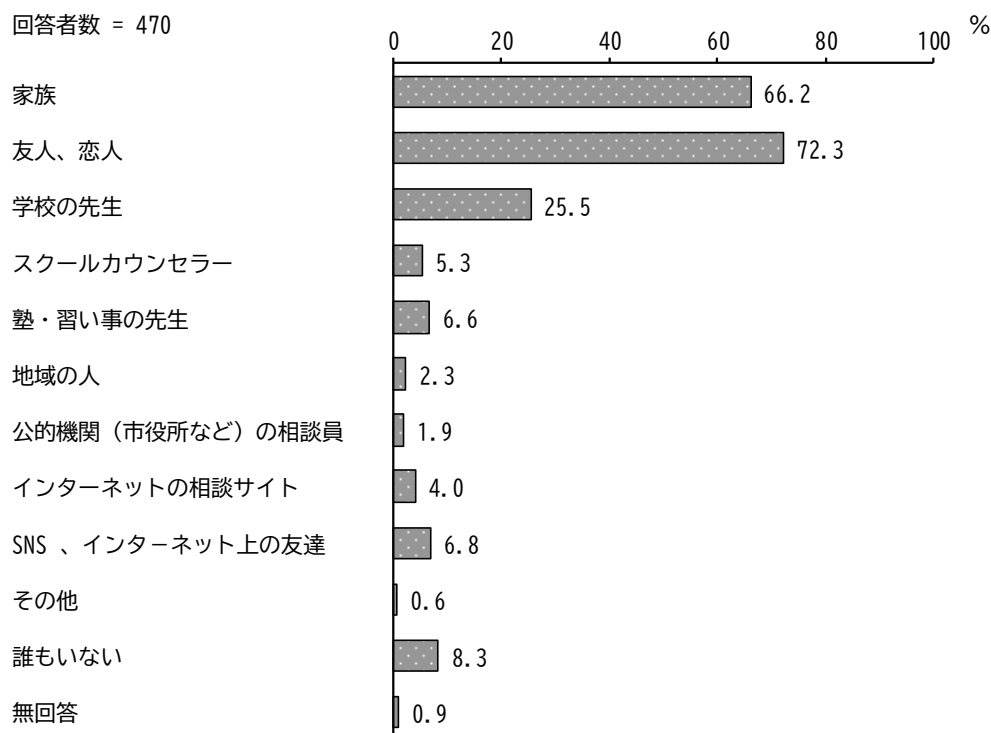
性別にみると、他に比べ、女性で「学校で学ぶ機会を増やす」「更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	相談できる窓口の設置	学校で学ぶ機会を増やす	先生に対する研修の実施	更衣室やトイレなど男女で区別されているものに対する配慮	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全 体	470	53.6	55.7	23.2	34.0	3.4	2.8	15.7	0.9
女性	228	55.3	62.7	23.7	40.4	3.1	1.8	11.8	—
男性	225	54.7	50.7	22.7	29.3	3.1	3.6	19.1	—
その他	8	25.0	37.5	50.0	25.0	25.0	12.5	25.0	—

問15 あなたは、LGBTQ、DVに限らず、相談したいことや聞いて欲しいことがあったとき、気軽に話せる相手がありますか。あてはまる番号をすべて選んでください。(〇はいくつでも)

「友人、恋人」の割合が72.3%と最も高く、次いで「家族」の割合が66.2%、「学校の先生」の割合が25.5%となっています。



【性別】

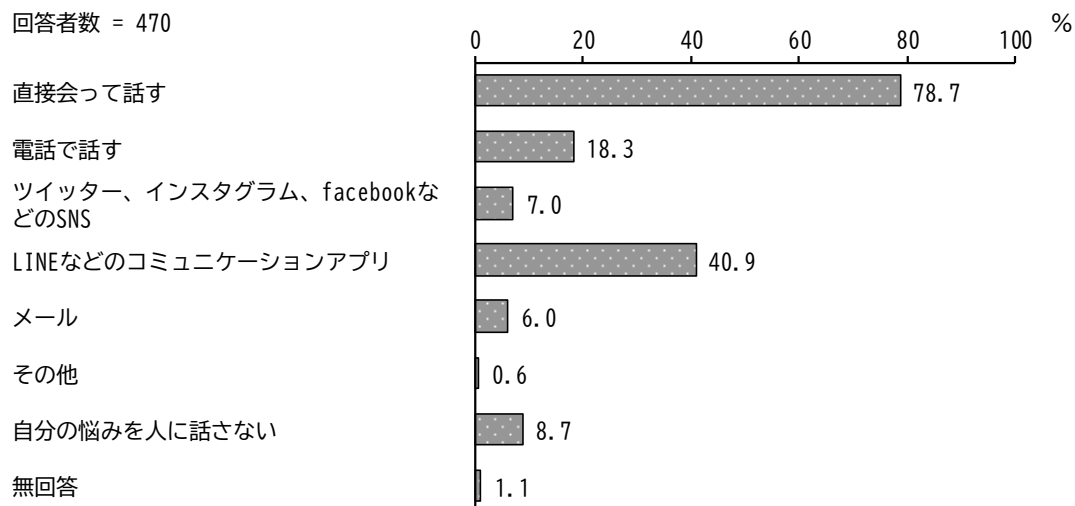
性別にみると、他に比べ、男性で「学校の先生」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	家族	友人、恋人	学校の先生	スクールカウンセラー	塾・習い事の先生	地域の人	公的機関(市役所など)の相談員	インターネットの相談サイト	SNS、インターネット上の友達	その他	誰もいない	無回答
全 体	470	66.2	72.3	25.5	5.3	6.6	2.3	1.9	4.0	6.8	0.6	8.3	0.9
女性	228	63.6	72.4	20.6	6.1	5.7	0.9	0.9	6.1	8.8	1.3	7.9	—
男性	225	69.8	73.3	31.6	4.9	7.6	4.0	3.1	2.2	4.9	—	8.9	—
その他	8	62.5	75.0	12.5	—	12.5	—	—	—	12.5	—	—	—

問16 あなたは、LGBTQ、DVに限らず、自分の悩みをどのように伝えますか。
あてはまる番号をすべて選んでください。(○はいくつでも)

「直接会って話す」の割合が78.7%と最も高く、次いで「LINEなどのコミュニケーションアプリ」の割合が40.9%、「電話で話す」の割合が18.3%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	直接会って話す	電話で話す	ツイッター、インスタグラム、facebookなどのSNS	LINEなどのコミュニケーションアプリ	メール	その他	自分の悩みを人に話さない	無回答
全 体	470	78.7	18.3	7.0	40.9	6.0	0.6	8.7	1.1
女性	228	81.6	18.4	8.8	41.7	2.2	0.9	8.3	0.4
男性	225	77.3	19.6	4.9	39.1	9.8	0.4	9.8	—
その他	8	62.5	—	25.0	75.0	—	—	—	—

問17 あなたの性別は、次のうちどれですか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「女性」の割合が48.5%、「男性」の割合が47.9%となっています。

